

第2章 第19次調査（地域連携プラザ地点）

第1節 調査の経過と概要

1. 調査に至る経緯

2012年度に、常三島キャンパスの北西部に位置する総合科学部2号館の音楽棟と美術棟の間に、地域連携プラザ新営の計画が示された。常三島キャンパスの位置する常三島地区は、近世徳島城下町跡の一つとして、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。『御山下島分絵図』（安政年間、個人蔵）などの実測分間絵図によれば、建設予定地は二つの武家屋敷地をまたぐ地点にあたることが明らかであり、範囲内に近世武家屋敷に関する遺構・遺物の存在が予測された。そこで、2013年6月6日から調査員3名が担当して、約1か月間の予定で発掘調査を実施することとなった。調査面積は458㎡である。

2. 調査組織

調査組織は以下の通りである。

調査主体 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室（室長・端野晋平）

調査担当 端野晋平（調査主任）

遠部 慎（埋蔵文化財調査室・助教）

山口雄治（埋蔵文化財調査室・特任助教）

調査補助 古川裕美・前田千夏（以上、施設マネジメント部・技術補佐員）

3. 調査の経過（第12図）

6月6日から重機掘削を開始し、11日からは調査区壁の精査、側溝の掘削を開始した。重機によって攪乱部分を除去した結果、砂層が調査区の全面に現れ、これを遺構検出面として、調査を進めることにした。12日は台風接近のため、作業を中止した。13日からは重機で除去できなかった攪乱土を人力で掘削しつつ、遺構の検出に努めた。そうした中で、調査区の北側において東西方向に走る1条の溝（SD1）を、調査区西壁・東壁と平面とで確認した。17日からは調査区平面図・土層断面図の作成と、それらの写真撮影を開始した。20～24日までは雨天のため、作業を中止した。25日からSD1の掘削を始めたが、26日はまたしても雨天のため、作業を中止せざるを得なかった。27日はSD1の掘削を終え、



第12図 作業風景

全景写真のための清掃を開始した。28日はまず全景写真の撮影を行い、その後で調査区平面図・土層断面図の作成、遺構の写真撮影を行った。それと同時に、撤収作業を開始した。7月1日には撤収作業を終え、すべての調査を完了した。

4. 調査の概要

本調査地点では1枚の遺構面が調査され、調査区の北側で東西方向に延びる1条の溝が検出された。この溝は、基盤となる整地層の時期、埋土から出土した遺物の時期などからみて、17世紀代に掘削され、19世紀後半には埋没していたものと判断される。溝の底面からは、土留め板の支え杭と思われる杭列が検出された。遺物は、溝と包含層から、陶磁器・土器、金属製品、ガラス製品、瓦、石製品、木製品が、コンテナで11箱分出土した。

第2節 調査の記録

1. 調査地点の位置

本調査地点は、徳島大学常三島キャンパスの北西部に位置する（第13図）。南東側には近世武家屋敷地形成以前の砂層が検出された第18次調査地点（総合科学部1号館エレベーター地点）、屋敷境溝などの遺構が検出された第16次調査地点（総合科学部3号館地点）、南側には近世常三島地区の盛土の南限が検出された第21次調査地点（地域創生・国際交流会館地点）がある。現在の地図と近世に作成された絵図とを重ね合わせてみると、本調査地点は二つの屋敷地を横断する場所に位置することがわかる。作成時期が比較的限定可能で、かつ屋敷主の名が記された絵図と、『徳島藩士譜』（宮本編1973）によって把握された、南北二つの屋敷地の主（禄高）の変遷は、以下の通りである^{註1)}。

元禄4年（1691）『御山下画図（綱矩様御代御山下画図）』（国文学研究資料館史料館蔵）

（北側）山川家（禄高不明）（南側）長坂家（禄高不明）

享保年間（1716～1735）『御城下絵図』（徳島大学附属図書館蔵）

（北側）倉知家（200石）（南側）寺沢家（350石）

天明年間（1781～1789）『御山下画図』（個人蔵）

（北側）倉知家（200石）（南側）寺沢家（350石）

文化・文政年間（1804～1830）『徳島御山下絵図』（徳島県立図書館蔵）

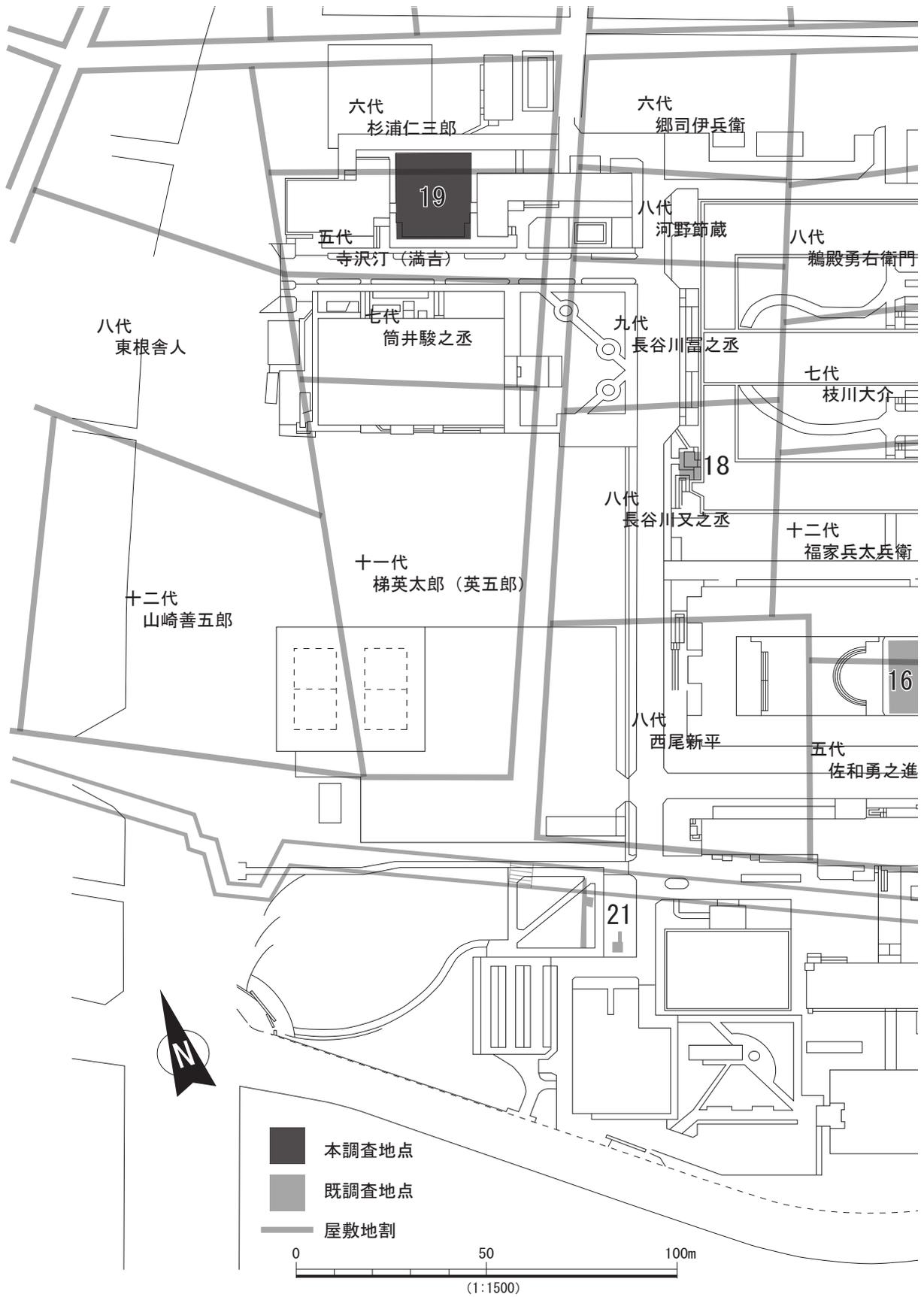
（北側）杉浦家（200石）（南側）寺沢家（350石）

安政年間（1854～1860）『御山下島分絵図』（個人蔵）

（北側）杉浦家（200石）（南側）寺沢家（350石）

明治2～3年（1869～1870）『徳島藩御城下絵図』（徳島県立博物館蔵）

（北側）杉浦家（200石）（南側）寺沢家（350石）



第13図 調査地点の位置

屋敷地割・屋敷主名は『御山下島分絵図』（安政年間、個人蔵）と徳島藩士譜（宮本編 1973）をもとに作成。

2. 基本層序

本調査地点の基本土層は3層に分けられる。以下、調査区西壁の土層断面（第14・15図）にもとづいて詳述する。なお、現地表面は標高約1.4 mであり、そこから標高0.4～－0.2 m辺りまでは近代以降の攪乱を受けていた。

I層：暗灰黄色（2.5Y5/2）細砂からなる。上面の標高は0.2 m前後、厚さは10～25 cmを測る。近世の整地層と考えられる。上面では近世の屋敷境溝が検出された。

II層：黄褐色（2.5Y5/3）細砂からなる。上面の標高は0.1～0.2 m、厚さは15～30 cmを測る。地山と考えられる。

III層：暗オリーブ色（5Y4/3）粗砂からなる。上面の標高は0.0 m前後を測る。地山と考えられる。

3. 遺構と遺物

SD1（第16～21図）

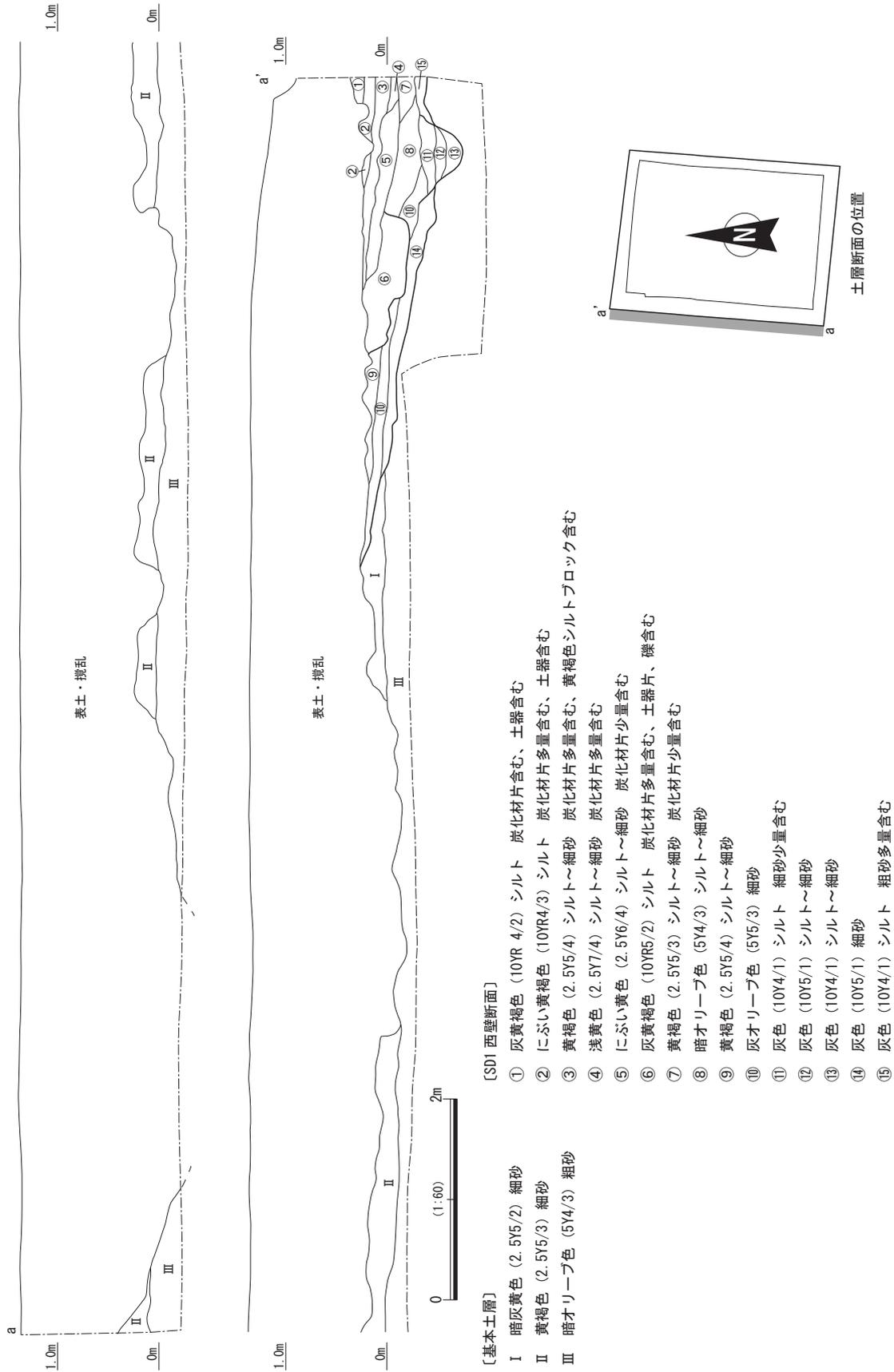
調査区の北部に位置する溝である。検出面の標高は－0.2～－0.6 mで、幅約3 m、東西に約18.0 m分検出した。断面形は、西壁土層断面で尖底の浅い皿形を呈し、深さ1.0 mを測る。底面の標高は西側で－0.63～－0.69 m、東側で－0.70～－0.74 mを測り、全体的にみても東側がやや低くなっている。このことからみて、溝の機能時、水は西から東へと流れていたと可能性があるが、高低差がわずかにすぎないため、周囲の調査により検証する必要がある。

埋土は、西壁土層断面で15層からなる。溝が掘削された後、灰色細砂・シルトからなる⑭・⑮層が堆積する。これらの層を切って尖底状に再掘削した後、⑬→⑫→⑪→⑩層の順に堆積する。これらの層は、灰色系のシルトあるいは細砂からなる。⑩～⑮層は、溝の機能時の自然堆積層と考えられる。⑧・⑨層が自然堆積した後、さらに再掘削され、そこに炭化材片を多量に含む⑥層が堆積するが、これは埋土からみて溝ではなく、性格の異なる別の遺構の可能性もある。⑥層に加え、炭化材片や黄褐色シルトブロックなどを含む黄褐色系のシルトあるいは細砂からなる①～⑦層は、人為堆積層の可能性が高い。

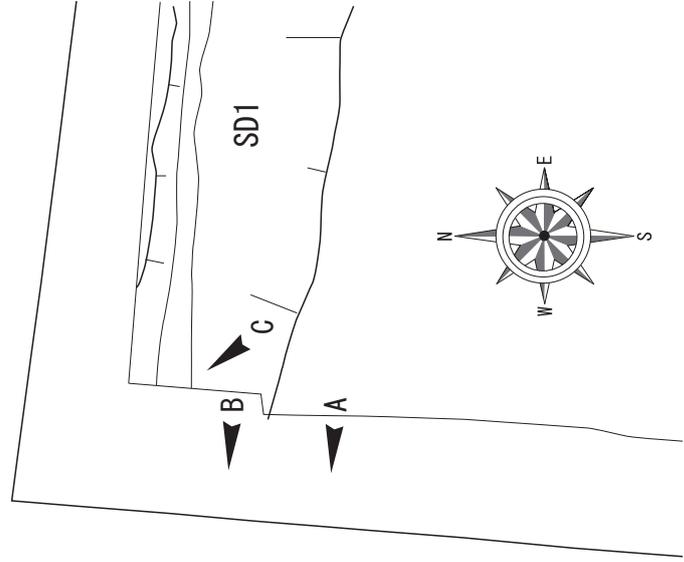
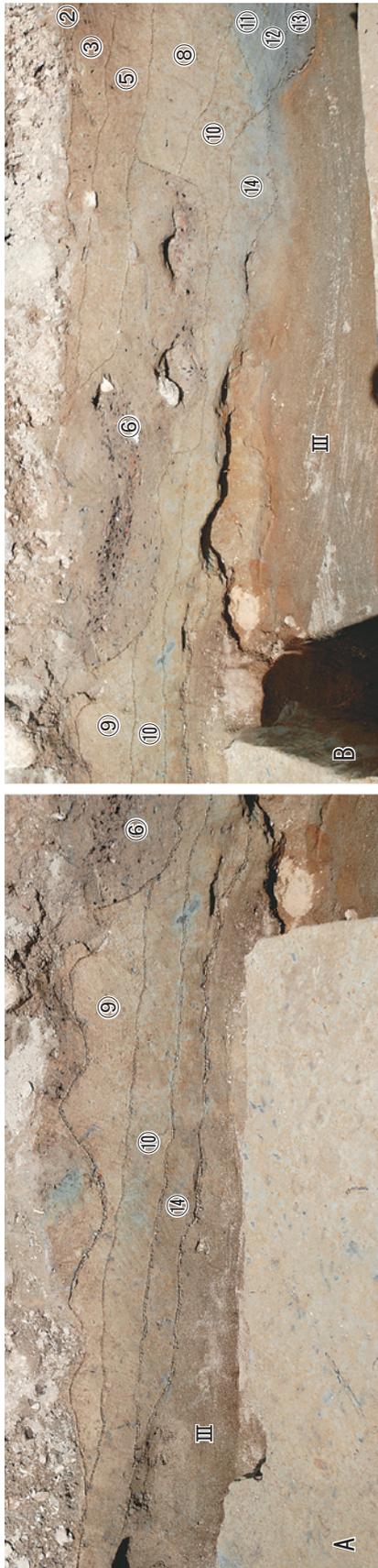
SD1は、⑩～⑮層を下層、それより上の層を上層として、掘削と遺物の取り上げを行った。上層からは、肥前系磁器、肥前系陶器、土師質土器が出土した（第20図）。肥前系磁器の広東碗（第20図1）は18世紀後半～19世紀前半、肥前系陶器（第20図5）は17世紀前半のものである。下層からは、瀬戸・美濃系陶器、肥前系陶器、土師質土器が出土した（第21図）。瀬戸・美濃系陶器の天目碗（第21図1）、肥前系陶器の絵唐津の皿（第22図2）は、17世紀代のものである。このように、上層が下層より新しい遺物を含んでいることは注意される。

この溝は、17世紀前半のものとみなせる初期伊万里の皿（第29図90）が出土したI層（整地層）を切っていることから、17世紀前半以降のどこかの時期で掘削されたとみられる。攪乱には、師範学校時代の建物基礎や建築部材などと思われる石材（緑色片岩）や木材が含まれていたことからみて、1898年に同学校関係の建物が建てられる前には、この溝は埋没していたものと考えられる。これらのことを総合すると、この溝は17世紀代に掘削され、19世紀後半には埋没していたものと考えられる。

なお、これまでの本遺跡の調査では、屋敷境が二条の溝に挟まれた掘り残し部分によって表現され

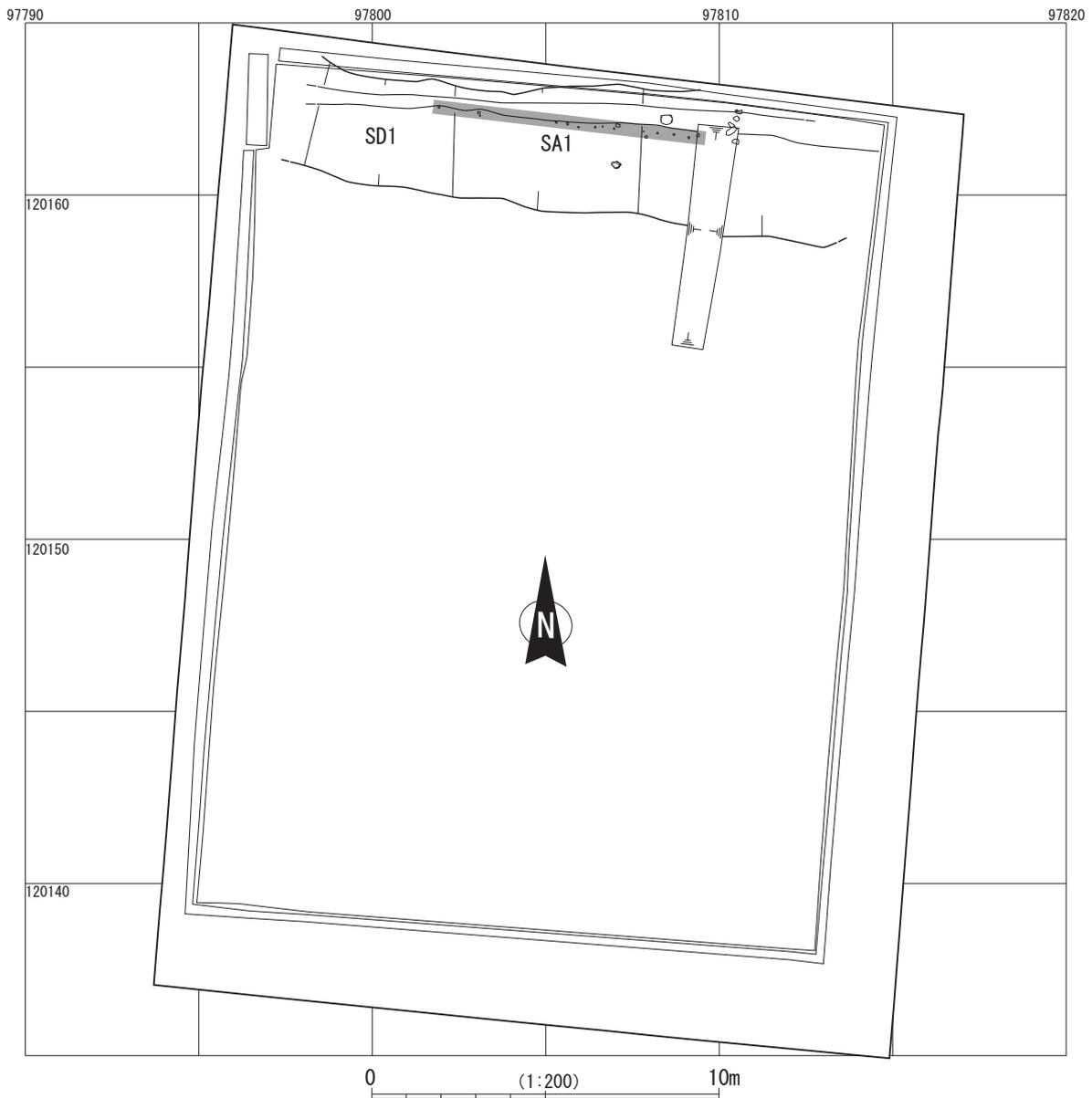


第14図 調査区西壁土層断面



撮影位置図

第15図 調査区西壁土層断面写真



第16図 検出遺構全体図

ていることが明らかとなっている。本調査地点付近に対しても、この原則を当てはめるならば、調査区外の北側に、もう1条、東西方向の溝が存在した可能性がある。

SA1（第22・23図）

SD1の南側下端付近で検出された杭列である。合計16本の杭が、SD1の下端と軸をそろえて、約7.5mにわたって東西に列をなす。杭の間隔は、最大で杭3・4間の219cm、最小で杭2・3間の9cmを測るが、多くが20～50cmに収まる。杭2・3間に加え、杭9・10間は14cm、杭11・12間は17cmと小さく、かつそれらの軸は南北に振れている。何らかの機能的な意味がありそうである。杭の太さは3～13cm程度を測る。第1次調査地点（工学部実習棟地点）では、溝にともなって土留めの板を支える杭列が検出されており（北條・定森編2006）、本杭列もそれと同様の機能を有したものと思われる。

検出された杭は合計16点であったが、多くは腐食が激しく、図化が可能なものは3点であった（第



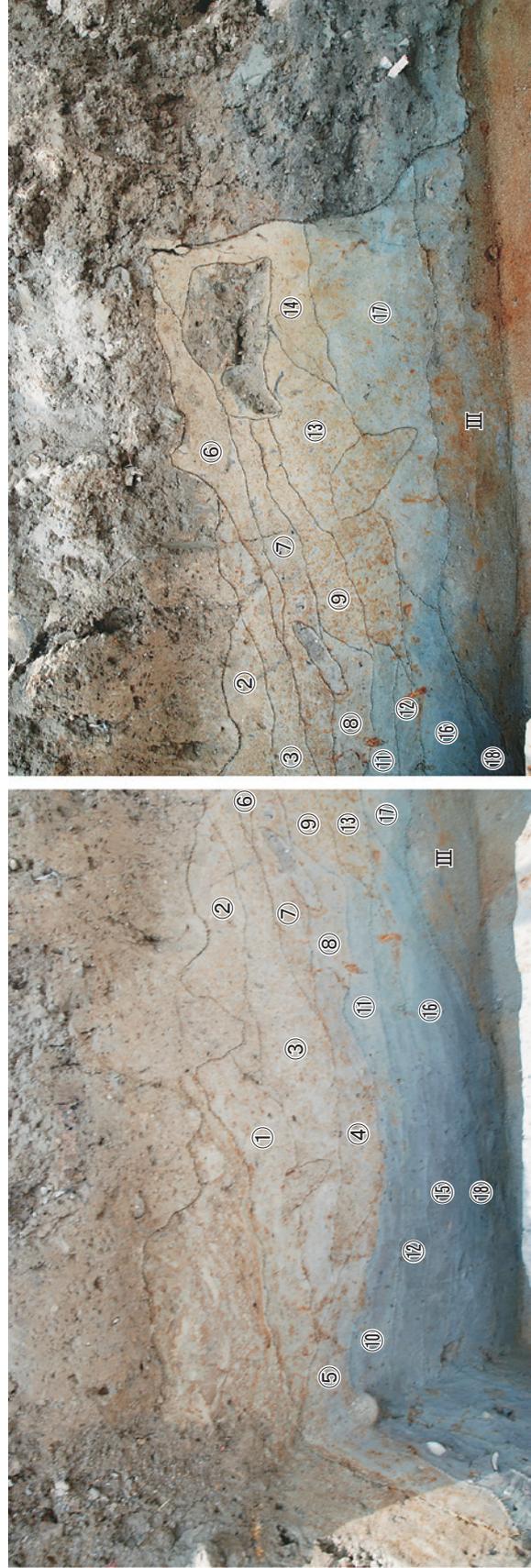
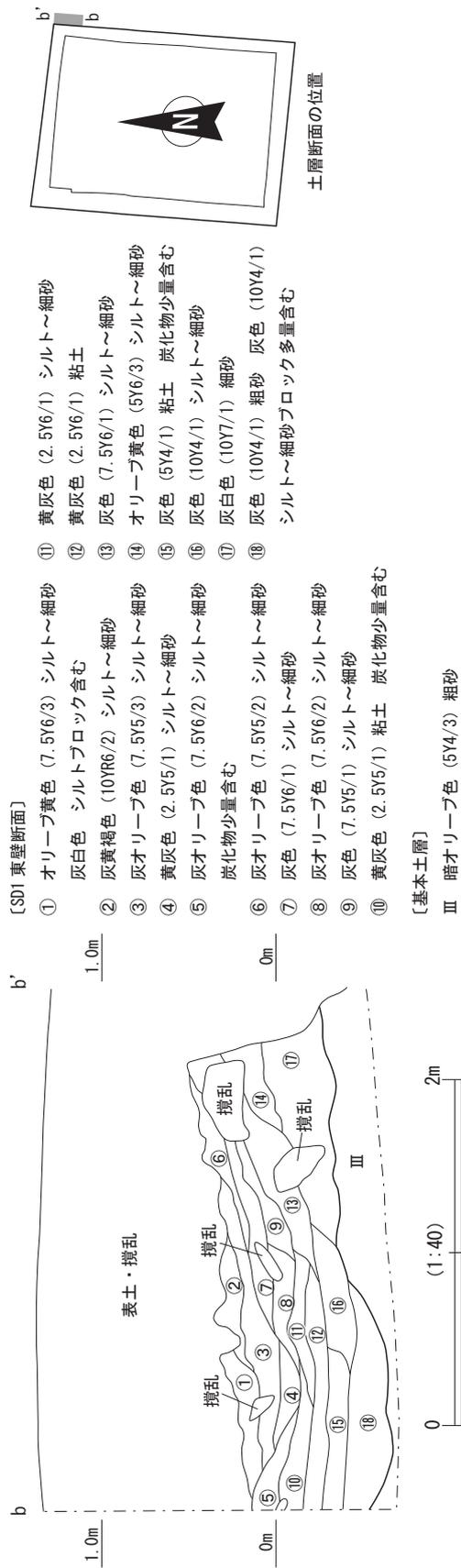
第17図 調査地点全景

23 図)。杭 1 点（第 23 図 2）の炭素年代測定を実施した結果、較正年代で 16 世紀～17 世紀代にかけての年代が得られた（第 4 章第 2 節）。これは、SD1 の掘削時期とも矛盾しない。

4. 包含層出土遺物（第 24～58 図・第 2～16 表）

包含層からは、陶磁器・土器、金属製品、ガラス製品、瓦、石製品が出土した。ここでは残存状態が良好で、図化し得たものだけを報告する。陶磁器には、肥前系磁器、瀬戸・美濃系磁器、肥前系陶器、備前系陶器、京・信楽系陶器、瀬戸・美濃系陶器、大谷焼、関西系磁器、堺・明石系陶器、景德鎮窯系磁器、珉平焼、丹波系陶器、萬古系陶器、舞子焼がある。構成比は、肥前系磁器（36%）が最も高く、それに瀬戸・美濃系磁器（29%）、肥前系陶器（14%）とつづき、そのほかは 1 割を下回る。瓦質土器には火鉢・焜炉、御厩系の焙烙、土師質土器には、関西系の焙烙がある。これらには、16 世紀中頃までさかのぼる可能性をもつものから近代以降のものまであり、年代の幅は広い。金属製品には、不明銅製品がある。ガラス製品には、インク瓶、ソーダ瓶がある。いずれも大正期～昭和初期のものである。瓦には、軒丸瓦、軒棧瓦、敷瓦がある。軒棧瓦には、「犬伏瓦組合」と刻印されたものが 1 点ある。瓦の再加工品もある。石製品には、硯、石筆がある。石筆は近代のものである。

（端野晋平）



第18図 SD1 土層断面（調査区東壁）



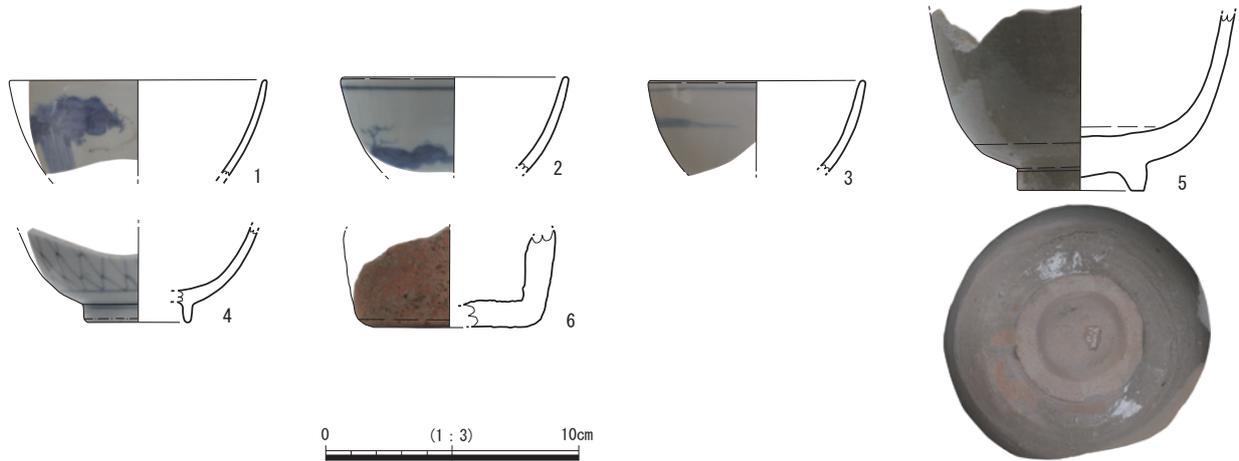
第19図 SD1 完掘状況

註

1. 根津寿夫氏（徳島市立徳島城博物館）からのご協力を得た。

文献

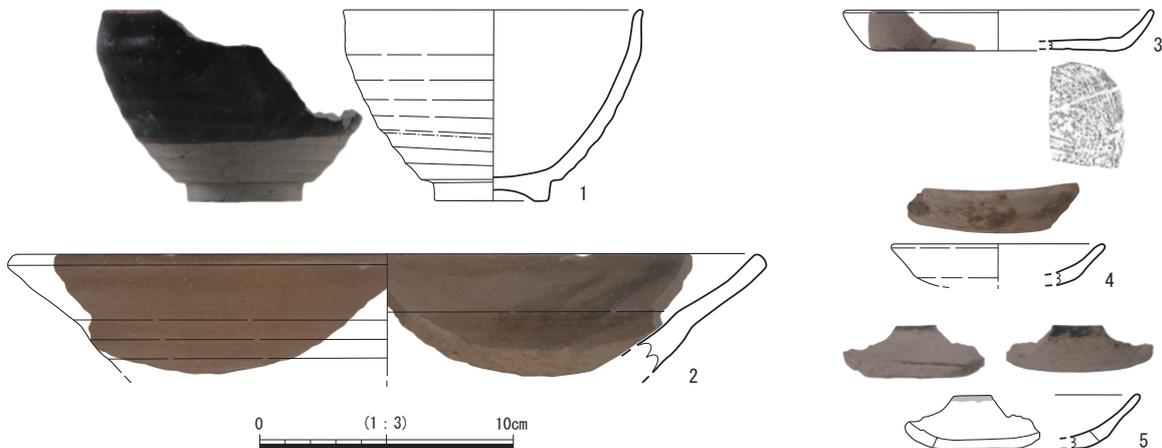
- 原祐一・小林照子編，2012．東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院受変電設備棟地点，東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 12．東京大学埋蔵文化財調査室，東京．
- 北條芳隆・定森秀夫編，2006．常三島遺跡 2．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．
- 宮本武史（編），1973．徳島藩士譜．徳島藩士譜刊行会，徳島．
- 森田克行，1984．屋瓦．撰津高槻城：本丸跡発掘調査報告書，高槻市文化財調査報告書第 14 冊．高槻市教育委員会，高槻．
pp. 129-142．



報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	磁器	碗	肥前系	(10.1)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SD1 上層	広東碗、1780 ~ 1840 年代
2	磁器	碗	肥前系	(8.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SD1 上層	
3	磁器	碗	肥前系	(8.4)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SD1 上層	
4	磁器	碗	肥前系	—	(2.0)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	SD1 上層	高台断面 U 字状、高台高が高い (0.7 cm)、高台砂附着
5	陶器	碗	肥前系	—	5.0	—	ロク口	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y7/1	SD1 上層	畳付砂目 (4箇所)、1610 ~ 1640 年代
6	土師質 土器	焼塩 壺	—	—	(6.0)	—	輪積み					淡赤橙色 2.5YR7/4 にふい赤橙色 10R6/4 (芯部) 長石 (極小~中、 非常に多い)、石英・ 結晶片岩・赤色斑 粒・黒色粒・金雲 母 (極小)	SD1 上層	内面被熱 外面：ナデ 内面：ユビオサエ

「—」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

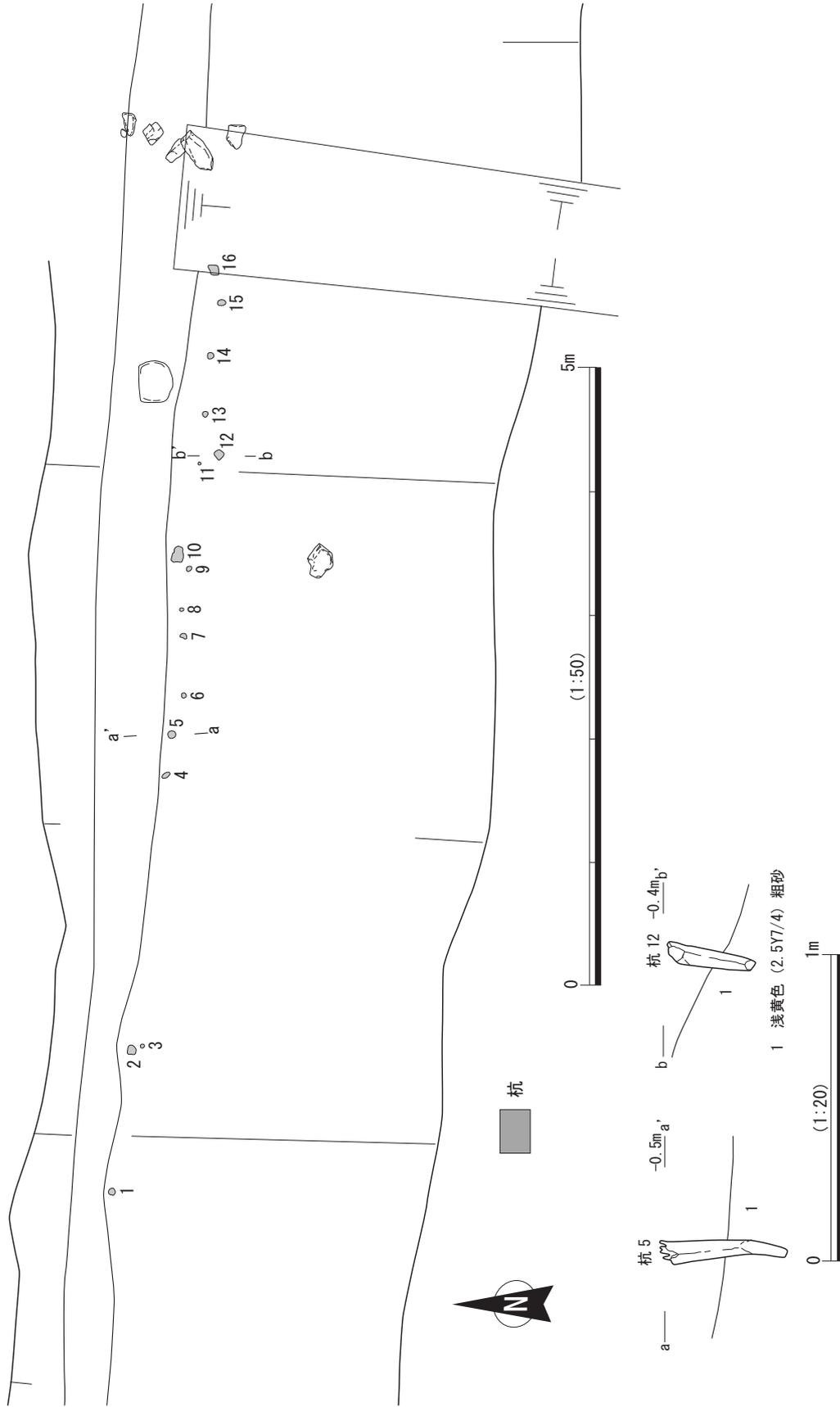
第20図 SD1 上層出土遺物



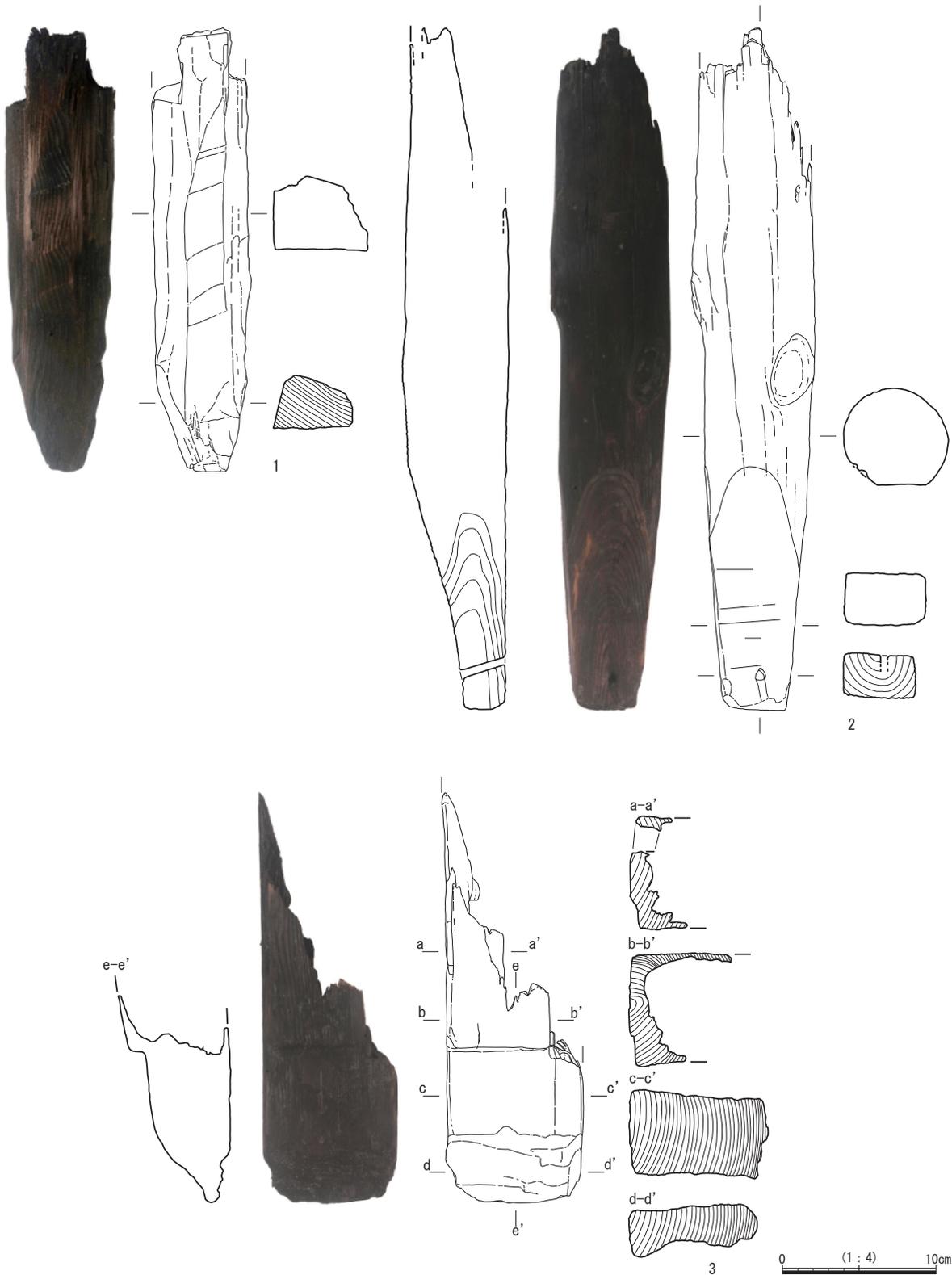
報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.6)	4.4	7.6	ロク口	鉄釉 (天目釉)				灰白色 N8/ (灰色味強い)	SD1 下層	天目碗、17世紀
2	陶器	皿	肥前系	(29.3)	—	—	ロク口	灰釉	鉄絵	手描き		灰白色 2.5Y7/1	SD1 下層	絵唐津、17世紀
3	土師質 土器	皿	—	(12.1)	(9.8)	1.6	ロク口					灰白色 10YR8/2 長石・金雲母 (極 小、少量)	SD1 下層	外面：回転糸切り難しのち板目状圧 痕あり (底部)、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ、板ナデ
4	土師質 土器	皿	—	(8.3)	—	—	ロク口					灰白色 2.5Y8/2 長石・金雲母・ 黒色粒 (極小、 少量)	SD1 下層	外・内面：回転ナデ
5	土師質 土器	皿	—	—	—	2.1	ロク口 輪積み					灰白色 2.5Y8/1 長石・結晶片岩・ 黒色粒 (極小、 少量)	SD1 下層	灯芯油痕 外・内面：回転ナデ

「—」は、「不明」を示す。() 内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第21図 SD1 下層出土遺物



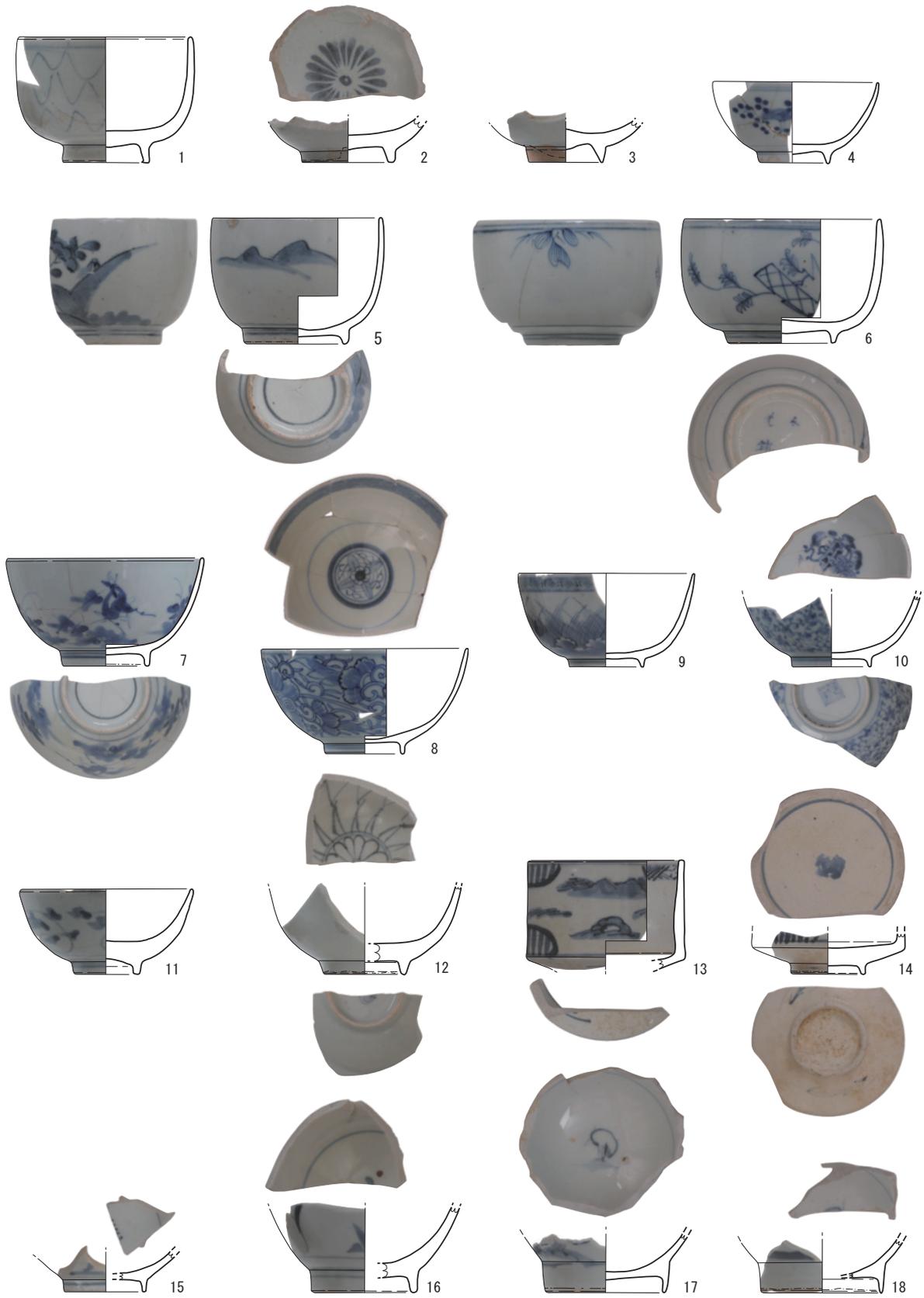
第22図 SA1 検出状況・土層断面



報告番号	遺物名	器種	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	樹種	遺構・層位	備考
1	杭	角杭	29.2	6.1	4.9	ツガ	SA1	芯去材
2	杭	丸杭	[44.8]	8.0	7.0	ツガ	SA1	先端の方に径7mmの穿孔1か所、樹皮有、芯持材
3	杭	角杭 (建築部材転用)	[27.0]	9.0	5.2	ツガ	SA1	19 × 3 cmの柄穴1か所、芯去材

* [] は残存部のサイズを示す。

第23図 SA1に用いられた杭

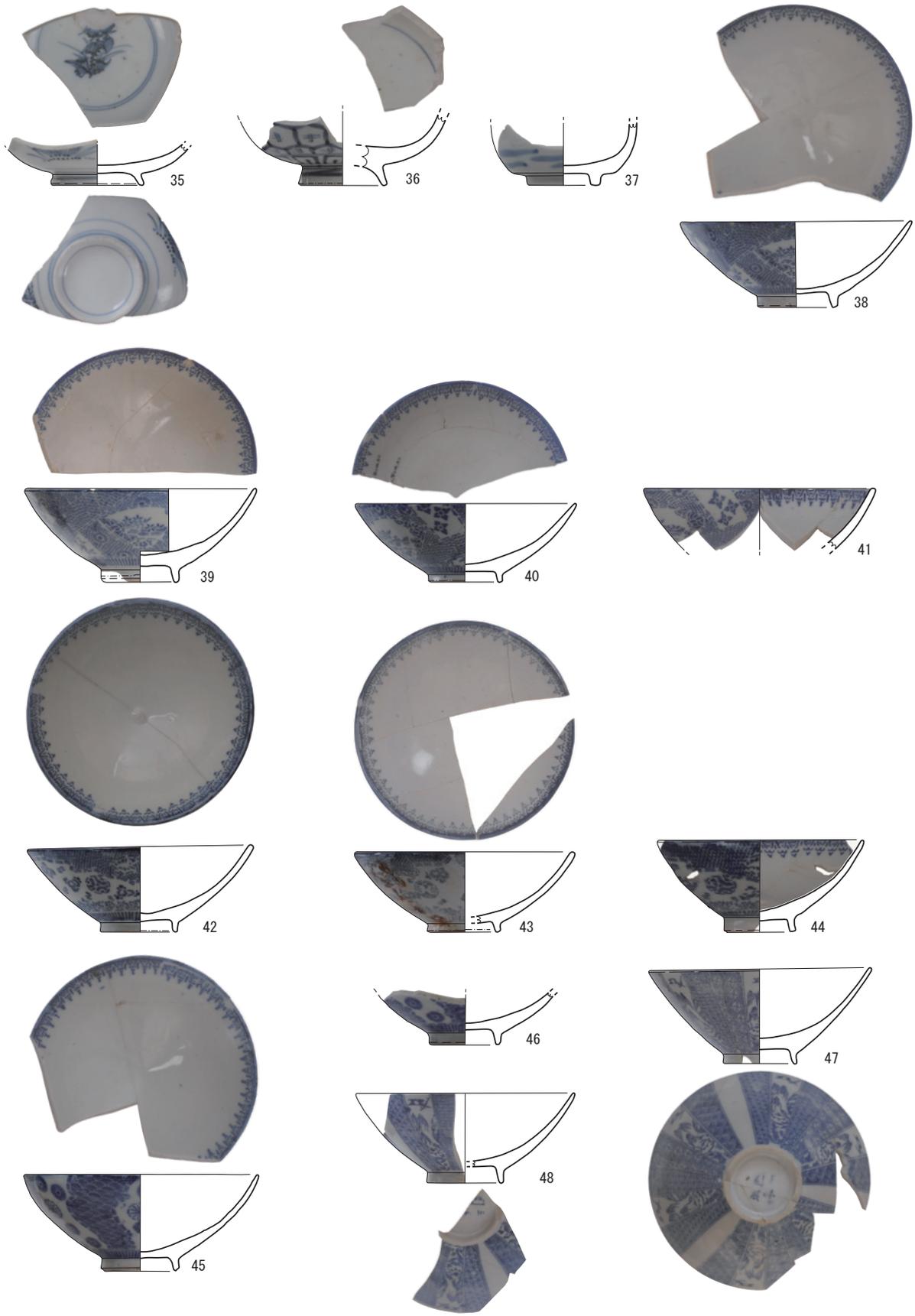


第24図 包含層出土遺物（1）

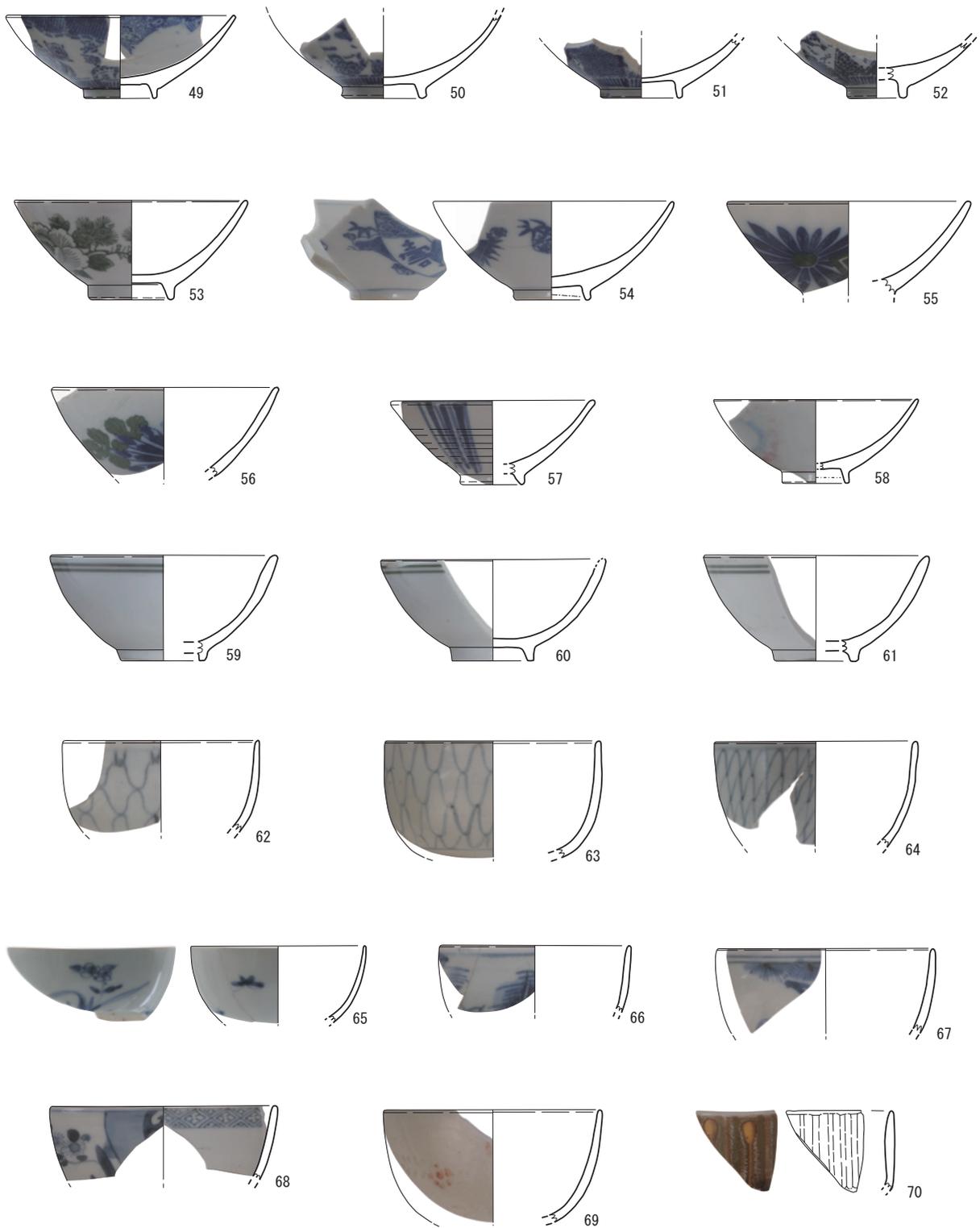


第25図 包含層出土遺物(2)

0 (1:3) 10cm

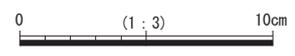
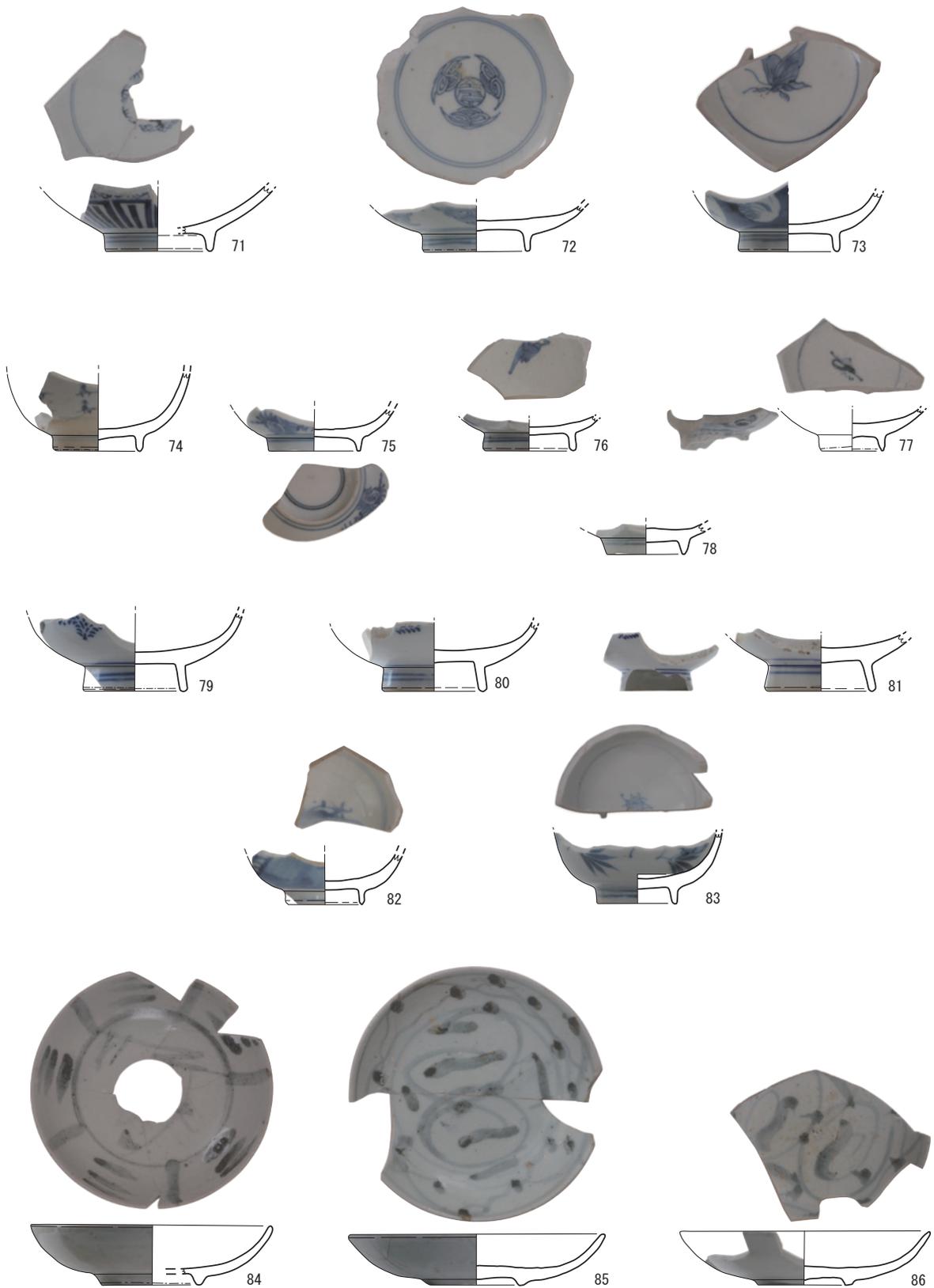


第26図 包含層出土遺物（3）

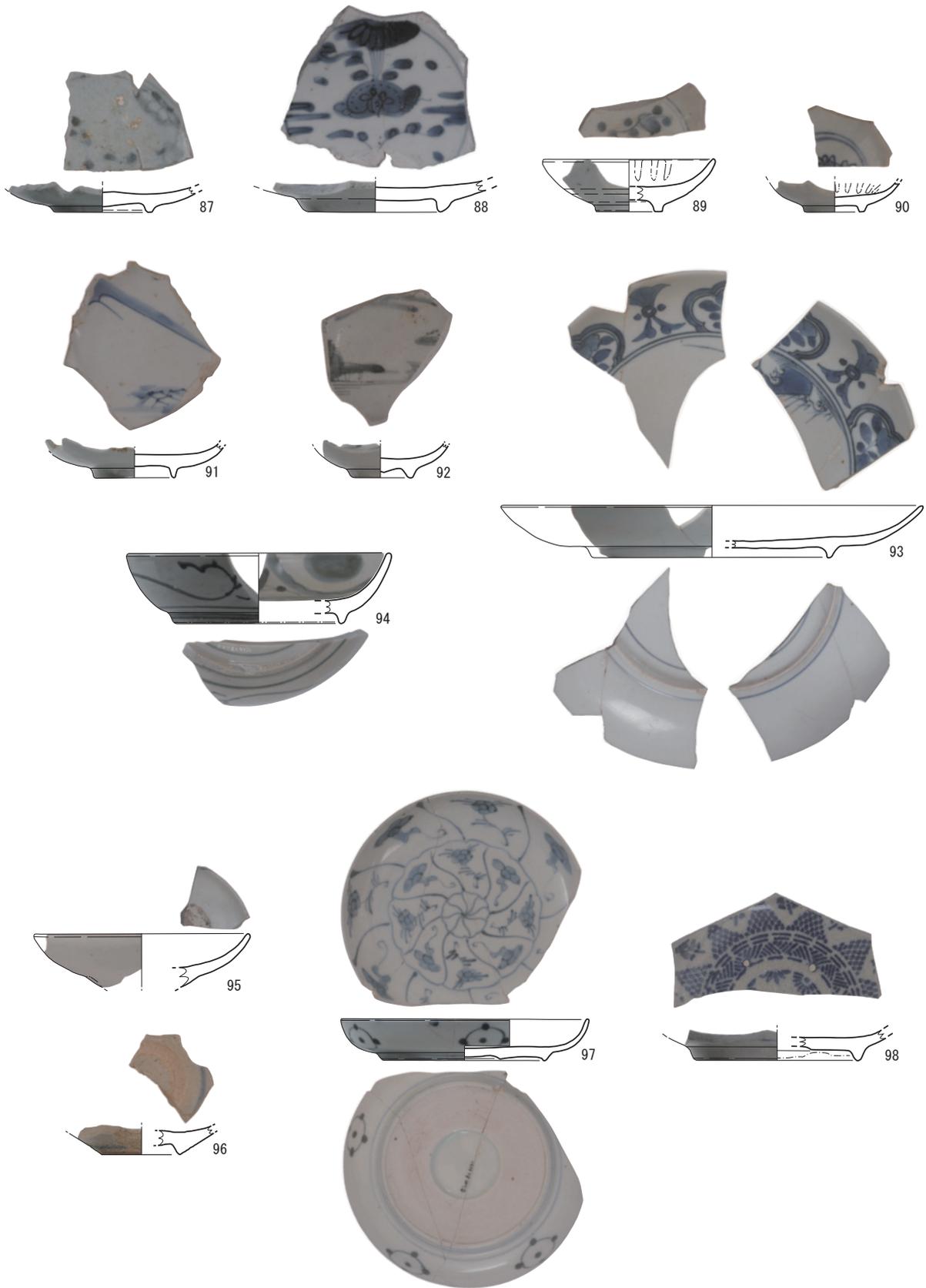


第27図 包含層出土遺物(4)



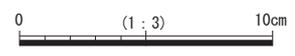
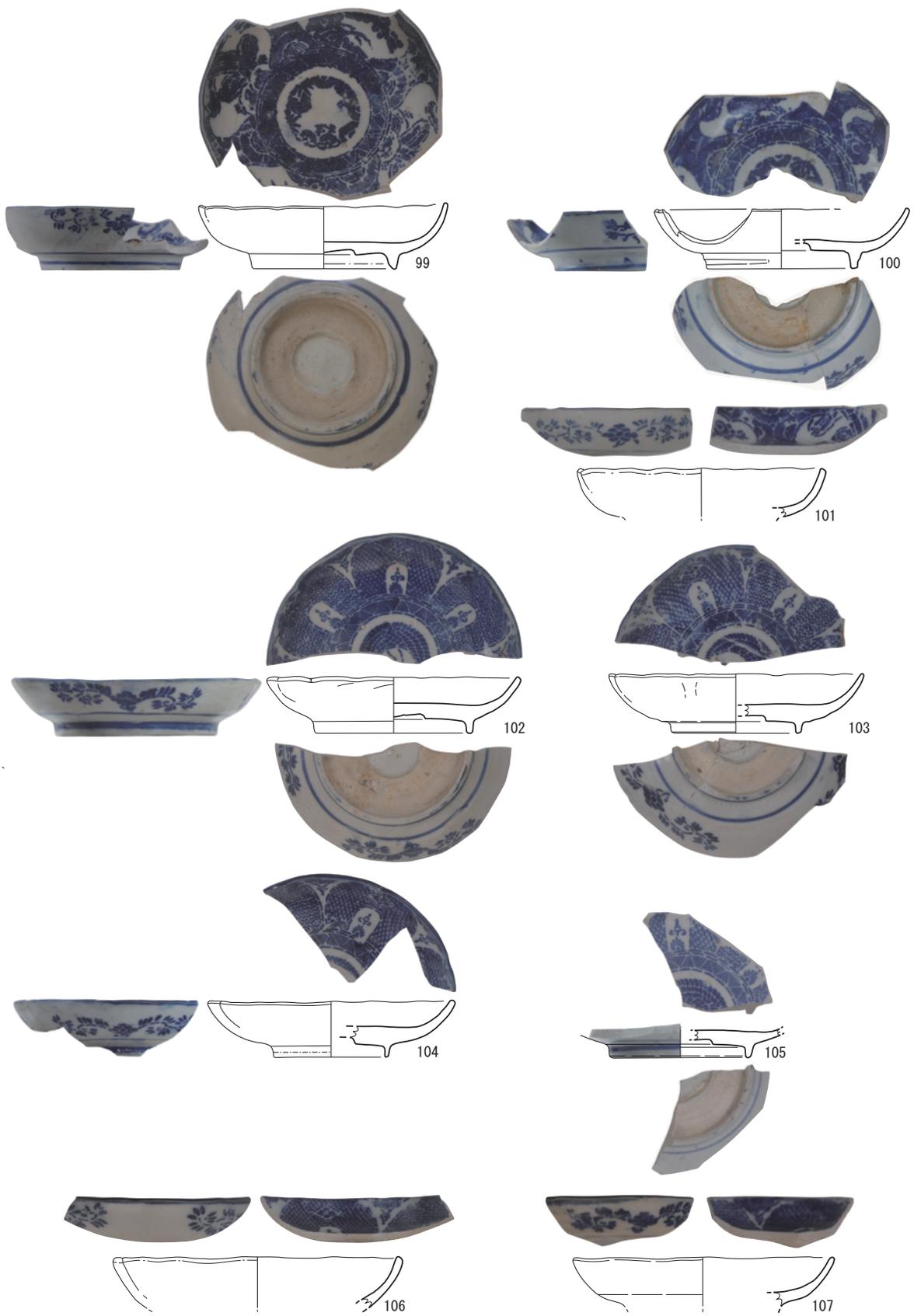


第28図 包含層出土遺物（5）

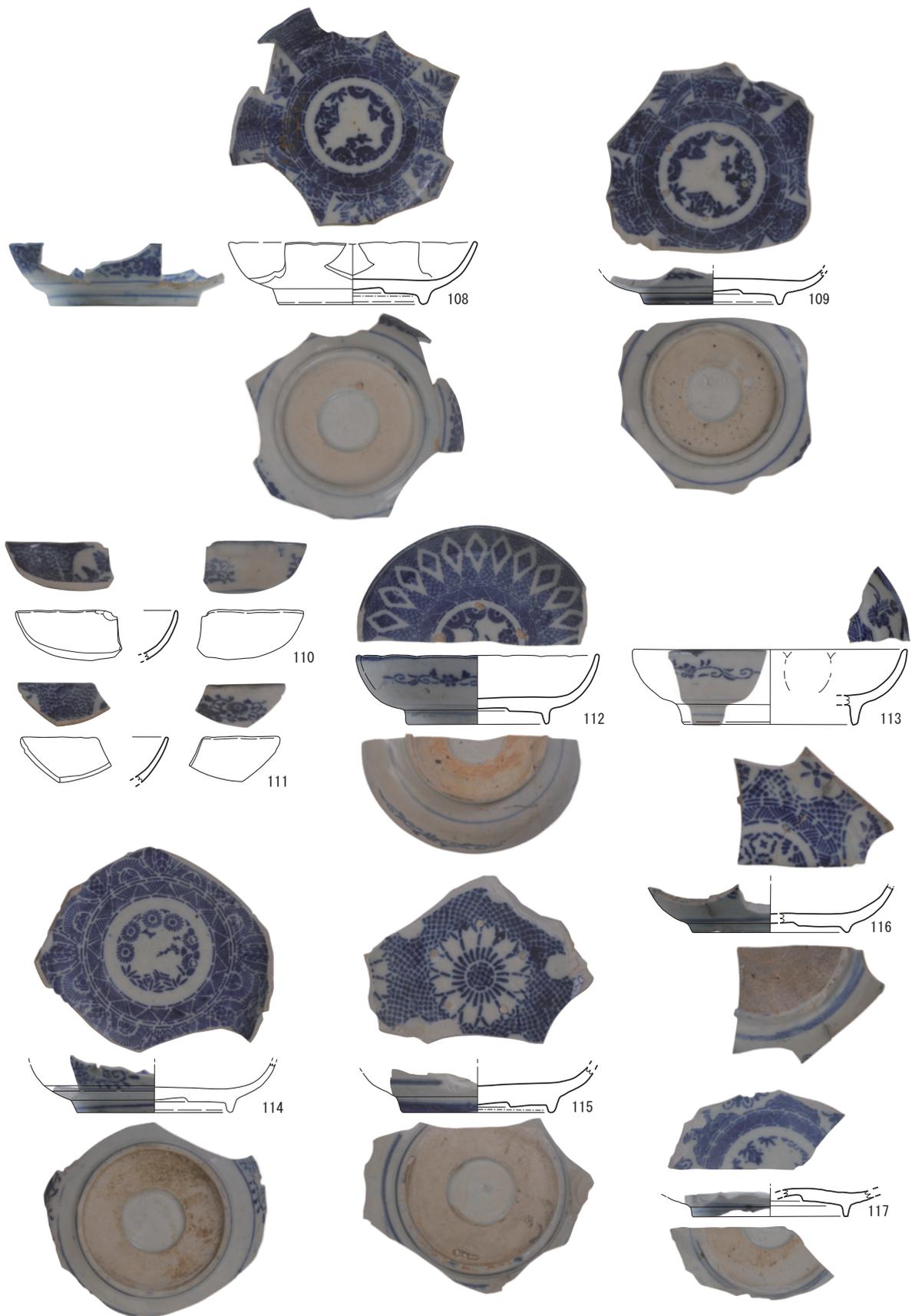


第29図 包含層出土遺物(6)

0 (1:3) 10cm

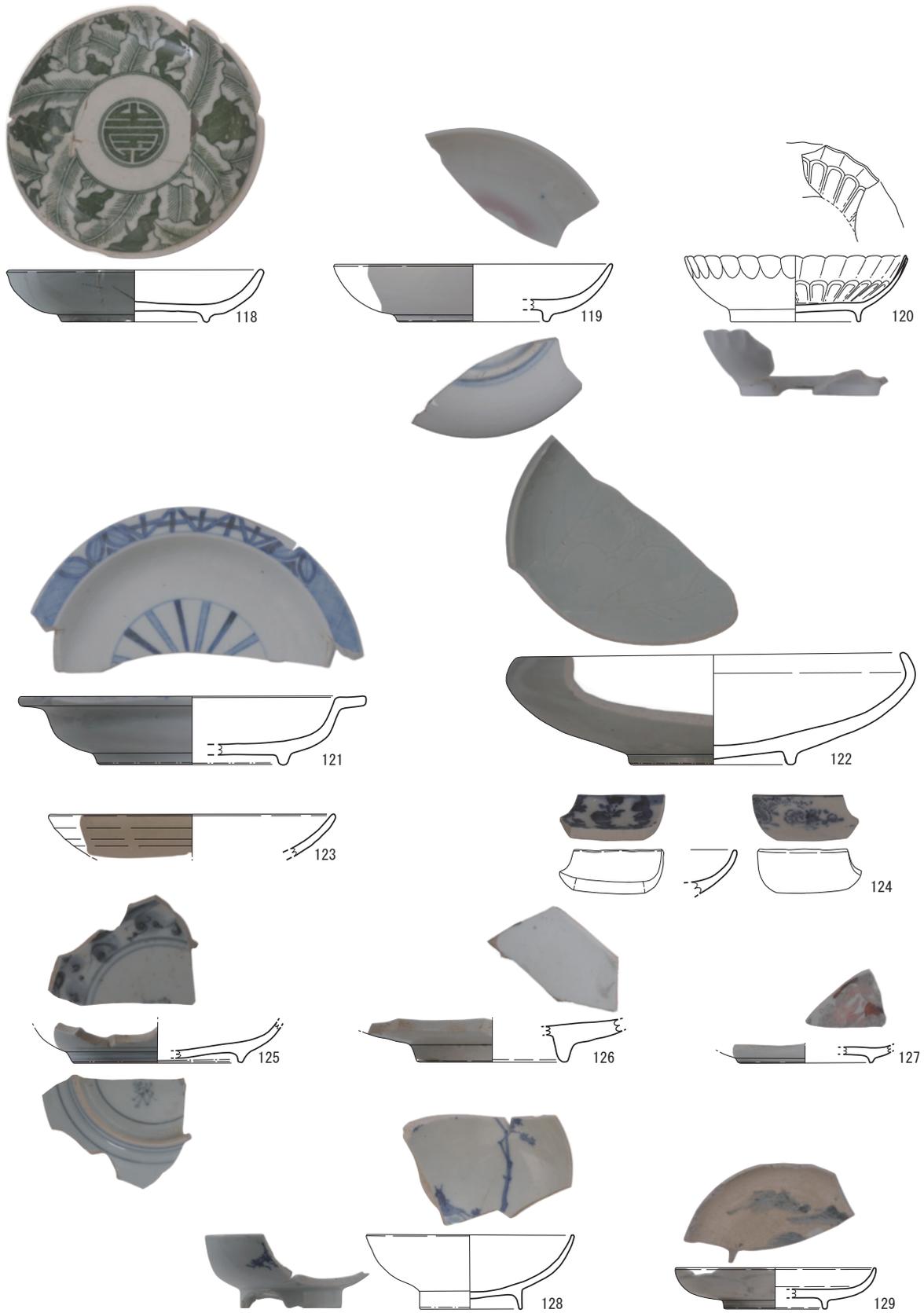


第30図 包含層出土遺物（7）



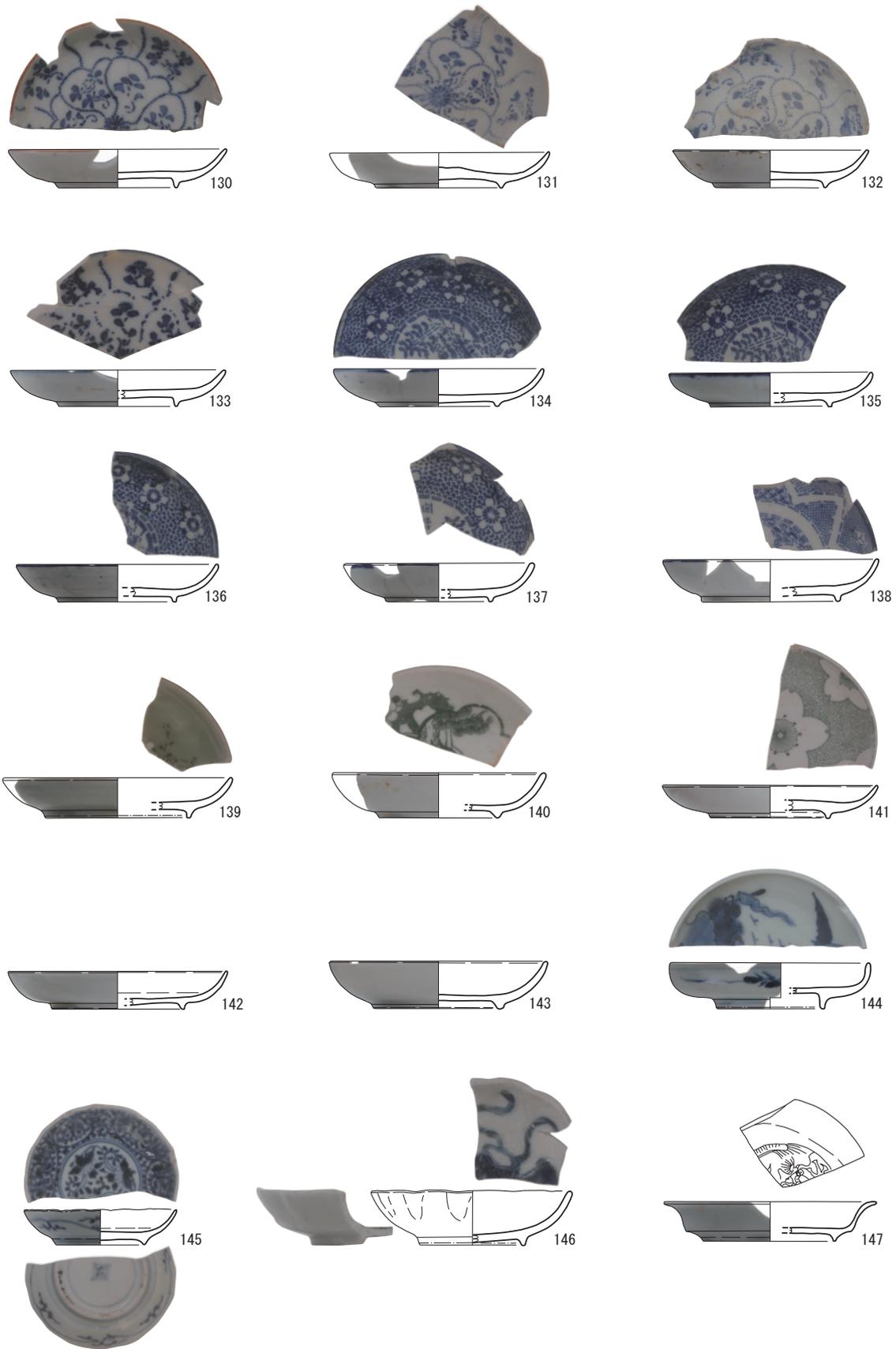
0 (1 : 3) 10cm

第31図 包含層出土遺物(8)

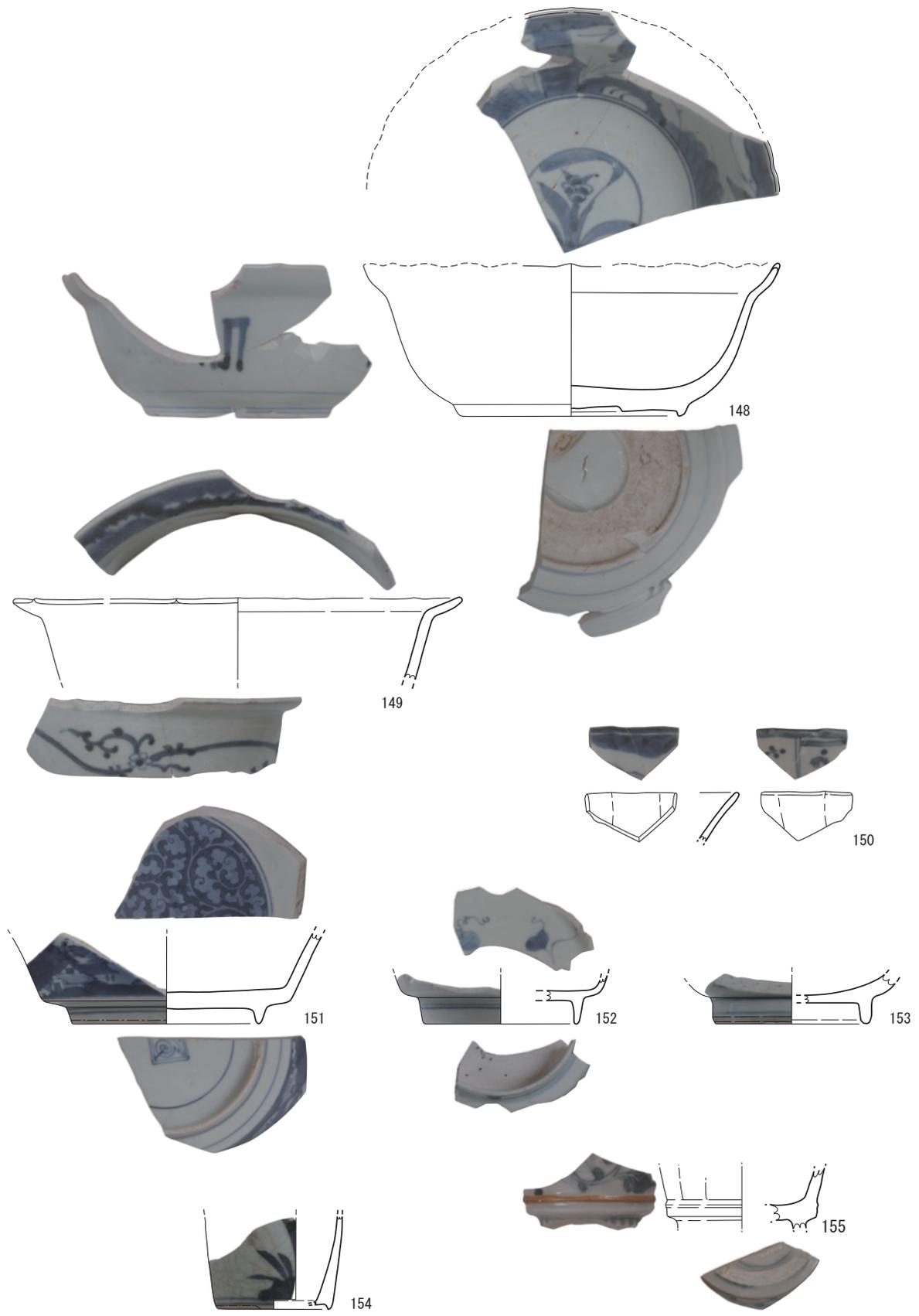


0 (1:3) 10cm

第32図 包含層出土遺物（9）



第33図 包含層出土遺物(10)

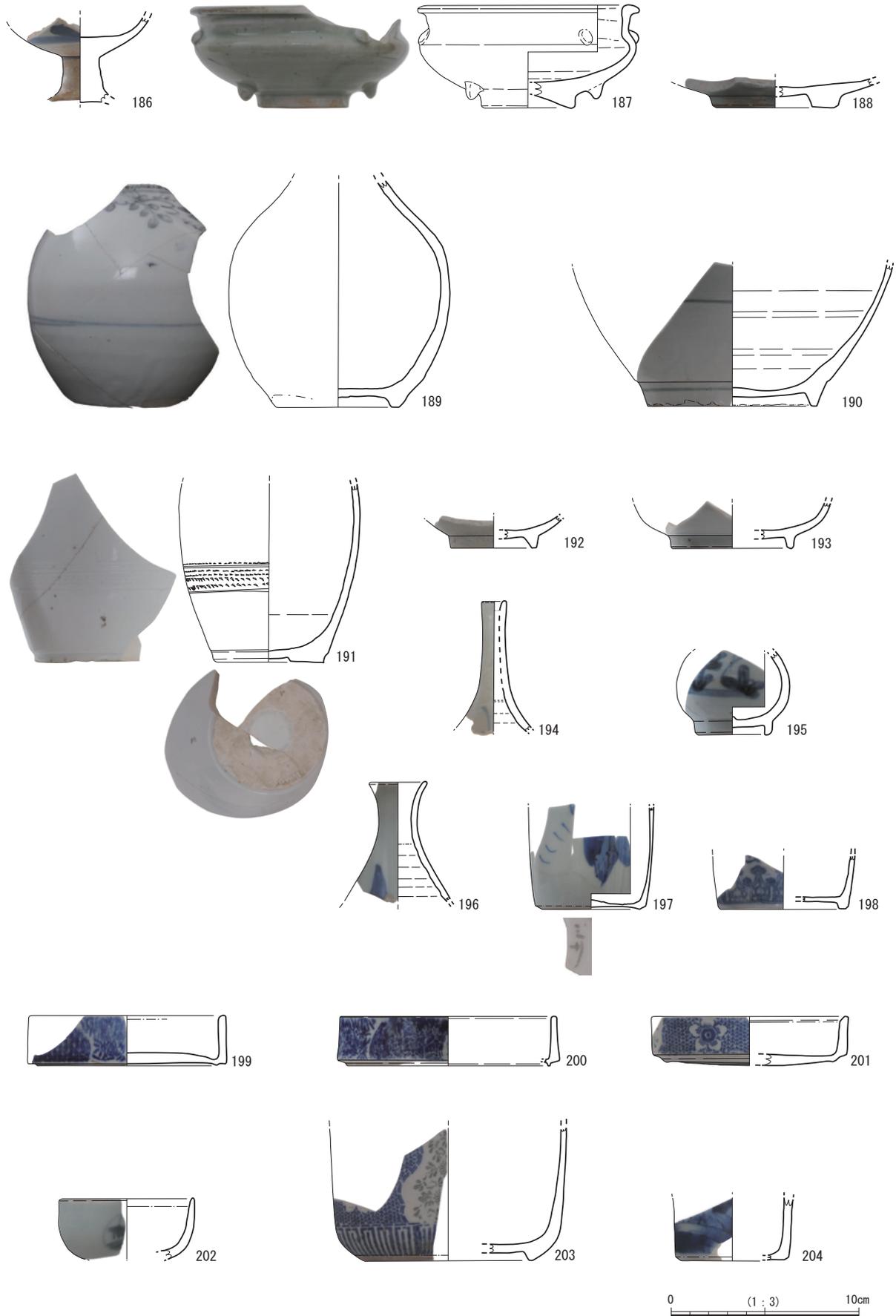


第34図 包含層出土遺物（11）

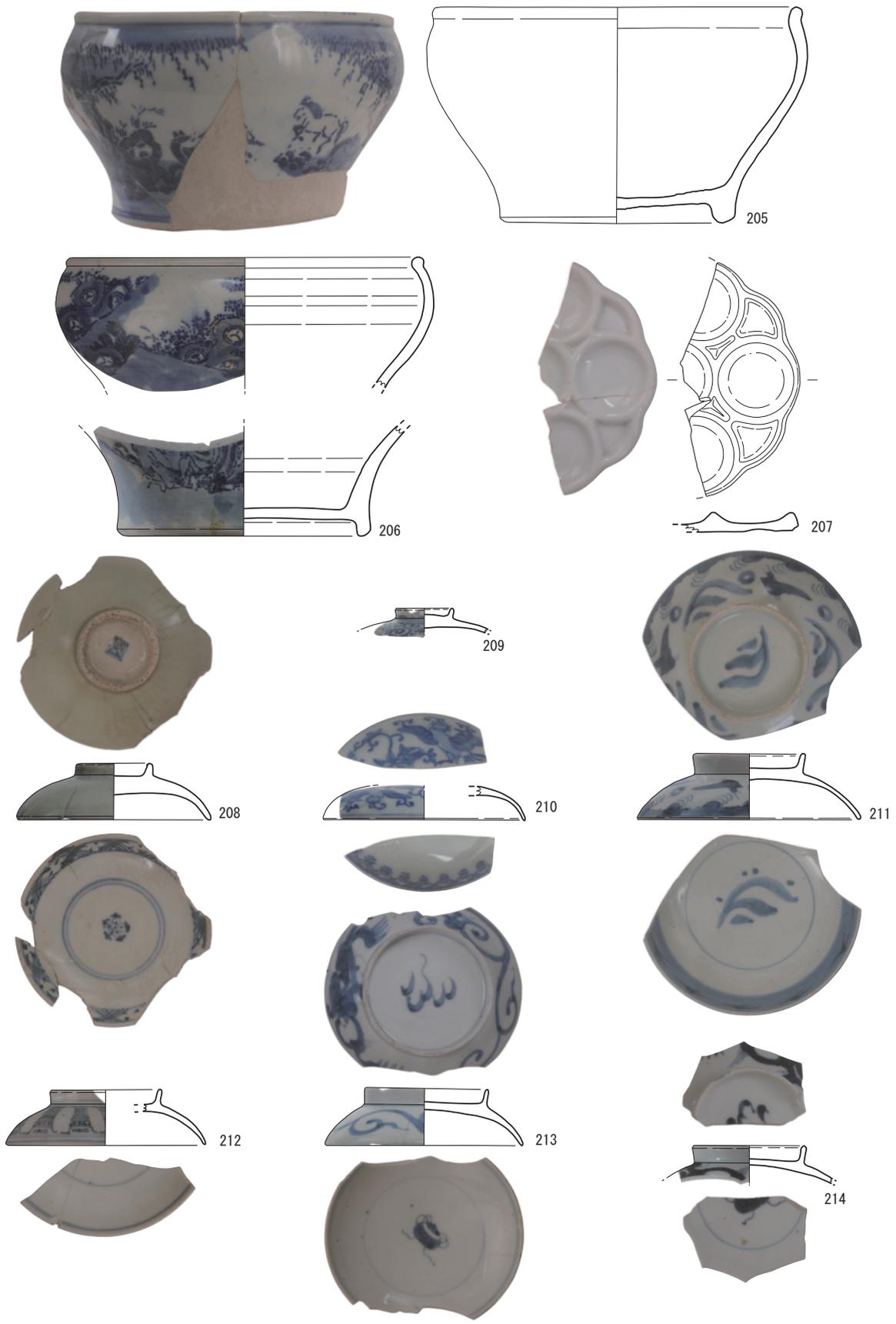


0 (1 : 3) 10cm

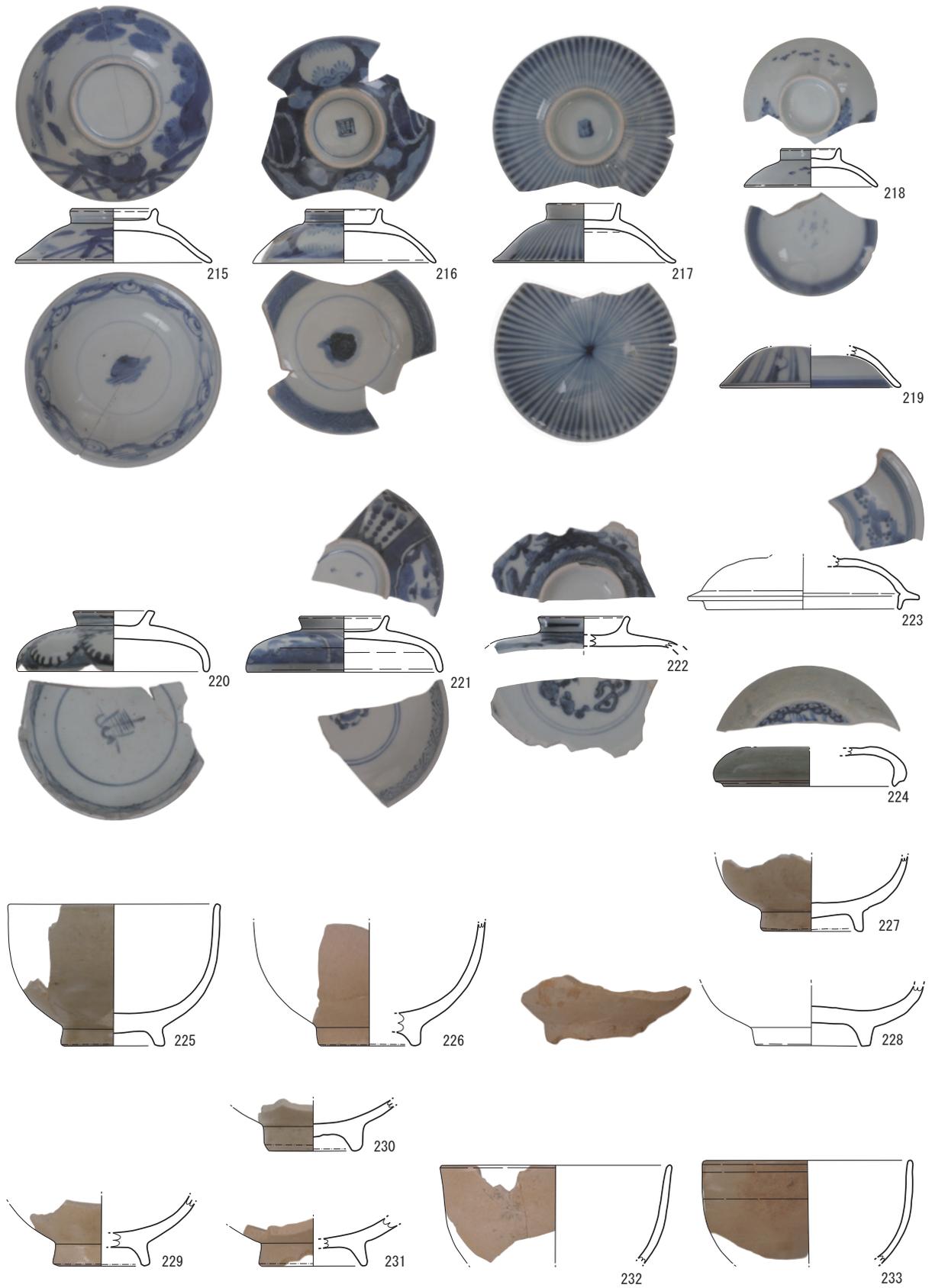
第35図 包含層出土遺物(12)



第36図 包含層出土遺物（13）

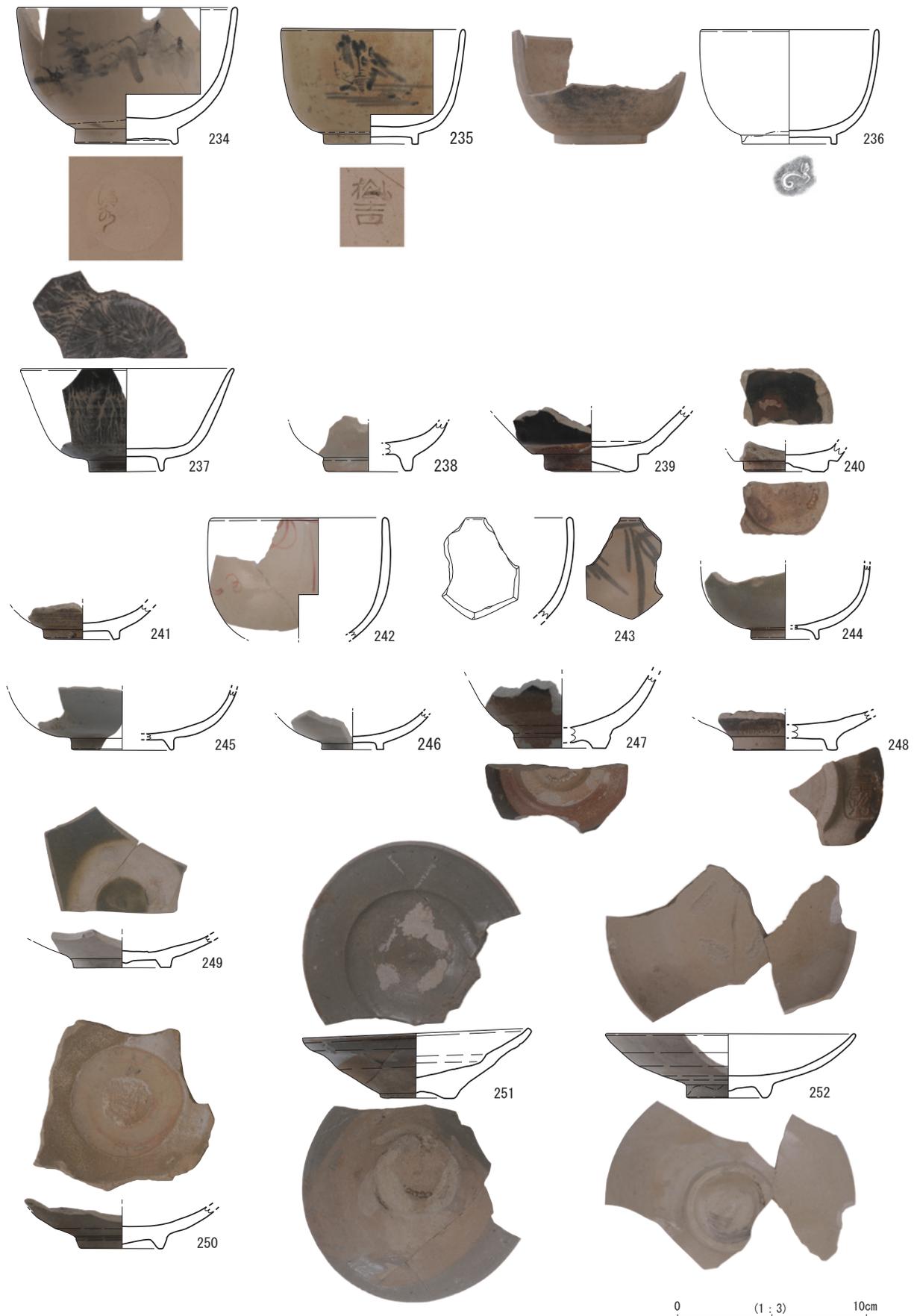


第37図 包含層出土遺物(14)



0 (1:3) 10cm

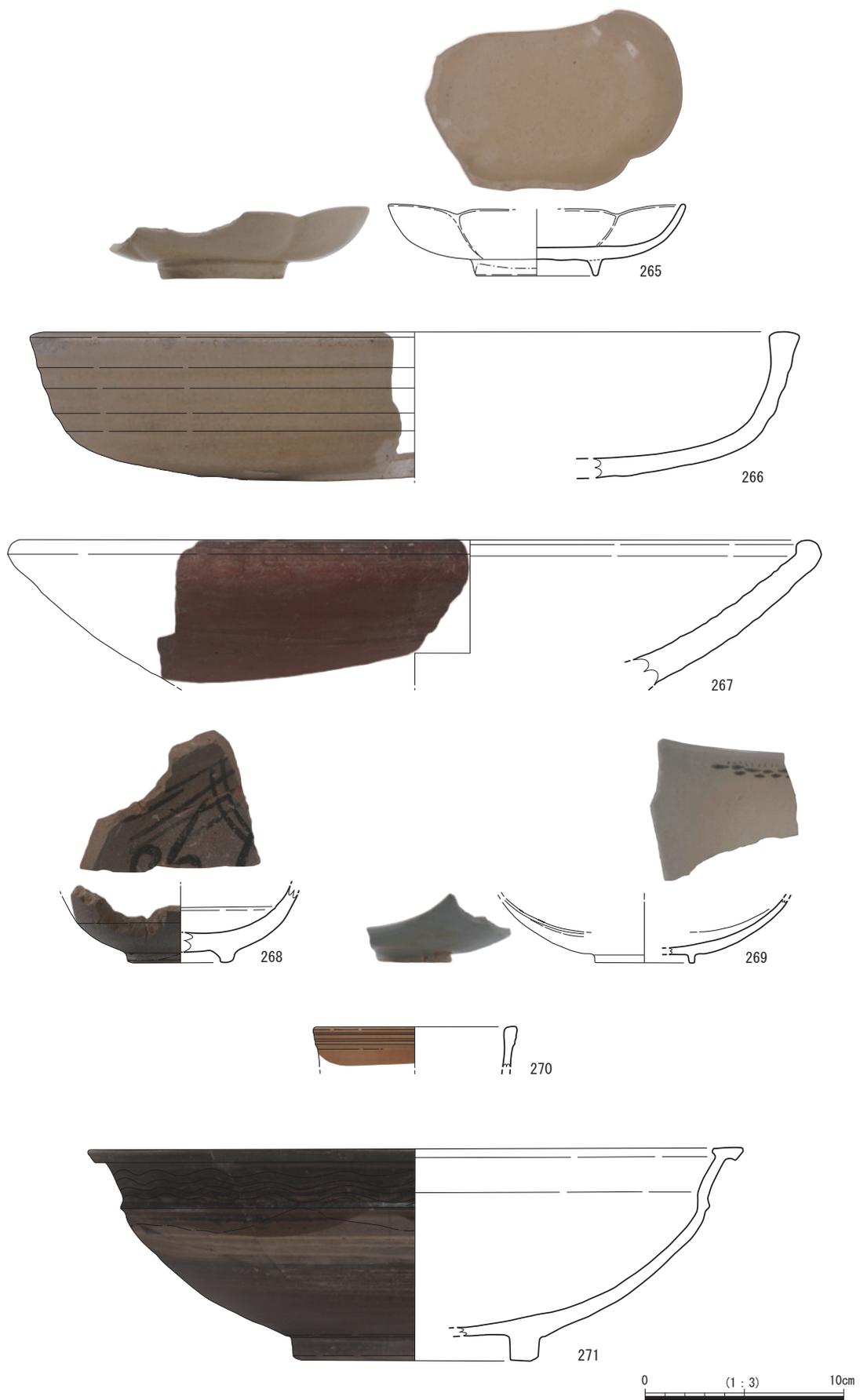
第38図 包含層出土遺物（15）



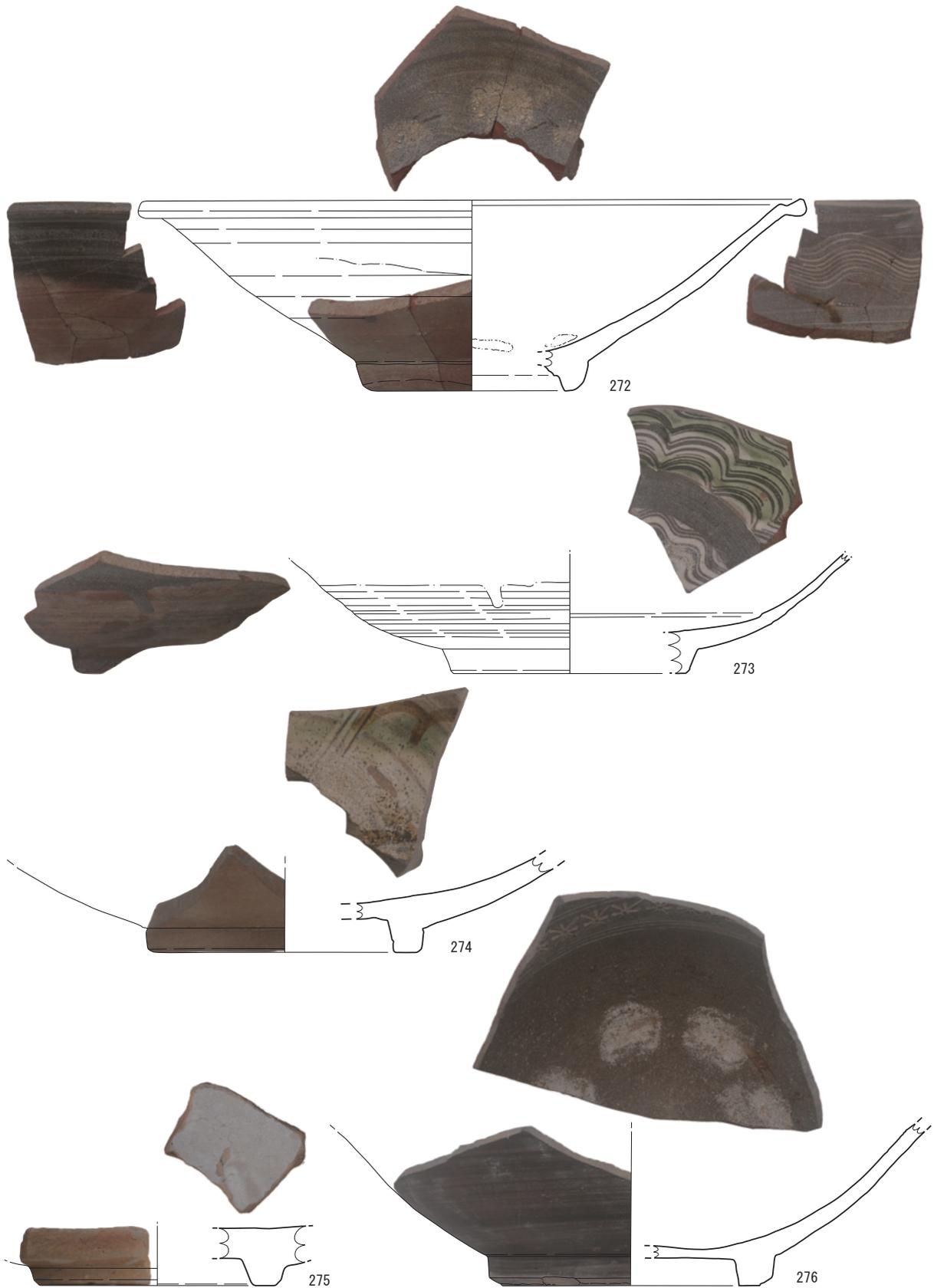
第39図 包含層出土遺物 (16)



第40図 包含層出土遺物（17）

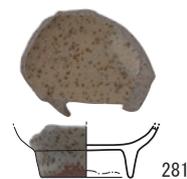
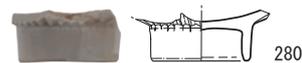
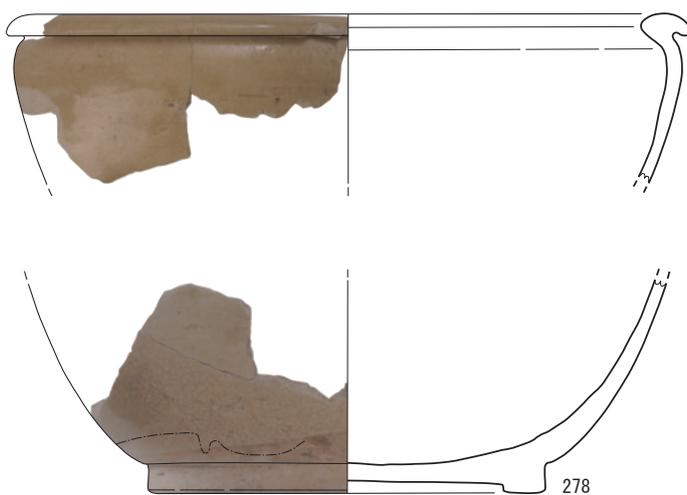
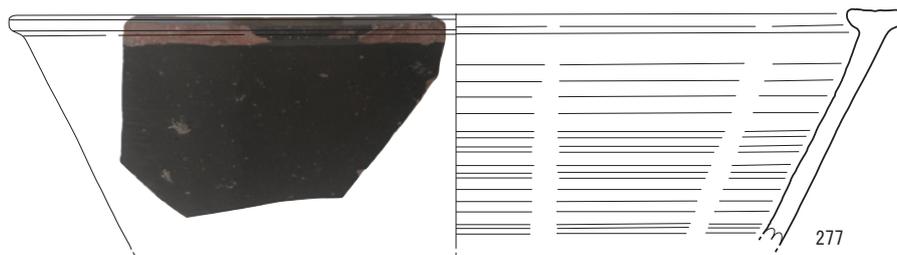


第41図 包含層出土遺物(18)



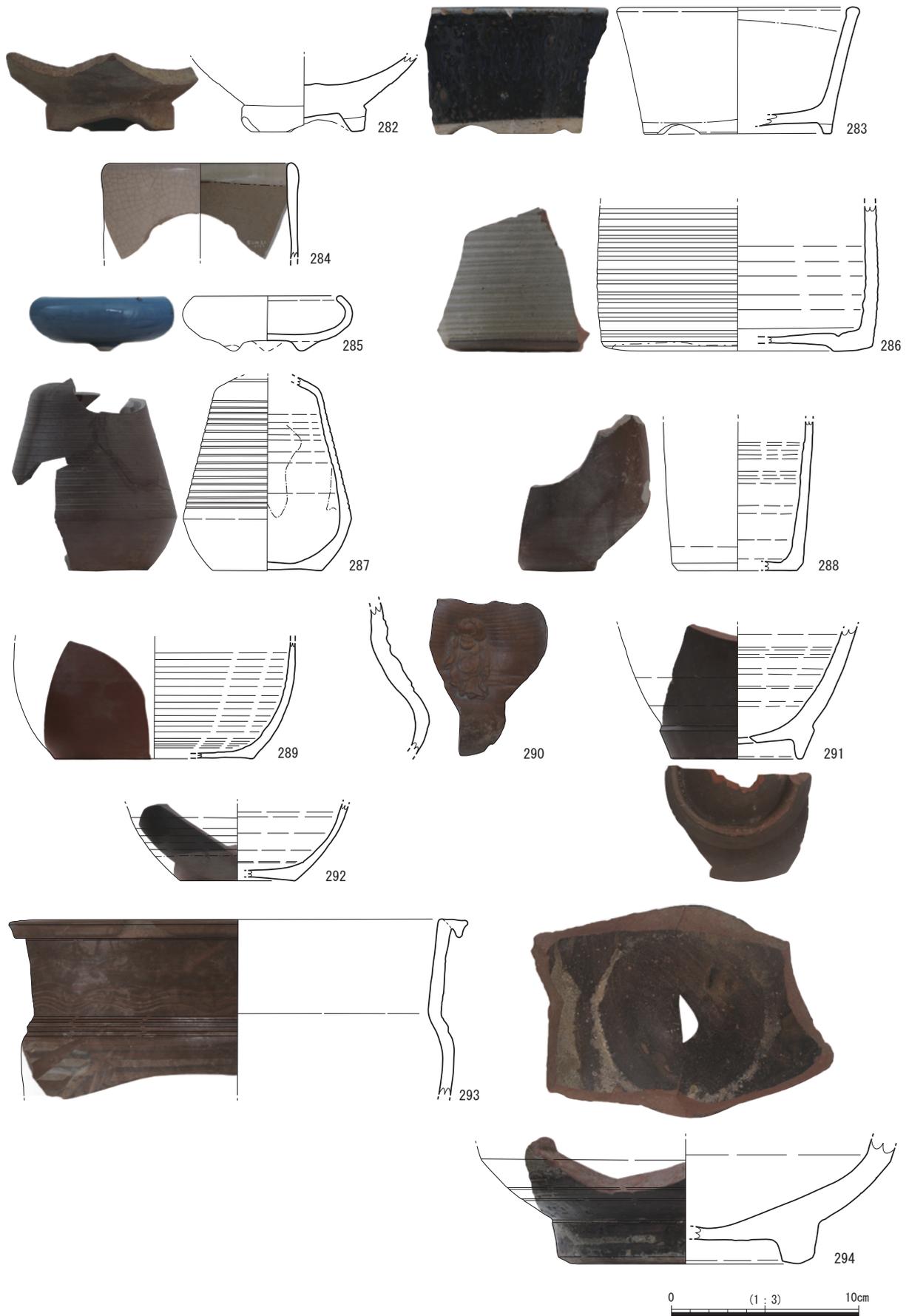
0 (1 : 3) 10cm

第42図 包含層出土遺物（19）

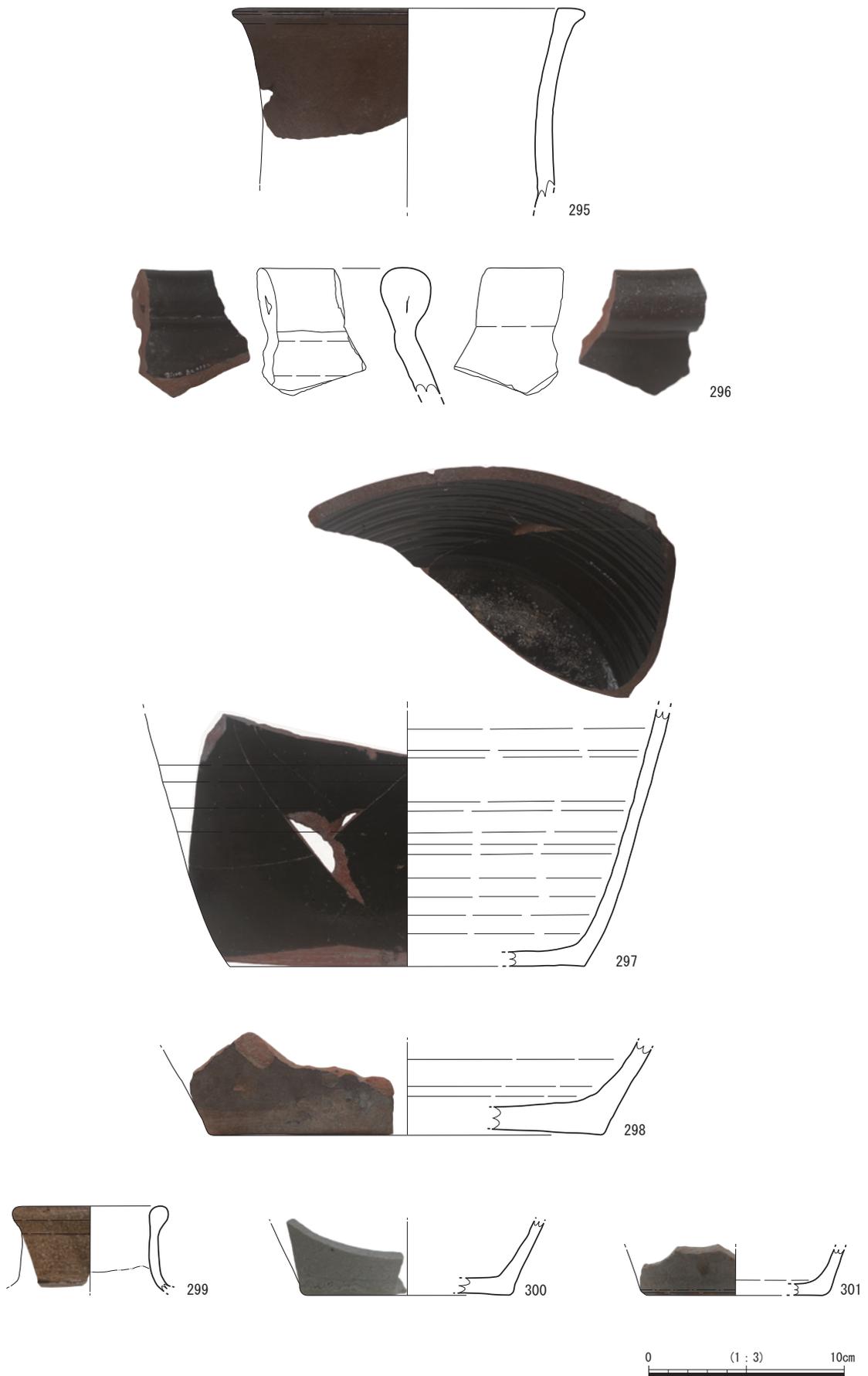


0 (1 : 3) 10cm

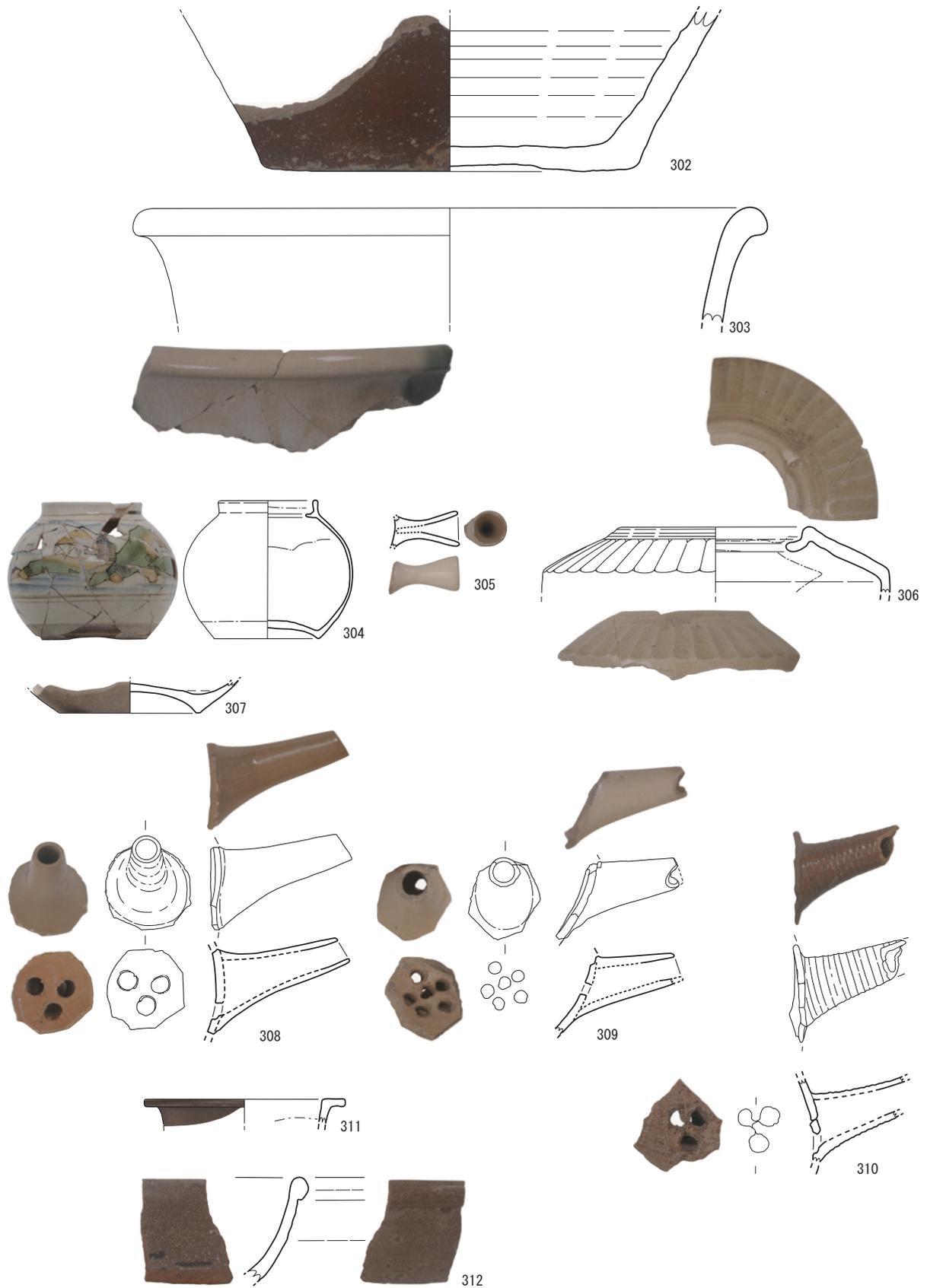
第43図 包含層出土遺物 (20)



第44図 包含層出土遺物（21）

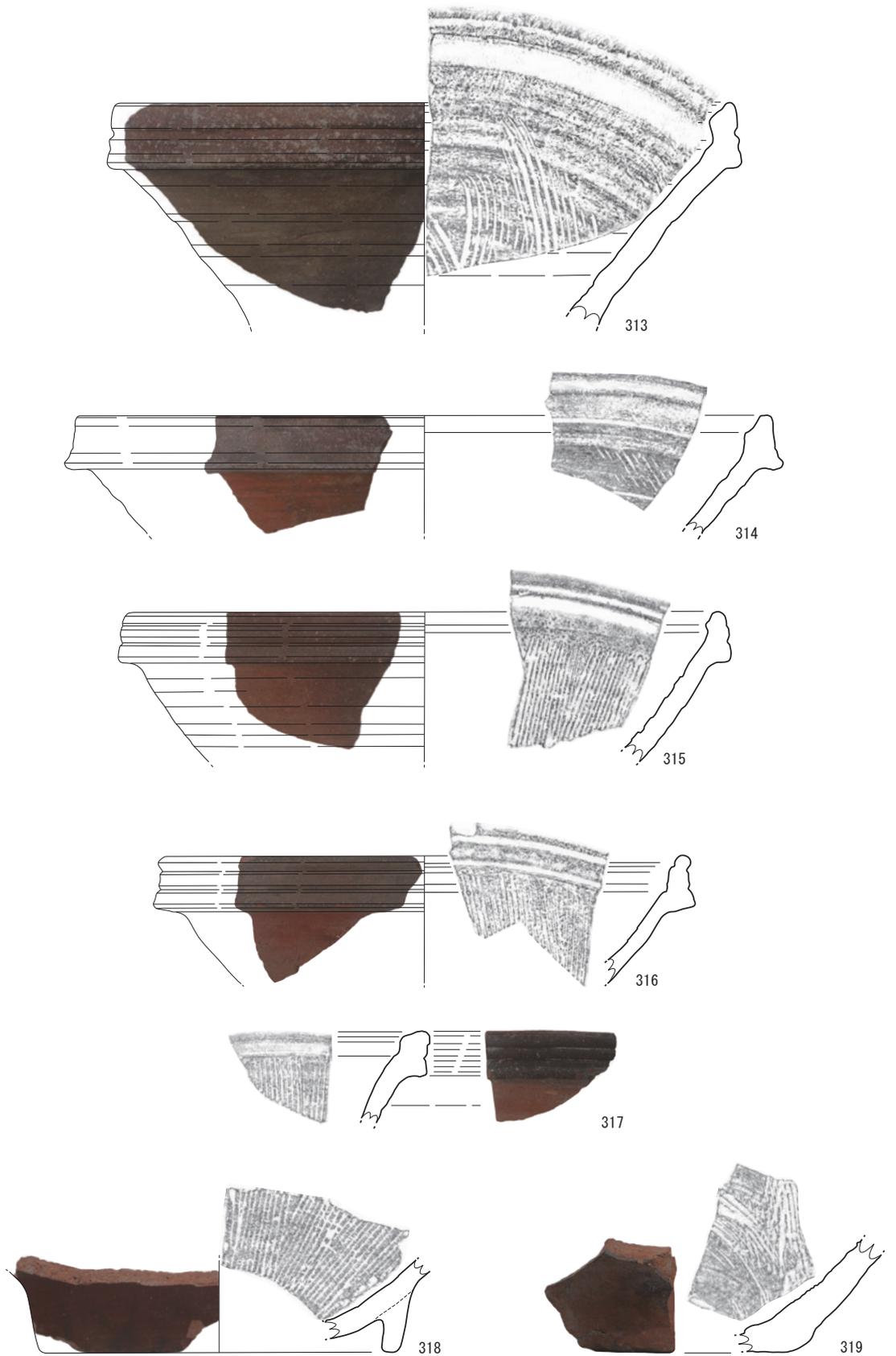


第45図 包含層出土遺物(22)



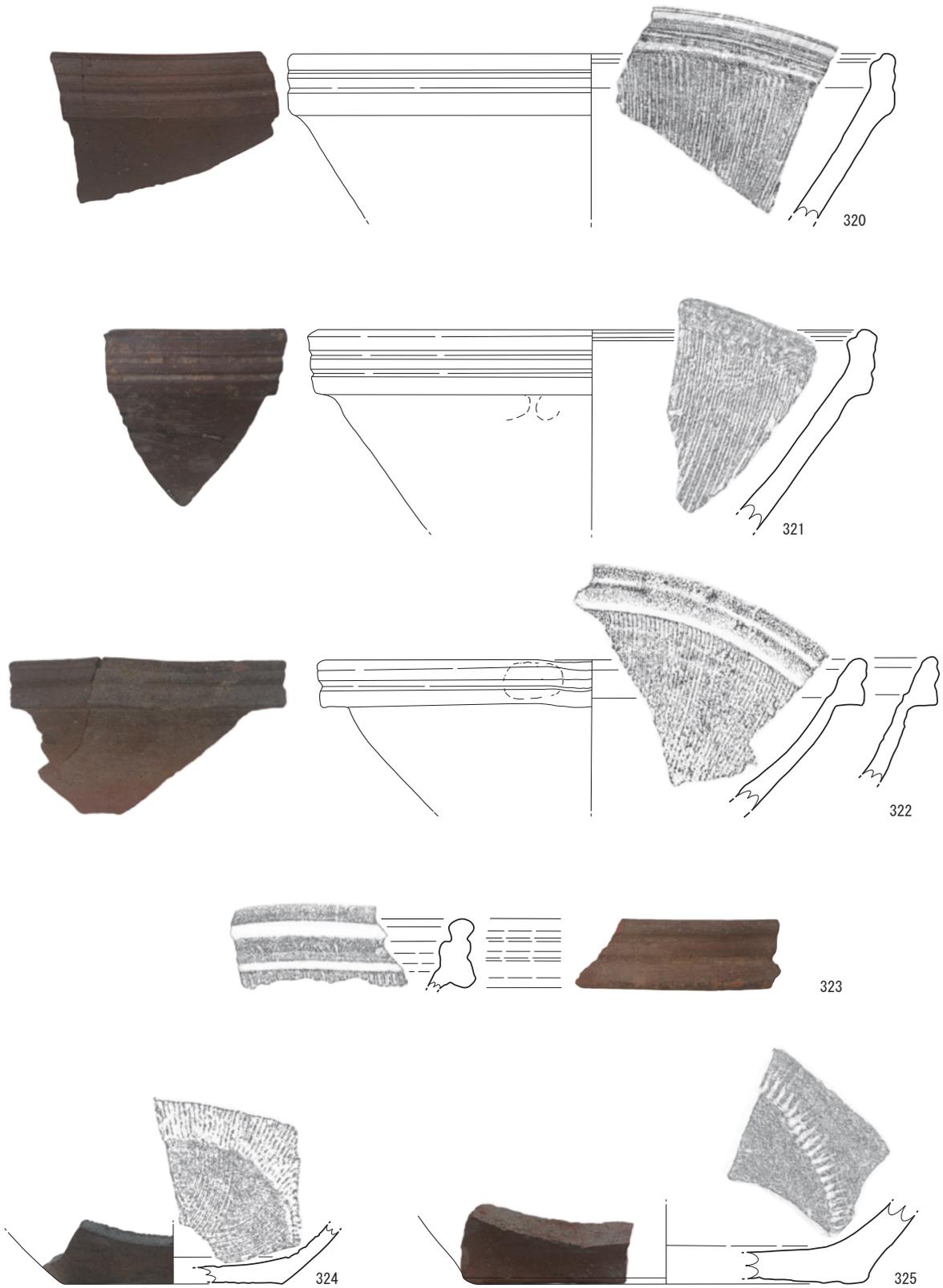
第46図 包含層出土遺物（23）

0 (1:3) 10cm



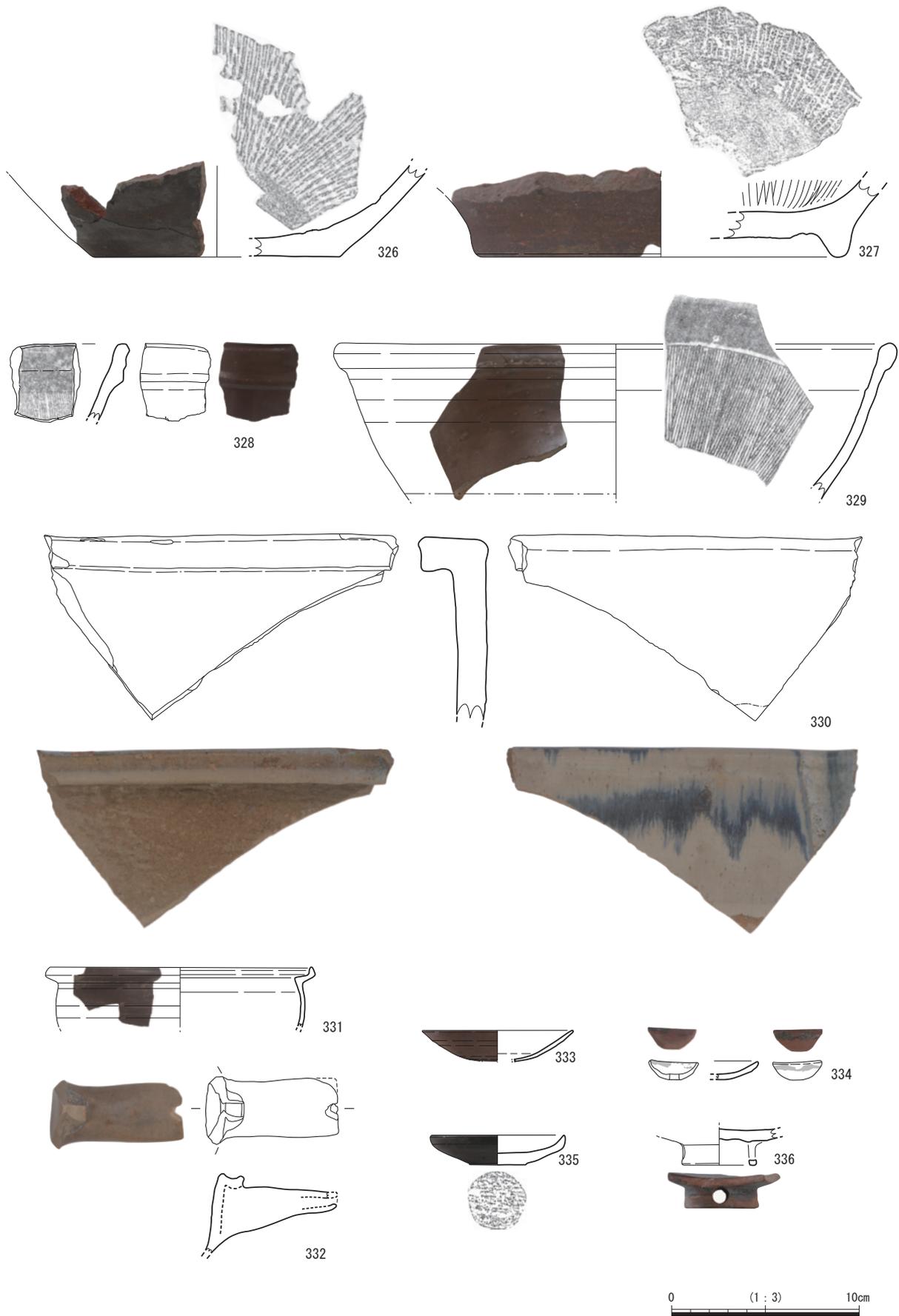
0 (1 : 3) 10cm

第47図 包含層出土遺物 (24)

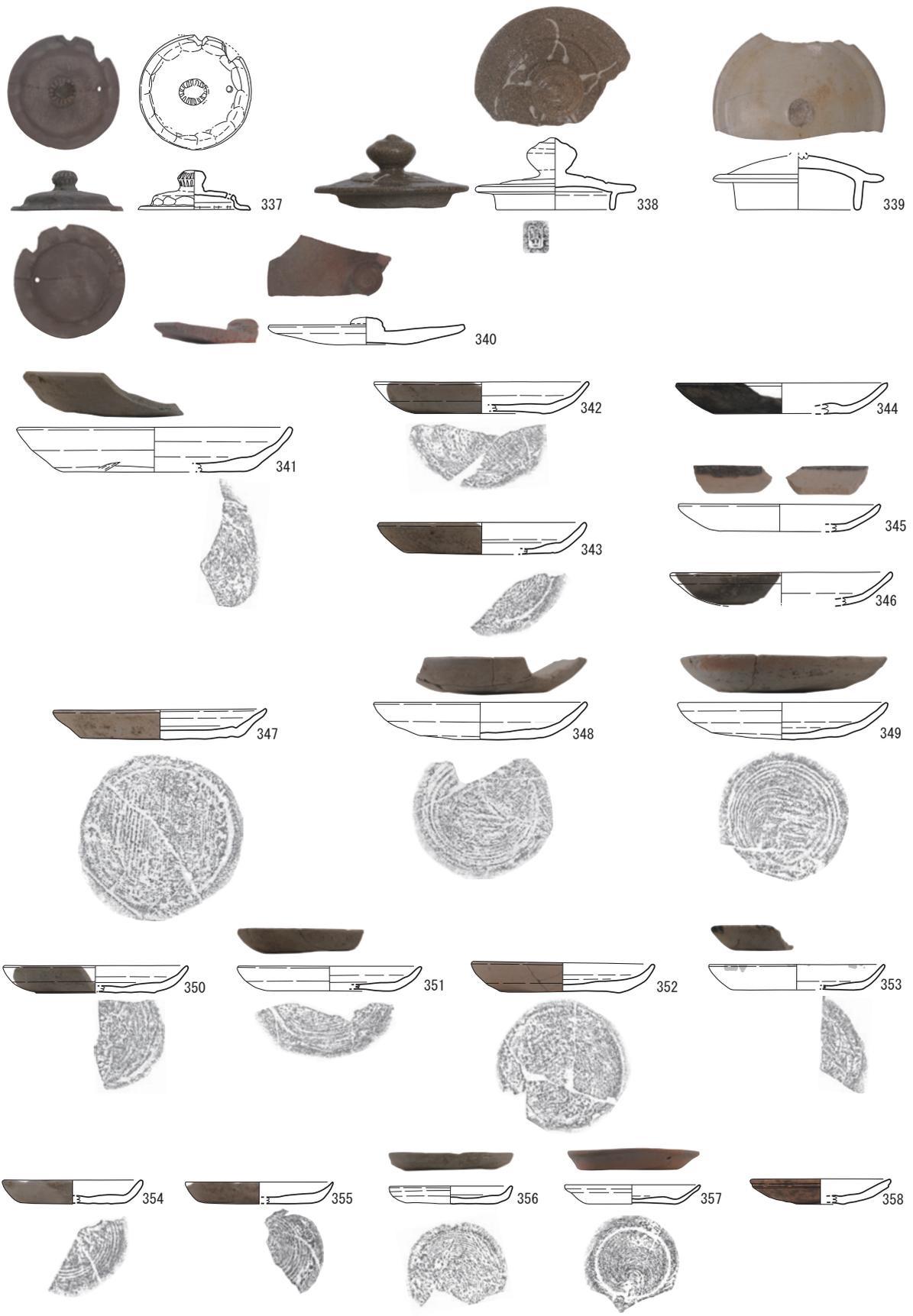


第48図 包含層出土遺物（25）

0 (1:3) 10cm



第49図 包含層出土遺物(26)

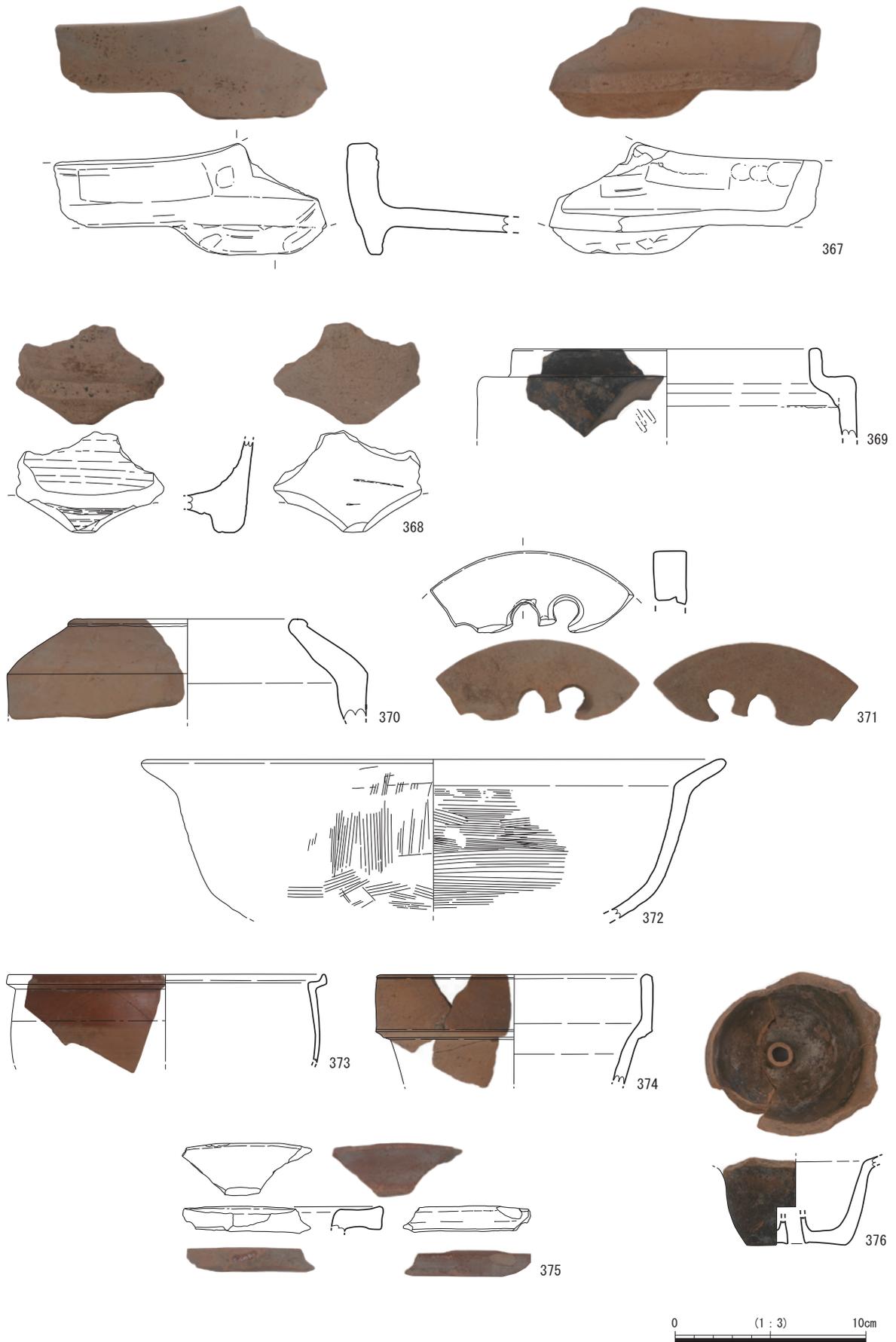


0 (1 : 3) 10cm

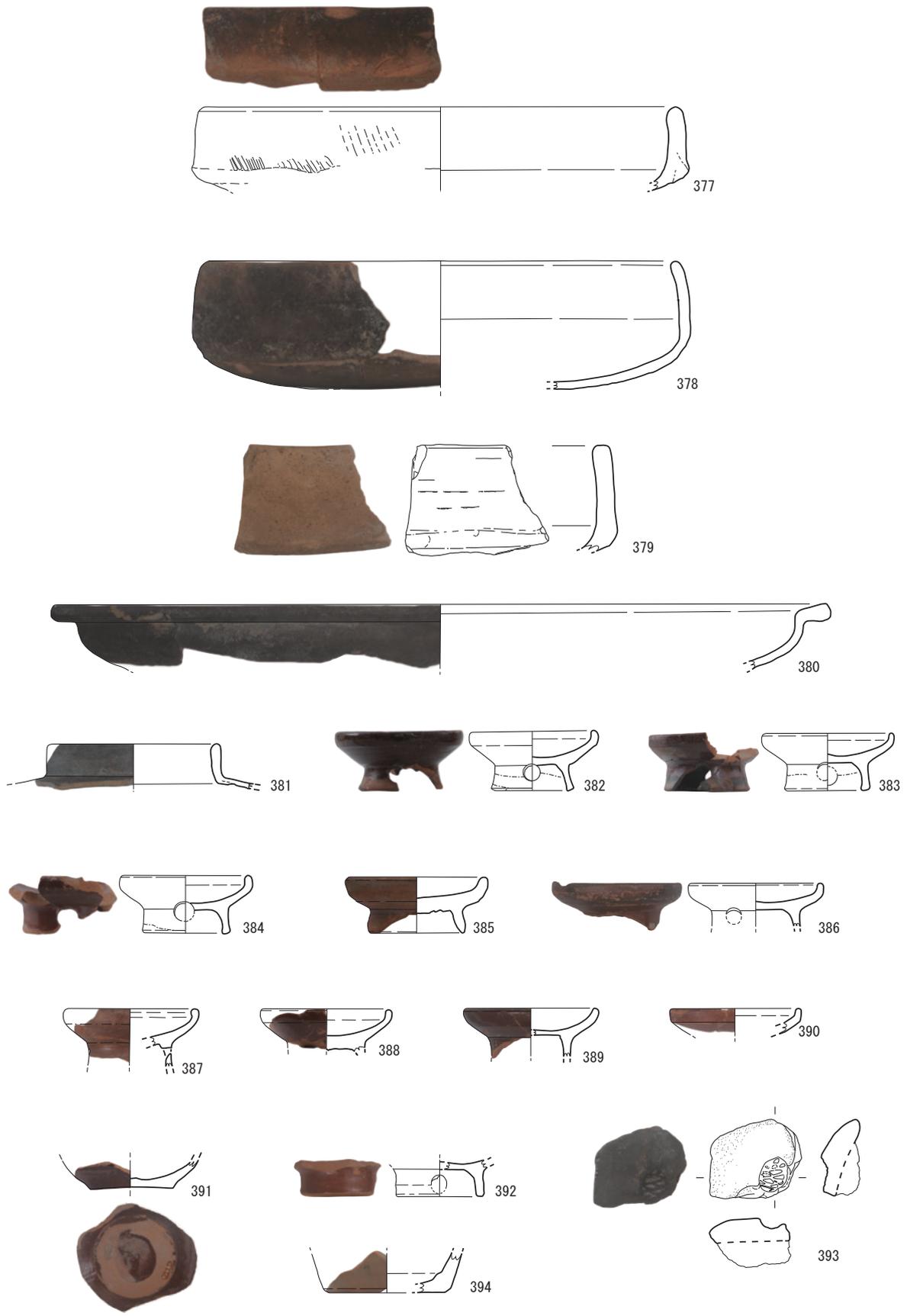
第50図 包含層出土遺物 (27)



第51図 包含層出土遺物 (28)



第52図 包含層出土遺物（29）



第53図 包含層出土遺物 (30)

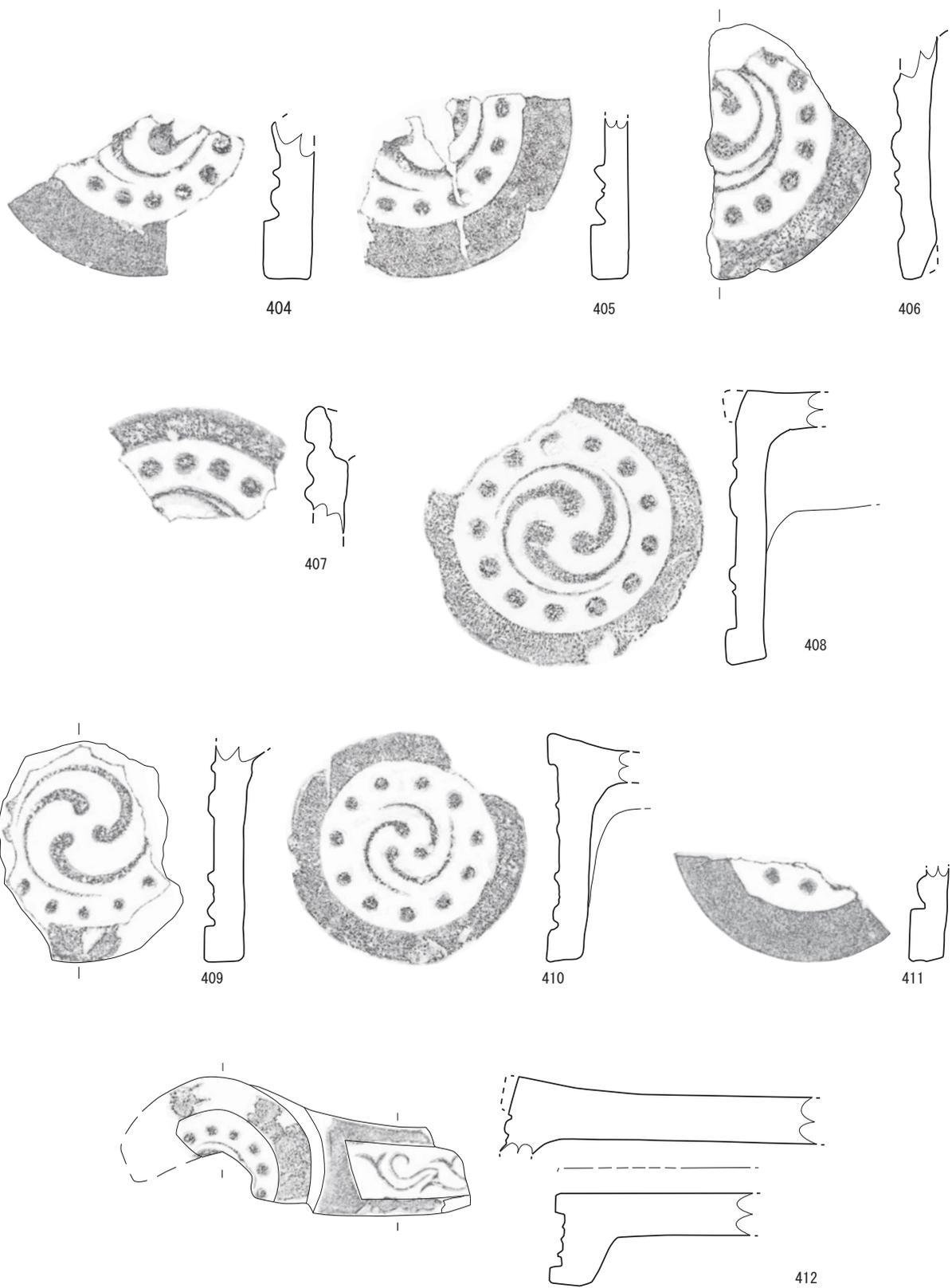


社會式株泉鑛酒麥本 田 標商  録登

403

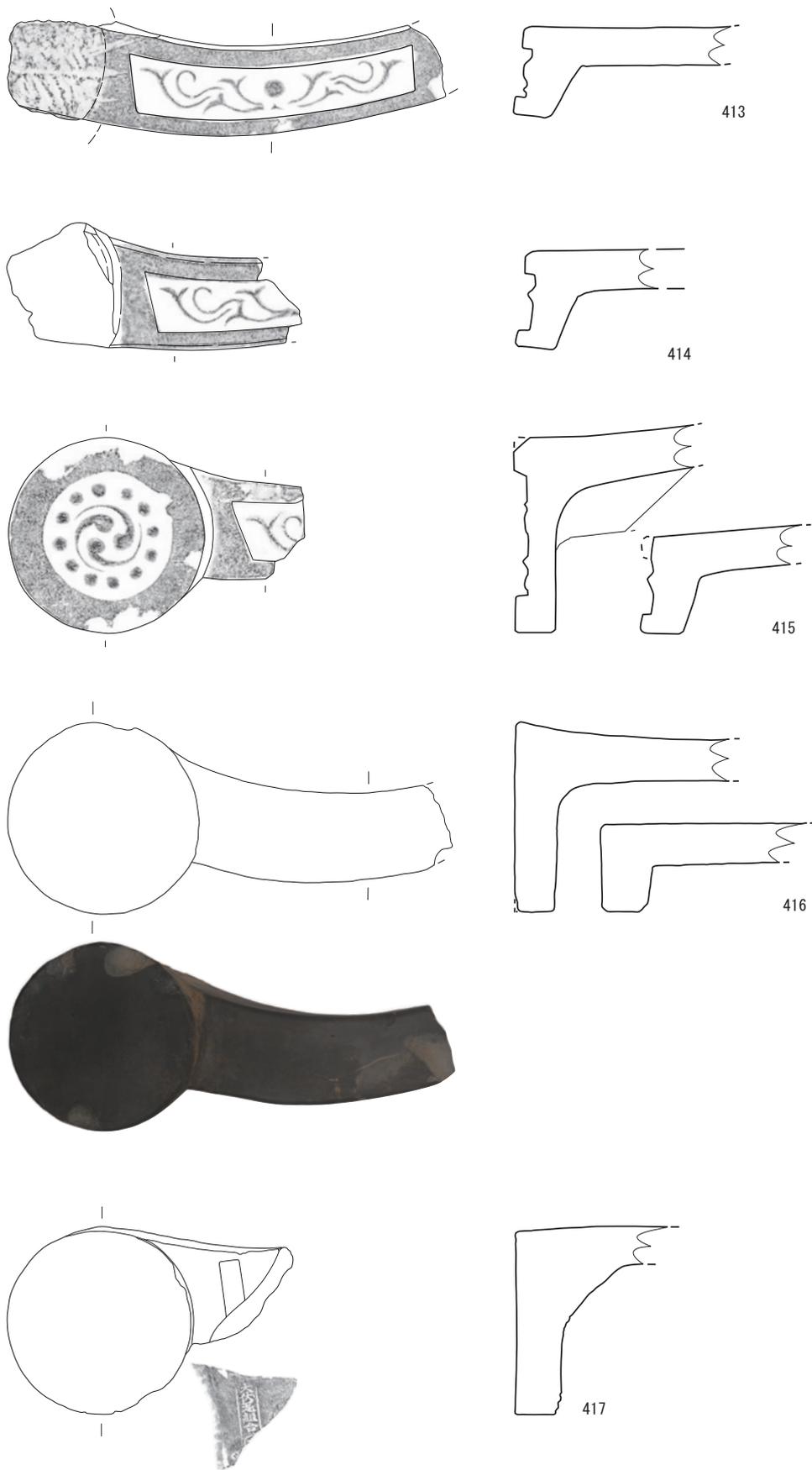
第54図 包含層出土遺物 (31)

0 (1:3) 10cm



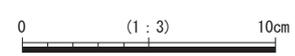
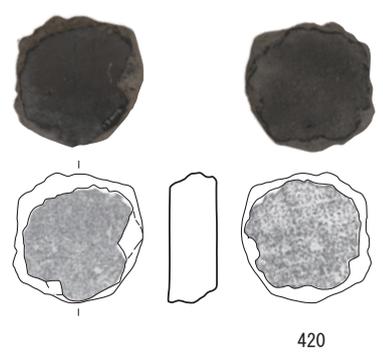
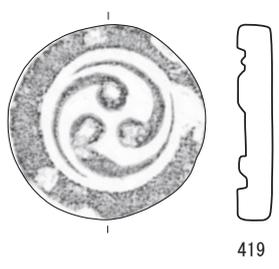
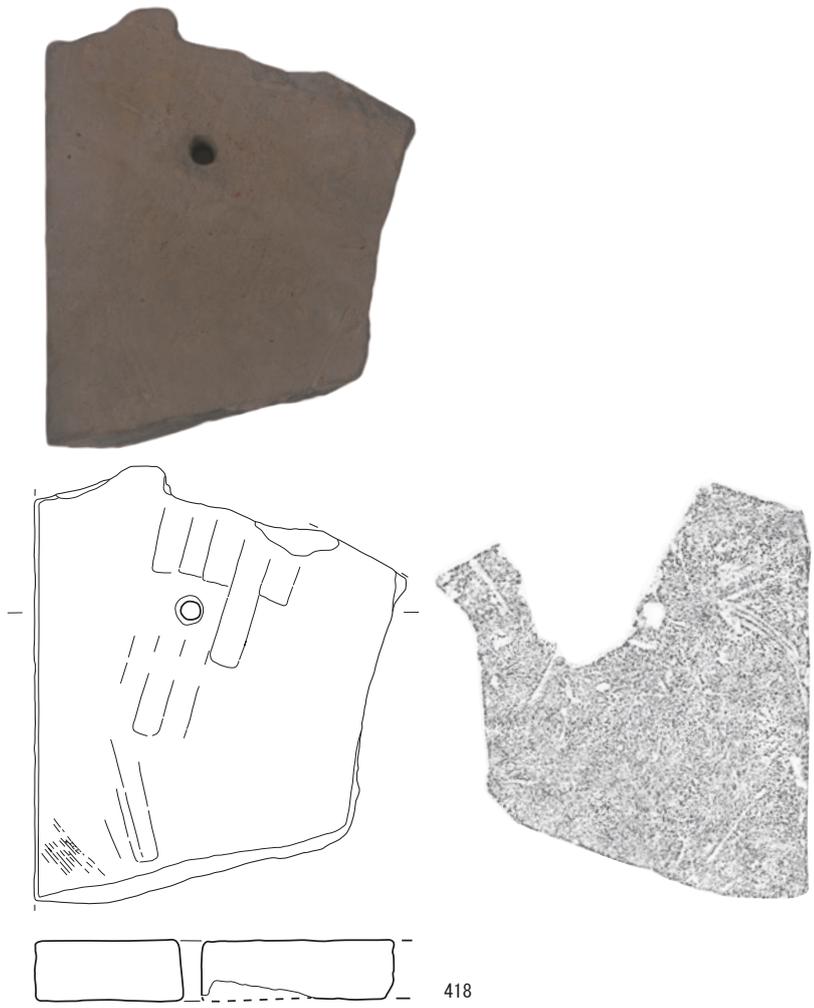
0 (1 : 3) 10cm

第55図 包含層出土遺物 (32)



0 (1 : 3) 10cm

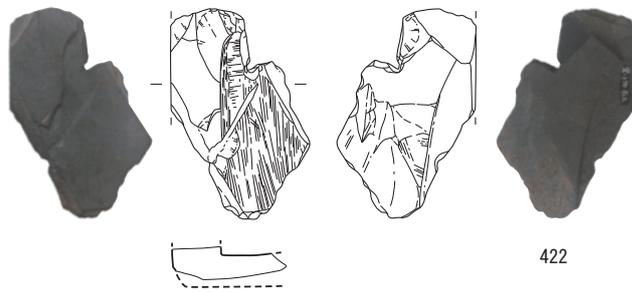
第56図 包含層出土遺物(33)



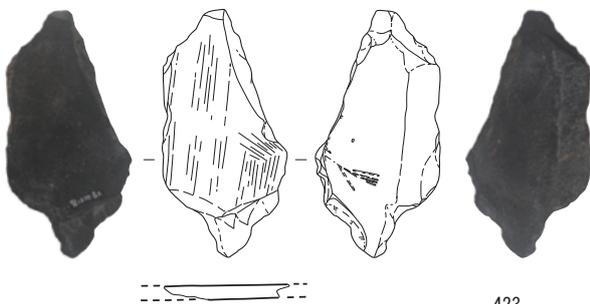
第57図 包含層出土遺物 (34)



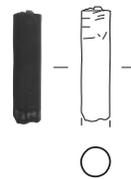
421



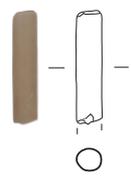
422



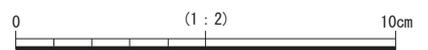
423



424



425



第58図 包含層出土遺物 (35)

第2表 包含層遺物観察表(1)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
1	磁器	碗	肥前系	(8.7)	4.4	6.4	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、量付砂付着、 1610～1650年代
2	磁器	碗	肥前系	—	4.6	—	ロク口	透明釉 (底部除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	底部無釉、1640～1660年代
3	磁器	碗	肥前系	—	(3.8)	—	ロク口	青磁釉 (底部除く)				灰白色 N8/	表土・攪乱	底部無釉、量付砂付着、 1640～1680年代
4	磁器	碗	肥前系	8.4	3.5	4.2	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面三角形、高台釉際 処理不揃い、漆継、1650 ～1680年代
5	磁器	碗	肥前系	8.5	5.1	6.45	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/	表土・攪乱	高台断面三角形、高台釉際 処理不揃い、1650～1680 年代
6	磁器	碗	肥前系	10.0	5.5	6.4	ロク口	透明釉	染付	手描き	「大明成 化年製」 銘 (高台 内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面三角形、高台釉際 処理不揃い、1650～1680 年代
7	磁器	碗	肥前系	9.9	4.3	5.55	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面U字状、高台高が 高い (0.8cm)、高台釉際 処理不揃い
8	磁器	碗	肥前系	(10.4)	4.0	6.4	ロク口	透明釉	染付	手描き (外 面素書) 墨弾き (口 縁部内面)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面U字状、高台高が 低い (0.5cm)
9	磁器	碗	肥前系	(8.9)	3.8	4.8	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面U字状、高台高が 低い (0.4cm)
10	磁器	碗	肥前系	—	4.0	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	二重方形 枠内「渦 福」銘 (高 台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台断面U字状、高台高が 低い (0.5cm)
11	磁器	碗	肥前系	(8.7)	3.2	4.4	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N7/	表土・攪乱	くらわんか、量付砂付着、 1680～1860年代
12	磁器	碗	肥前系	—	(4.0)	—	ロク口	青磁釉 透明釉 (内 面・高台 内)	染付	手描き	「渦福」 銘 (高台 内)	灰白色 2.5Y7/1	表土・攪乱	くらわんか、青磁染付、高 台砂付着、1680～1860年 代
13	磁器	碗	肥前系	(8.0)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	筒形碗、18世紀第2四半 期～1810年代
14	磁器	碗	肥前系	—	3.6	—	ロク口	透明釉	染付	手描き コンニャク 印判 (見込)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	筒形碗、高台砂付着、焼成 不良 (釉白濁)、18世紀第 2四半期～1810年代
15	磁器	碗	肥前系	—	(4.15)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	小広東碗、1760～1820年 代
16	磁器	碗	肥前系	—	5.1	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、量付砂付着、1780 ～1840年代
17	磁器	碗	肥前系	—	5.9	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
18	磁器	碗	肥前系	—	(6.0)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
19	磁器	碗	肥前系	—	(6.4)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
20	磁器	碗	肥前系	(11.2)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
21	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(10.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き 銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1887年～
22	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	11.4	4.8	6.1	ロク口	透明釉	染付	手描き 墨弾き	一重方形 枠内変形 字銘・焼 継師印 「X」 (高 台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、焼継、19世紀第1 四半期～19世紀第3四半 期
23	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(9.3)	(3.4)	5.4	ロク口	透明釉	染付	手描き 墨弾き	一重方形 枠内変形 字銘	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
24	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(9.2)	3.8	5.1	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
25	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(9.0)	(3.7)	5.1	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
26	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系 ?	(9.4)	(4.1)	5.2	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
27	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(10.2)	4.2	5.6	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 墨弾き (見 込) 手描き (墨 線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、量付アルミナ砂塗 布、口縁部敲打痕めぐる一 転用?、1882年～
28	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.8)	4.8	6.0	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	銅版転写 手描き (墨 線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、1887年～
29	磁器	碗	関西系	(12.0)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形
30	磁器	碗	肥前系	—	(3.9)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き		灰白色 N8/	表土・攪乱	湯飲碗、量付アルミナ砂塗 布、1870年～

「—」は、「不明」を示す。()内の数字は、残存部から復元した数値を示す。
含有鉱物は、土器のみ記載。備考欄に記載した年代は、生産地における製作年代を示す。

第3表 包含層遺物観察表（2）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
31	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	(5.5)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺 手描き (圏線)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	湯飲碗、量付アルミナ砂塗布、1882年～
32	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	(4.2)	—	ロク口	透明釉	染付	銅版転写 (外面) 手描き (口縁部内面・高台内)	銘あり (高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	湯飲碗、1887年～
33	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	4.1	—	ロク口	透明釉	上絵付 (青色・緑色・白色・茶色・絵具)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	湯飲碗、1870年代～
34	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	3.9	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/	表土・攪乱	湯飲碗、1870年代～
35	磁器	碗	肥前系	—	4.7	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	撥高台、1820～1870年代
36	磁器	碗	肥前系	—	(4.4)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	撥高台、量付砂付着、1820～1870年代
37	磁器	碗	肥前系	—	3.8	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	幅広高台
38	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.9)	4.1	4.5	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/	表土・攪乱	39・40・41と器形・文様同じ、1882年～
39	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(12.0)	(3.8)	4.9	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/	表土・攪乱	38・40・41と器形・文様同じ、1882年～
40	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.4)	(3.5)	4.1	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/	表土・攪乱	38・39・41と器形・文様同じ、1882年～
41	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	38・39・40と器形・文様同じ、1882年～
42	磁器	碗	瀬戸・美濃系	11.5	4.0	4.5	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	43・44と器形・文様同じ、量付砂付着、1882年～
43	磁器	碗	瀬戸・美濃系	11.3	(3.5)	4.2	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/	表土・攪乱	42・44と器形・文様同じ、1882年～
44	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(10.6)	(3.7)	4.8	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	42・43と器形・文様同じ、1882年～
45	磁器	碗	瀬戸・美濃系	12.1	4.1	5.0	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	46と器形・文様同じ、量付アルミナ砂付着、1882年～
46	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	3.5	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	45と器形・文様同じ、量付砂付着、1882年～
47	磁器	碗	瀬戸・美濃系	11.4	3.8	4.95	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	銅版転写 手描き (高台内)	「三峰園製」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	48と器形・文様同じ、1887年～
48	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.2)	(3.8)	4.7	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	銅版転写 手描き (高台内)	「三峰園製」銘 (高台内)	灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	47と器形・文様同じ、1887年～
49	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.1)	3.2	4.1	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
50	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	3.75	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
51	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	(3.7)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
52	磁器	碗	瀬戸・美濃系	—	(2.7)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N7/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
53	磁器	碗	瀬戸・美濃系	11.3	3.9	4.9	ロク口	透明釉	下絵付 (酸化クロム)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台砂付着、1887年～
54	磁器	碗	瀬戸・美濃系	11.7	4.9	3.6	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	銅版転写 手描き (圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1887年～
55	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト) 下絵付 (酸化クロム)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	56と器形・文様同じ、1887年～
56	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(11.0)	—	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト) 下絵付 (酸化クロム)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	壁清掃	55と器形・文様同じ、1887年～
57	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(10.0)	(3.0)	4.2	ロク口	透明釉	染付 (酸化コバルト)	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	1870年～
58	磁器	碗	瀬戸・美濃系	(10.0)	(3.3)	4.15	ロク口	透明釉	上絵付 (酸化コバルト・正円子)	吹絵?		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1894年～

註は第2表に同じ。

第4表 包含層遺物観察表(3)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
59	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.0)	(4.0)	5.2	ロクロ	透明釉	下絵付 (酸化ク ロム)	手描き?		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	60・61と器形・文様同じ、 1875年～
60	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.0)	4.0	5.0	ロクロ	透明釉	下絵付 (酸化ク ロム)	手描き?		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	59・61と器形・文様同じ、 1875年～
61	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	(11.0)	(4.0)	5.2	ロクロ	透明釉	下絵付 (酸化ク ロム)	手描き?		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	59・60と器形・文様同じ、 1875年～
62	磁器	碗	肥前系	(9.6)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1650～1690年代
63	磁器	碗	肥前系	(10.4)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1650～1690年代
64	磁器	碗	肥前系	(9.8)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1630～1650年代
65	磁器	碗	肥前系	8.5	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
66	磁器	碗	肥前系	(9.2)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
67	磁器	碗	肥前系	(10.6)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
68	磁器	碗	肥前系	(10.9)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1710～1720年代
69	磁器	碗	肥前系	(10.6)	—	—	ロクロ	透明釉	上絵付 (赤色絵 具他)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
70	磁器	碗?	瀬戸・ 美濃系	—	—	—	型押	オリブ 色釉・に ぶい黄橙 色釉に明 黄褐色釉 流し掛け (外面) 鉄釉(外 面) 透明釉(内 面)				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
71	磁器	碗	肥前系	—	5.2	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	19世紀
72	磁器	碗	肥前系	—	(5.3)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き (素書)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1780年代～
73	磁器	碗	肥前系	—	4.8	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
74	磁器	碗	肥前系	—	4.2	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	高台砂付着、焼成不良(釉 白濁)
75	磁器	碗	肥前系	—	(4.6)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
76	磁器	碗	肥前系	—	4.5	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
77	磁器	碗	肥前系	—	(3.2)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	焼成不良(釉白濁、呉須発 色悪い)
78	磁器	碗	肥前系	—	4.1	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台砂付着
79	磁器	碗	肥前系	—	(4.9)	—	ロクロ	透明釉	染付(酸 化コバル ト) 下絵付 (酸化ク ロム?)	型紙摺 手描き(圏 線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	北側溝	80・81と器形・文様同じ、 量付アルミナ砂塗布、1882 年～
80	磁器	碗	肥前系	—	4.9	—	ロクロ	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(圏 線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	79・81と器形・文様同じ、 量付アルミナ砂塗布、1882 年～
81	磁器	碗	肥前系	—	(5.25)	—	ロクロ	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(圏 線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	79・80と器形・文様同じ、 量付アルミナ砂塗布、1882 年～
82	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	(3.7)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
83	磁器	碗	関西系	—	3.9	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き	「寿」字 (見込)	灰白色 N8/ (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	
84	磁器	皿	肥前系	12.0	4.9	3.1	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	初期伊万里、量付砂付着、 1610～1650年代
85	磁器	皿	肥前系	12.8	4.7	2.55	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	初期伊万里、量付～高台内 砂付着、1610～1650年代
86	磁器	皿	肥前系	(12.4)	4.75	2.7	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、高台砂付着、 1610～1650年代
87	磁器	皿	肥前系	—	(5.1)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	初期伊万里、量付砂付着、 1610～1650年代
88	磁器	皿	肥前系	—	6.9	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、1610～1650 年代
89	磁器	皿 (小皿)	肥前系	(8.8)	(3.4)	2.7	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、幅広高台、輪 花、1610～1650年代
90	磁器	皿 (小皿)	肥前系	—	(3.1)	—	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	I層	初期伊万里、幅広高台、輪 花、1610～1650年代
91	磁器	皿 (小皿)	肥前系	—	4.0	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、高台釉際処理 不揃い、1610～1650年代

註は第2表に同じ。

第5表 包含層遺物観察表（4）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	造構・層位	備考
92	磁器	皿 (小皿)	肥前系	—	3.2	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	初期伊万里、高台砂付着、 釉・呉須灰色がかかる、1610 ～1650年代
93	磁器	皿	肥前系	(21.6)	(12.3)	2.7	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/	表土・攪乱	高台断面三角形、1650～ 1680年代
94	磁器	皿	肥前系	(13.4)	(8.4)	3.7	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N7/	表土・攪乱	くらわんか、呉須灰色がかかる、 高台砂付着、1680～ 1860年代
95	磁器	皿	肥前系	11.0	—	—	ロク口	透明釉(底 部除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	見込蛇ノ目軸刺ぎ・砂付着、 1650～1780年代
96	磁器	皿	肥前系 ?	—	(2.0)	—	ロク口	透明釉(底 部除く)	染付	手描き		浅黄橙色 10YR8/3	表土・攪乱	見込蛇ノ目軸刺ぎ・重ね焼 痕、焼成不良?(釉白濁)、 1650～1780年代
97	磁器	皿	肥前系	12.6	8.3	2.15	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台、18世紀 第2四半期～
98	磁器	皿	肥前系 ?	—	(8.3)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N7/	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台、見込円錐 ピン痕、1882年～
99	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.5)	7.2	3.3	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	100・101と器形・文様同じ、 蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、輪花、 見込円錐ピン痕、1882 年～
100	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.8)	(7.7)	3.1	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	99・101と器形・文様同じ、 蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、輪花、 見込円錐ピン痕、1882年 ～
101	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.6)	—	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	99・100と器形・文様同じ、 輪花、1882年～
102	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	12.6	8.0	2.9	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	103・104・105・106・107 と器形・文様同じ、蛇ノ目 凹形高台(無軸部分アルミ ナ砂塗布)、輪花、見込円 錐ピン痕、1882年～
103	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.8)	(6.6)	3.05	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	102・104・105・106・107 と器形・文様同じ、蛇ノ目 凹形高台(無軸部分アルミ ナ砂塗布)、輪花、見込円 錐ピン痕、1882年～
104	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.3)	(5.8)	2.9	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	102・103・105・106・107 と器形・文様同じ、蛇ノ目 凹形高台(無軸部分アルミ ナ砂塗布)、輪花、見込円 錐ピン痕、1882年～
105	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	(6.9)	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	102・103・104・106・107 と器形・文様同じ、蛇ノ目 凹形高台(無軸部分アルミ ナ砂塗布)、見込円錐ピン 痕、1882年～
106	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.8)	—	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	102・103・104・105・107 と器形・文様同じ、輪花、 1882年～
107	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(13.2)	—	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	102・103・104・105・106 と器形・文様同じ、輪花、 1882年～
108	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.4)	7.35	3.2	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	109・110・111と器形・文 様同じ、蛇ノ目凹形高台、 輪花、1882年～
109	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	6.8	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	108・110・111と器形・ 文様同じ、蛇ノ目凹形高 台(無軸部分アルミナ砂 塗布)、見込円錐ピン痕、 1882年～
110	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	—	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	108・109・111と器形・文 様同じ、輪花、1882年～
111	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	—	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	108・109・110と器形・文 様同じ、輪花、1882年～
112	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(12.4)	(7.2)	3.6	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、輪花、 見込円錐ピン痕、1882年 ～
113	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	(14.0)	(8.5)	3.9	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台?、輪花、 1882年～
114	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	8.0	—	型打	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、1882年 ～
115	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	7.8	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、見込円 錐ピン痕、1882年～
116	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	(8.0)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台、見込円錐 ピン痕、1882年～
117	磁器	皿	瀬戸・ 美濃系	—	(8.0)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	型紙摺 手描き(外 面圏線)		灰白色 N8/	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台(無軸部 分アルミナ砂塗布)、1882年 ～
118	磁器	皿	関西系	12.7	7.4	2.6	ロク口	透明釉	下絵付 (酸化コ バルト)	銅版転写		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	北側溝	量付砂付着、1887年～

註は第2表に同じ。

第6表 包含層遺物観察表(5)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
119	磁器	皿	瀬戸・美濃系	(13.9)	(7.4)	2.9	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)(外面) 下絵付(正円子)(見込)	手描き(外面) 吹絵(内面)		灰白色 N8/ (白色味強い)	北側溝	1894年～
120	磁器	皿	肥前系	(11.1)	6.5	3.15	型打	透明釉		型打による陽刻(内側面)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花、高台内ハリ支え痕、1650年代～
121	磁器	皿	瀬戸・美濃系	(17.3)	(9.3)	3.5	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
122	磁器	皿	肥前系	(19.3)	(8.2)	5.6	ロク口	青磁釉		線彫り(内面)		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台砂付着、1630年代～
123	磁器	皿	肥前系	(14.4)	—	—	ロク口	青磁釉				灰白色 N8/ (白色味強い) 淡橙色 5YR8/3	表土・攪乱	
124	磁器	皿	肥前系?	—	—	—	型打	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花、1882年～
125	磁器	皿	肥前系	—	(8.6)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	「一製」 銘(高台内)	灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	
126	磁器	皿	肥前系	—	(7.4)	—	ロク口	透明釉	染付(見込)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
127	磁器	皿	瀬戸・美濃系	—	(6.8)	—	ロク口	透明釉	上絵付(赤色絵具)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1887年～
128	磁器	皿(小皿)	肥前系	(10.4)	5.1	3.8	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	北側溝	
129	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系?	(10.0)	(5.0)	2.1	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	
130	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(11.0)	(6.0)	1.95	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺 口紅		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	131・132と器形・文様同じ、高台内カンナ痕、1882年～
131	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(11.0)	(6.4)	1.8	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺 口紅		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	130・132と器形・文様同じ、1882年～
132	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(9.7)	(5.6)	1.9	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	壁清掃	130・131と器形・文様同じ、焼成不良(釉白濁)、1882年～
133	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.7)	(5.9)	1.8	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
134	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.4)	(5.9)	1.9	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	135・136・137と器形・文様同じ、1882年～
135	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.1)	(6.0)	1.7	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強い)	表土・攪乱	134・136・137と器形・文様同じ、1882年～
136	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.0)	(6.0)	1.9	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	134・135・137と器形・文様同じ、1882年～
137	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(9.3)	(5.3)	1.9	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	134・135・136と器形・文様同じ、1882年～
138	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.7)	(6.8)	2.15	ロク口	透明釉	染付(酸化コバルト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
139	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(11.4)	(7.2)	2.05	ロク口	クロム青磁釉 透明釉(高台内)	下絵付(酸化クロム・白盛り絵具)	型紙摺 白盛り		灰白色 7.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	1882年～
140	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.6)	(5.9)	2.3	ロク口	透明釉	下絵付(酸化クロム)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1887年～
141	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.7)	(5.9)	1.65	ロク口	透明釉	下絵付(酸化クロム)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1887年～
142	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.9)	(6.6)	1.9	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
143	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.7)	(6.5)	2.4	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
144	磁器	皿(小皿)	関西系	(10.0)	(5.4)	2.3	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
145	磁器	皿(小皿)	肥前系	7.6	4.4	1.8	型打	透明釉	染付	手描き	二重方形 枠内「渦福」 銘(高台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花、18世紀
146	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.1)	(5.2)	2.75	型成形(外型・内型)	透明釉	染付	型成形による陽刻		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花、19世紀
147	磁器	皿(小皿)	瀬戸・美濃系	(10.6)	(6.6)	2.0	型打	透明釉		型打による線刻		灰白色 N8/ (白色味強い)	北側溝	19世紀
148	磁器	鉢	肥前系	(21.1)	(11.6)	7.85	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台、輪花、18世紀後半～
149	磁器	鉢	肥前系	(22.8)	—	—	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花
150	磁器	鉢	肥前系	—	—	—	型打	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	輪花

註は第2表に同じ。

第7表 包含層遺物観察表（6）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
151	磁器	鉢	肥前系	—	(9.6)	—	型打	透明釉	染付	手描き 型打による 陽刻(内側 面)	二重方形 枠内「渦 福」銘(高 台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	18世紀
152	磁器	鉢	肥前系	—	(7.8)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目凹形高台、18世紀 後半～
153	磁器	鉢	肥前系	—	(7.8)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	鉢または蓋物、高台砂付着
154	磁器	向付	肥前系	—	(5.7)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	碁笥底猪口
155	磁器	向付?	肥前系	—	—	—	型押	透明釉 鉄釉(胴 紐部)	染付	手描き		灰白色 N8/ (灰色味強い)	表土・攪乱	
156	磁器	小坏	肥前系	(6.8)	(2.7)	3.0	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	北側溝
157	磁器	小坏	肥前系	(6.9)	(2.4)	2.65	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	
158	磁器	小坏	肥前系	(8.3)	(3.9)	3.0	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
159	磁器	小坏	肥前系	(7.3)	(3.8)	3.1	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
160	磁器	小坏	肥前系	—	2.8	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	くらわんか、高台釉際処理 不揃い、焼成不良(釉白濁)、 1680～1860年代
161	磁器	小坏	肥前系	—	(3.0)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	「大明」 銘(高台 内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	北側溝 量付砂付着、1630年代～ 18世紀初頭
162	磁器	小坏	肥前系	—	(3.3)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き	「大明 (成)化 (年製)」 銘(見込)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	17世紀前半～19世紀
163	磁器	小坏	肥前系	—	(3.9)	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台砂付着
164	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(7.8)	—	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト?)	ゴム版絵付		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	1920年代～
165	磁器	小坏	景德鎮 窯系	(6.2)	2.45	3.3	ロク口	透明釉(量 付～高台 内除く)	青花	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	166・167と器形・文様同じ、 端反形、高台内カシナ痕
166	磁器	小坏	景德鎮 窯系	(6.6)	(2.2)	3.5	ロク口	透明釉(量 付～高台 内除く)	青花	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	165・167と器形・文様同じ、 端反形、口縁部外面・高台 脇カシナ痕
167	磁器	小坏	景德鎮 窯系	(6.4)	—	—	ロク口	透明釉	青花	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	165・166と器形・文様同じ、 端反形
168	磁器	小坏	景德鎮 窯系	—	7.4	—	ロク口	透明釉	青花	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形?
169	磁器	小坏	肥前系	(6.4)	2.5	4.9	ロク口	透明釉(底 部除く)		鎊		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、初期伊万里、1610 ～1650年代
170	磁器	小坏	肥前系	(6.2)	2.75	3.7	ロク口	透明釉				灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、初期伊万里、幅広 高台、量付砂付着、1610 ～1650年代
171	磁器	小坏	肥前系	7.7	3.1	4.8	ロク口	透明釉	染付	手描き	一重方形 枠内「福」 字銘(高 台内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、量付砂付着、1650 年代後半～
172	磁器	小坏	肥前系	(7.0)	(2.9)	3.55	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、量付砂付着
173	磁器	小坏	肥前系	(7.2)	—	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形
174	磁器	小坏	肥前系	—	3.2	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、量付砂付着
175	磁器	小坏	肥前系	—	(2.5)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形
176	磁器	小坏	肥前系	—	3.2	—	ロク口	透明釉				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、量付砂付着
177	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(7.4)	(3.1)	4.0	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、幅広高台、1870 年～
178	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(7.8)	2.8	3.75	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き 口紅		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	179・180・181と器形・文 様同じ、端反形、1870年 ～
179	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(8.8)	(2.8)	4.0	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き 口紅		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	178・180・181と器形・文 様同じ、端反形、1870年 ～
180	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	—	(2.9)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	178・179・181と器形・文 様同じ、端反形、1870年 ～
181	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	—	(3.0)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	178・179・180と器形・文 様同じ、端反形、1870年 ～
182	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	(7.2)	3.5	4.4	ロク口 面取	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、1887年～
183	磁器	小坏	瀬戸・ 美濃系	—	(2.85)	—	ロク口	透明釉	染付 (酸化コ バルト)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	高台砂付着、1887年～
184	磁器	小坏	肥前系	—	(2.1)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	半球形、18世紀初頭～19 世紀
185	磁器	小坏	肥前系	—	2.2	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	半球形、18世紀初頭～19 世紀

註は第2表に同じ。

第8表 包含層遺物観察表(7)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
186	磁器	仏飯器	肥前系	—	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	焼成不良? (釉白濁)
187	磁器	香炉	肥前系	(11.0)	(4.7)	5.5	ロク口 貼付(足)	透明釉・ 青磁釉 (白化粧土 塗布のち 透明釉を かけ、そ の上から 青磁釉を かける) (底部・内 面除く)		貼付		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	見込重ね焼き痕
188	磁器	香炉	肥前系	—	(6.3)	—	ロク口	青磁釉(底 部除く外 面)				灰白色 N8/	表土・攪乱	
189	磁器	瓶	肥前系	—	6.4	—	ロク口	透明釉(外 面)	染付	手描き		明緑灰色 10G18/1	表土・攪乱	初期伊万里、高台砂付着、 1610～1650年代
190	磁器	瓶	肥前系	—	(9.0)	—	ロク口	透明釉(外 面)	染付	手描き		灰白色 N7/ (外 側) 灰白色 10YR7/1 (内側)	表土・攪乱	釉・呉須灰色がかかる
191	磁器	瓶	肥前系	—	5.8	—	ロク口	透明釉(外 面)		トビガンナ 線彫り		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	蛇ノ目高台
192	磁器	瓶	肥前系	—	(4.6)	—	ロク口	透明釉(外 面)				灰白色 2.5Y8/1	北側溝	高台砂付着
193	磁器	瓶?	肥前系	—	(6.4)	—	ロク口	透明釉(外 面)				灰白色 N8/	表土・攪乱	畳付砂付着
194	磁器	御酒徳利	肥前系	1.3	—	—	ロク口	透明釉(外 面)	染付	手描き		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	
195	磁器	御酒徳利	肥前系	—	3.8	—	ロク口	透明釉(外 面)	染付	手描き		灰白色 N8/	表土・攪乱	高台砂付着
196	磁器	爛徳利	瀬戸・ 美濃系	(3.0)	—	—	ロク口	透明釉(外 面～頭部 内面)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
197	磁器	爛徳利	関西系	—	(5.2)	—	ロク口	透明釉(底 部外除く)	染付	手描き	墨書「ミ サ」(底 部外面)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
198	磁器	爛徳利	関西系?	—	(6.6)	—	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	銅版転写		灰白色 N8/ (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	1887年～
199	磁器	段重	瀬戸・ 美濃系?	(10.2)	9.5	2.7	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	腰部無釉部分アルミナ砂塗 布、1882年～
200	磁器	段重	瀬戸・ 美濃系?	(11.5)	(10.85)	2.65	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	型紙摺		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	腰部無釉部分アルミナ砂塗 布、1882年～
201	磁器	段重	瀬戸・ 美濃系	(10.5)	(9.2)	2.55	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト) 下絵付 (酸化ク ロム?)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	腰部無釉部分アルミナ砂塗 布、1882年～
202	磁器	蓋物	肥前系	(7.0)	—	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
203	磁器	蓋物	瀬戸・ 美濃系?	—	(9.0)	—	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト) 下絵付 (酸化ク ロム?)	型紙摺		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	畳付砂付着、1882年～
204	磁器	合子?	関西系	—	(6.0)	—	ロク口	透明釉(底 部除く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
205	磁器	建水?	瀬戸・ 美濃系	(18.4)	12.5	11.2	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	型紙摺 濃		灰白色 N8/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	206と器形・文様同じ、畳 付アルミナ砂付着、1882 年～
206	磁器	建水?	瀬戸・ 美濃系	(17.8)	(11.8)	—	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	型紙摺 濃		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	205と器形・文様同じ、畳 付アルミナ砂付着、1882 年～
207	磁器	絵具 パレット	瀬戸・ 美濃系	—	—	—	型成形	透明釉(底 部除く)				灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	梅皿、近代～
208	磁器	碗蓋	肥前系	10.0	3.95	3.0	ロク口	青磁釉 透明釉(内 面・摘み 内)	染付	手描き	二重方形 枠内「満 福」銘(摘 み内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	丸碗、くらわんか、青磁染 付、畳付砂付着、18世紀 中頃～18世紀末
209	磁器	碗蓋	肥前系	—	(2.9)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	丸碗
210	磁器	碗蓋	瀬戸・ 美濃系	(10.3)	—	—	ロク口	透明釉	染付(酸 化コバル ト)	銅版転写		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	丸碗、1887年～
211	磁器	碗蓋	肥前系	(11.4)	5.5	3.4	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
212	磁器	碗蓋	肥前系	(10.3)	(5.6)	2.8	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
213	磁器	碗蓋	肥前系	10.0	6.25	2.95	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
214	磁器	碗蓋	肥前系	—	(5.7)	—	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	広東碗、1780～1840年代
215	磁器	碗蓋	肥前系	10.1	(4.3)	2.8	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、1810年代～近代

註は第2表に同じ。

第9表 包含層遺物観察表(8)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径(cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
216	磁器	碗蓋	肥前系	9.4	3.8	2.8	ロクロ	透明釉	染付	手描き 墨弾き	二重方形 枠内変形 字銘(摘 み内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、1810年代～幕末
217	磁器	碗蓋	瀬戸・ 美濃系	9.2	3.8	3.1	ロクロ	透明釉	染付	手描き	一重方形 枠内変形 字銘(摘 み内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
218	磁器	碗蓋	瀬戸・ 美濃系	6.85	3.0	2.0	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
219	磁器	碗蓋	瀬戸・ 美濃系	(9.2)	—	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	端反形、19世紀第1四半 期～19世紀第3四半期
220	磁器	碗蓋	肥前系	(9.9)	4.2	3.15	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	撥高台、1820～1870年代
221	磁器	碗蓋	肥前系	(10.0)	(4.5)	2.9	ロクロ	透明釉	染付	手描き	「太明」 銘(摘み 内)	灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	撥高台、1820～1870年代
222	磁器	碗蓋	肥前系	—	(4.7)	—	ロクロ	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	撥高台、1820～1870年代
223	磁器	段重・ 蓋物蓋	肥前系	(10.0)	—	—	ロクロ	透明釉(合 わせ目除 く)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	
224	磁器	段重・ 蓋物蓋	肥前系	(8.8)	—	—	ロクロ	青磁釉(合 わせ目除 く外面) 透明釉 (外・内面)	染付	手描き		灰白色 N8/ (白色味強い)	表土・攪乱	青磁染付
225	陶器	碗	肥前系	(10.8)	5.2	7.4	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	呉器手碗、量付砂付着、17 世紀後半～18世紀前半
226	陶器	碗	肥前系	—	(5.1)	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
227	陶器	碗	肥前系	—	5.1	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
228	陶器	碗	肥前系	—	(6.0)	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (やや白色味強 い)	表土・攪乱	呉器手碗、漆継、17世紀 後半～18世紀前半
229	陶器	碗	肥前系	—	(4.6)	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
230	陶器	碗	肥前系	—	4.6	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
231	陶器	碗	肥前系	—	(5.3)	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	北側溝	呉器手碗、焼成不良?(外 面釉白濁)、17世紀後半～ 18世紀前半
232	陶器	碗	肥前系	(11.9)	—	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
233	陶器	碗	肥前系	(10.8)	—	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	呉器手碗、17世紀後半～ 18世紀前半
234	陶器	碗	肥前系	(11.5)	5.4	7.3	ロクロ	灰釉(底 部除く)	鉄絵	手描き	刻印「清 水」・円 刻(高台 内)	灰白色 2.5Y8/2	表土・攪乱	京焼風陶器、17世紀後半 ～18世紀前半
235	陶器	碗	肥前系	9.6	5.0	6.15	ロクロ	灰釉(底 部除く)	鉄絵	手描き	刻印「小 松吉」・ 円刻(高 台内)	灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	京焼風陶器、17世紀後半 ～18世紀前半
236	陶器	碗	肥前系	(9.3)	5.0	6.1	ロクロ	灰釉(底 部除く)	鉄絵	手描き	刻印「清 水」・渦 巻(高台 内)	灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	京焼風陶器、17世紀後半 ～18世紀前半
237	陶器	碗	肥前系	(11.2)	(4.0)	5.5	ロクロ	鉄釉	白化粧土	刷毛目		灰赤色 2.5YR6/2	表土・攪乱	17世紀後半～
238	陶器	碗	肥前系	—	(4.5)	—	ロクロ	透明釉 (白化粧土 塗布のち)				灰白色 5Y8/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	陶胎染付?、量付砂付着、 17世紀後半～19世紀
239	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	4.9	—	ロクロ	鉄釉(天 目釉) 錆釉(底 部)				灰白色 2.5Y8/1 (やや白色味強 い)	表土・攪乱	天目碗、17世紀
240	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	(4.1)	—	ロクロ	鉄釉(内 面)				灰白色 2.5Y8/2 (やや白色味強 い)	表土・攪乱	天目碗、17世紀
241	陶器	碗	瀬戸・ 美濃系	—	4.0	—	ロクロ	灰釉(量 付除く外 面) 緑釉(内 面)		トビガンナ (外面)		淡黄色 2.5Y8/3	表土・攪乱	鍍茶碗、18世紀後半～19 世紀前半
242	陶器	碗	京・ 信楽系	(9.2)	—	—	ロクロ	灰釉	上絵付 (赤色・ 黄色・ 緑色)	手描き		灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	注連縄文碗、18世紀前半 ～19世紀後半
243	陶器	碗	京・ 信楽系	—	—	—	ロクロ	灰釉	錆絵	手描き		灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	注連縄文碗、18世紀後半 ～19世紀代
244	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(3.4)	—	ロクロ	灰釉(底 部除く)	上絵付 (緑色・ 黄色)	手描き		灰白色 2.5Y8/1 (やや白色味強 い)	表土・攪乱	
245	陶器	碗	京・ 信楽系	—	(5.3)	—	ロクロ	灰釉(底 部除く)				灰白色 5Y7/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	
246	陶器	碗	京・ 信楽系	—	3.3	—	ロクロ	灰釉(底 部除く)				灰白色 N8/	表土・攪乱	

註は第2表と同じ。

第10表 包含層遺物観察表(9)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
247	陶器	碗	肥前系	—	(2.6)	—	ロクロ	鉄釉 (内面・外面上半) 錆釉 (畳付~高台内除く外面下半)				灰白色 N8/ (灰色味強い)	表土・攪乱	畳付砂目跡、1610~1640年代
248	陶器	碗	瀬戸・美濃系	—	(5.5)	—	ロクロ	鉄釉 (底部除く)			刻印一重 方形枠 内波線・ 「露」(高台脇)	灰白色 2.5Y7/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	
249	陶器	皿	肥前系	—	(5.1)	—	ロクロ	銅緑釉 (底部除く)				灰白色 5Y8/1 (やや白色味強い)	表土・攪乱	銅緑釉皿、見込蛇ノ目釉剥ぎ・砂目、17世紀末~18世紀前半
250	陶器	皿	肥前系	—	4.4	—	ロクロ	灰釉 (内面)				灰黄色 2.5Y7/2 (やや灰色味強い)	表土・攪乱	見込蛇ノ目釉剥ぎ・砂付着、1650~1780年代
251	陶器	皿	肥前系	11.9	4.0	3.7	ロクロ	灰釉 (外面上半~内面)				灰白色 5Y7/1 (やや灰色味強い)	西側溝	見込・畳付砂目、1610~1690年代
252	陶器	皿	肥前系	(13.2)	4.3	3.4	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	見込・高台砂目、1610~1690年代
253	陶器	皿	肥前系	11.6	3.7	2.0	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 5Y7/1 (やや白色味強い)	北側溝	灰釉溝縁皿、見込・高台砂目、1610~1640年代
254	陶器	皿	肥前系	(13.9)	—	—	ロクロ	灰釉				灰白色 2.5Y7/1	表土・攪乱	灰釉溝縁皿、1610~1640年代
255	陶器	皿	肥前系	—	4.1	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/2 (やや灰色味強い)	北側溝	見込砂目、高台脇砂付着
256	陶器	皿	肥前系	—	4.5	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	見込・畳付砂目
257	陶器	皿	肥前系	—	(9.0)	—	ロクロ	灰釉	黒化粧土	三島手 (印花・線彫り)		灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	見込砂目、1610~1690年代
258	陶器	皿	肥前系	—	4.9	—	ロクロ	灰釉	鉄絵	手描き		灰黄色 2.5Y7/2	表土・攪乱	絵唐津、見込胎土目、1594年頃~1610年代
259	陶器	皿	肥前系	—	4.7	—	ロクロ	灰釉 (外面上半~内面)				にぶい橙色 7.5YR7/3	壁崩落土	見込胎土目跡、1594年頃~1610年代
260	陶器	皿	肥前系	(13.2)	(4.7)	3.5	ロクロ	灰釉 (底部除く)				灰色 N6/	表土・攪乱	
261	陶器	皿	肥前系	(15.0)	(5.0)	5.35	ロクロ	灰釉 (底部除く)	鉄絵	手描き		灰白色 2.5Y7/1 (白色味強い)	表土・攪乱	絵唐津、17世紀
262	陶器	皿	肥前系	—	—	4.7	型打	灰釉 (畳付を含む全面)		型打による 陽刻		灰白色 2.5Y8/1	北側溝	葉形、畳付砂目、三足欠損
263	陶器	皿	肥前系	—	7.2	—	型打	灰釉 (底部除く)	鉄絵 染付	手描き		灰白色 2.5Y8/2	表土・攪乱	京焼風陶器、17世紀後半~18世紀前半
264	陶器	皿	肥前系	(23.6)	(8.8)	3.1	ロクロ	灰釉 (畳付を含む全面)	鉄絵	手描き		灰白色 5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	京焼風陶器、17世紀後半~18世紀前半
265	陶器	皿	瀬戸・美濃系	(15.0)	6.1	3.65	型成形 (外型・内型貼付(高台))	灰釉 (底部除く)				灰白色 2.5Y8/2	表土・攪乱	木瓜形
266	陶器 (大皿)	皿	瀬戸・美濃系	(37.4)	—	—	ロクロ	灰釉 (高台脇除く)				灰白色 5Y8/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	18世紀後葉
267	陶器	盤	備前系	(40.0)	—	—	ロクロ					赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	塗土 (内面上半)、16世紀末~17世紀初頭
268	陶器	向付	肥前系	—	5.1	—	ロクロ	灰釉 (底部除く)	鉄絵	手描き		にぶい橙色 5YR7/4	表土・攪乱	絵唐津、17世紀
269	陶器	向付	京・信楽系	—	(5.0)	—	型打	灰釉 (底部除く)	錆絵	手描き		にぶい黄褐色 10YR7/2	表土・攪乱	
270	陶器	鉢?	珉平	(10.2)	—	—	ロクロ	褐釉				灰白色 N8/ (灰色味強い)	表土・攪乱	磁器質胎土、19世紀
271	陶器	鉢	肥前系	(33.0)	(12.4)	10.8	ロクロ	鉄釉 錆釉 (胴部外面下半・内面) 鉄釉・緑釉流し 掛け (外・内面)	白化粧土	刷毛目		赤灰色 2.5YR5/1	表土・攪乱	漆継?、17世紀後半~18世紀後半
272	陶器	鉢	肥前系	(33.7)	(11.3)	(11.0)	ロクロ	鉄釉 (胴上部外面~内面) 褐釉流し 掛け (内面)	白化粧土	刷毛目		赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	見込砂目、17世紀後半~18世紀後半
273	陶器	鉢	肥前系	—	(12.0)	—	ロクロ	鉄釉 緑釉流し 掛け (内面)	白化粧土	刷毛目		にぶい赤褐色 2.5YR5/4	表土・攪乱	見込砂目、内側面陶器片熔着、17世紀後半~18世紀後半
274	陶器	鉢	肥前系	—	(13.5)	—	ロクロ	灰釉	白化粧土 下絵付 (鉄釉・ 緑釉)	二彩手		褐灰色 7.5YR6/1	表土・攪乱	見込砂目、17世紀後半~18世紀後半
275	陶器	鉢	肥前系	—	(12.2)	—	ロクロ	透明釉	白化粧土	刷毛目?		にぶい橙色 7.5YR7/4 にぶい橙色 2.5YR6/4 (芯部)	表土・攪乱	17世紀後半~18世紀後半

註は第2表に同じ。

第11表 包含層遺物観察表(10)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径(cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
276	陶器	鉢	肥前系	—	(13.3)	—	ロクロ	灰釉 錆釉(置 付除く外 面)	白化粧土	三鳥手(印 花・線彫り)		赤褐色 10R5/3	表土・攪乱	見込砂目、17世紀後半～ 18世紀後半
277	陶器	大鉢	大谷	(35.4)	—	—	ロクロ	鉄釉				にぶい赤褐色 10R6/4	表土・攪乱	19世紀
278	陶器	捏鉢	瀬戸・ 美濃系	(25.0)	(15.7)	—	ロクロ	灰釉(底 部除く)			墨書あり (高台内)	灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	見込貝痕、19世紀第2四 半期～
279	陶器	小坏	肥前系	—	3.4	—	ロクロ	鉄釉(置 付除く)、 黄灰釉? 流し掛け (外面上 半)				にぶい赤褐色 10R6/3	壁崩落土	
280	陶器	小坏	京・ 信楽系	—	3.8	—	ロクロ	灰釉(高 台内除く)		鑄		灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	
281	陶器	小坏	舞子	—	3.6	—	ロクロ	灰釉(置 付除く)				灰白色 N7/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	胎土は黒色の鉄粉状微粒子 を多量に含み、灰釉には鉄 染みがみられる、19世紀
282	陶器	香炉・ 火入	肥前系	—	6.6	—	ロクロ	鉄釉?(外 面)				にぶい橙色 2.5YR6/3	表土・攪乱	切高台(3方向)
283	陶器	香炉・ 火入	瀬戸・ 美濃系	(12.6)	(10.0)	6.8	ロクロ	鉄釉(底 部除く外 面) アノノ釉 流し掛け (外面)				灰白色 2.5Y8/2 (白色味強い)	表土・攪乱	切高台
284	陶器	香炉・ 火入	京・ 信楽系	(10.0)	—	—	ロクロ	灰釉(外 面～口縁 部内面) (白化粧土 塗布のち)				灰白色 10YR7/1 (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	貫入顕著
285	陶器	香炉	環平	(7.8)	(5.6)	3.0	ロクロ 貼付(足)	瑠璃釉(足 先端除く)				灰白色 2.5Y8/1 (白色味強い)	表土・攪乱	19世紀
286	陶器	香炉・ 火入	—	—	(14.3)	—	ロクロ	灰釉?(底 部除く外 面)				にぶい赤褐色 2.5YR5/4	表土・攪乱	
287	陶器	瓶	備前系	—	(5.8)	—	ロクロ					灰色 N6/	表土・攪乱	塗土(底部除く外面)
288	陶器	瓶	備前系	—	(6.4)	—	ロクロ					灰赤色 7.5R6/2	表土・攪乱	塗土・火襷(外面)
289	陶器	瓶	備前系	—	(10.7)	—	ロクロ					赤褐色 10R4/3	表土・攪乱	塗土(外面)
290	陶器	瓶	備前系	—	—	—	ロクロ			型押・貼付 (布袋)		灰白色 2.5Y7/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	塗土(外面)
291	陶器	瓶	大谷	—	(7.0)	—	ロクロ	鉄釉(外 面)				赤色 10R5/6	表土・攪乱	底部焼成後穿孔、19世紀
292	陶器	—	大谷	—	6.2	—	ロクロ	鉄釉(底 部除く外 面)				灰赤色 10R5/2	表土・攪乱	瓶または水注または壺、19 世紀
293	陶器	壺	肥前系	(24.2)	—	—	ロクロ	鉄釉		刷毛目(鉄 釉を削り取 る)		褐灰色 7.5YR6/1 (灰色味強い)	表土・攪乱	
294	陶器	壺	肥前系	—	12.3	—	ロクロ	錆釉 灰釉(外・ 内面上部)				にぶい赤褐色 2.5YR5/3	表土・攪乱	見込砂付着(環状)、高台 砂付着、底部焼成後穿孔? 一植木鉢転用?
295	陶器	壺?	備前系 ?	(17.5)	—	—	ロクロ					灰赤色 10R5/2	北側溝	自然釉(外面)
296	陶器	壺	大谷	—	—	—	ロクロ	鉄釉				赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	19世紀
297	陶器	壺	大谷	—	(18.2)	—	ロクロ	鉄釉(底 部外面除 く)				赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	底部内面砂目・もみ殻跡、 19世紀
298	陶器	—	大谷?	—	(20.0)	—	ロクロ	鉄釉(底 部除く外 面)				橙色 2.5YR6/6	表土・攪乱	壺または大鉢、塗土?(内 面)、19世紀
299	陶器	壺	京・ 信楽系	(8.0)	—	—	ロクロ	灰釉				灰白色 N7/ (やや白色味強 い)	表土・攪乱	
300	陶器	壺	京・ 信楽系	—	(10.6)	—	ロクロ	並白釉(底 部除く外 面)				灰白色 N8/ (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	腹白茶壺?、17世紀前半 ～19世紀
301	陶器	壺	京・ 信楽系	—	(8.9)	—	ロクロ	並白釉(底 部除く外 面)				明褐色 5YR7/2 (外側) 灰白色 2.5Y8/1 (内側)	表土・攪乱	腹白茶壺?、17世紀前半 ～19世紀
302	陶器	—	丹波系	—	(19.5)	—	ロクロ	鉄釉(底 部外面除 く)				褐灰色 10YR6/1 灰黄褐色 10YR6/2	表土・攪乱	壺または壺 北側溝
303	陶器	手水鉢	瀬戸・ 美濃系	(31.4)	—	—	ロクロ	灰釉 ウノフ釉・ 銅緑釉流 し掛け				灰白色 N8/ (やや灰色味強 い)	表土・攪乱	
304	陶器	急須	—	5.0	5.4	7.2	ロクロ	透明釉(外 面) (白化粧土 塗布のち)	下絵付 (鉄釉・褐 釉・具須 釉)	手描き		にぶい黄褐色 10YR7/3	表土・攪乱	底部外面スス付着
305	陶器	急須 (把手)	—	—	—	—	ロクロ 貼付	透明釉 (把手外面 白化粧土 塗布のち)				にぶい黄褐色 10YR7/3	表土・攪乱	304の把手?
306	陶器	土瓶	瀬戸・ 美濃系	(9.7)	—	—	ロクロ	灰釉(蓋 受け除く 外面)		鑄 線彫り		灰白色 2.5Y8/2 (やや白色味強 い)	表土・攪乱	

註は第2表に同じ。

第12表 包含層遺物観察表 (11)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
307	陶器	土瓶	—	—	7.3	—	ロクロ	灰釉 (内面)				淡黄色 2.5Y8/3	表土・攪乱	
308	陶器	土瓶 (注口)	—	—	—	—	ロクロ貼付	灰釉 (外面・内面) 透明釉 (胴部内面)	白化粧土			灰黄色 2.5Y7/2	壁崩落土	
309	陶器	土瓶 (注口)	—	—	—	—	ロクロ貼付	灰釉 (白化粧土塗布のち)				灰白色 10YR8/2	表土・攪乱	
310	陶器	土瓶 (注口)	—	—	—	—	ロクロ貼付	灰釉 (外面) 錆釉のち灰釉? (内面)				浅黄橙色 7.5YR8/3	表土・攪乱	
311	陶器	植木鉢?	—	(10.3)	—	—	ロクロ	鉄釉				灰白色 N7/ (灰色味強い)	表土・攪乱	
312	陶器	片口	肥前系	—	—	—	ロクロ	灰釉	鉄絵	手描き		にぶい橙色 5YR7/4	表土・攪乱	絵唐津、17世紀
313	陶器	播鉢	備前系	(30.0)	—	—	ロクロ					褐灰色 5YR6/1	北側溝	口縁部上端と口縁部外面下に重ね焼き痕、口縁部外面と胴部外面に色調差、兼岡近世2a期(17世紀前葉) 胴部外面:回転ナデ
314	陶器	播鉢	備前系	(33.2)	—	—	ロクロ					にぶい赤橙色 10R6/4	表土・攪乱	口縁部上端と口縁部外面下に重ね焼き痕、口縁部外面と胴部外面に色調差、兼岡近世2a期(17世紀前葉) 胴部外面:回転ナデ
315	陶器	播鉢	備前系	(29.0)	—	—	ロクロ					にぶい橙色 2.5YR6/4 灰色 N5/ (口縁部)	北側溝	スリメ12条/単位、口縁部上端と口縁部外面下に重ね焼き痕、口縁部外面と胴部外面に色調差、兼岡近世2b期(17世紀第3四半期頃) 胴部外面:回転ナデ
316	陶器	播鉢	備前系	(25.5)	—	—	ロクロ					赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	スリメ11条/単位、口縁部外面と胴部外面に色調差、兼岡近世5b期(19世紀中頃?) 胴部外面:回転ナデ
317	陶器	播鉢	備前系	—	—	—	ロクロ					にぶい橙色 2.5YR6/4	表土・攪乱	口縁部外面下重ね焼き痕、口縁部外面と胴部外面に色調差 胴部外面:回転ナデ
318	陶器	播鉢	備前系	—	(17.3)	—	ロクロ貼付					にぶい橙色 2.5YR6/4	表土・攪乱	スリメ9条/単位、貼付高台、塗土(外・内面)、火摺(外面)、兼岡近世3期(17世紀第4四半期~18世紀初頭) 胴部外面:ナデ?
319	陶器	播鉢	備前系	—	—	—	ロクロ					橙色 2.5YR6/6	表土・攪乱	兼岡近世1期(16世紀第2四半期末~17世紀初頭) 胴部外面:回転ナデ
320	陶器	播鉢	堺・明石系	(29.0)	—	—	ロクロ					灰色 N4/ (外側) 赤褐色 10R5/4 (内側)	表土・攪乱	スリメ6条/単位、白神I型式(18世紀中頃) 胴部外面:回転ヘラケズリのち回転ナデ
321	陶器	播鉢	堺・明石系	(26.9)	—	—	ロクロ					灰色 N5/ 赤褐色 10R5/4 (芯部)	表土・攪乱	スリメ9条/単位、白神I型式(18世紀中頃) 胴部外面:回転ヘラケズリのち回転ナデ
322	陶器	播鉢	堺・明石系	(26.5)	—	—	ロクロ					赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	スリメ16条/単位、体部上部と下部に色調差、白神II型式(18世紀後半~19世紀) 胴部外面:回転ヘラケズリのち回転ナデ
323	陶器	播鉢	堺・明石系	—	—	—	ロクロ					赤褐色 10R6/6	表土・攪乱	白神II型式(18世紀後半~19世紀)
324	陶器	播鉢	堺・明石系	—	(10.8)	—	ロクロ					灰白色 N7/	表土・攪乱	見込スリメ放射状(9条/単位) 胴部外面:回転ナデ
325	陶器	播鉢	堺・明石系?	—	(20.0)	—	ロクロ					赤褐色 10Y5/4	表土・攪乱	底部端から1cmほどのところを強くナデ、わずかに高台を作り出す? 胴部外面:回転ナデ
326	陶器	播鉢	堺・明石系?	—	(13.2)	—	ロクロ					赤色 10R5/6	表土・攪乱	胴部外面:ナデ
327	陶器	播鉢	堺・明石系?	—	(19.5)	—	ロクロ					赤褐色 10R5/4	表土・攪乱	高台内欠損部分あり(焼き台をはずす際欠損?) 胴部外面:回転ナデ
328	陶器	播鉢	瀬戸・美濃系	—	—	—	ロクロ	鉄釉(外面・口縁部内面) 錆釉(胴部内面)				灰白色 2.5Y8/2	表土・攪乱	
329	陶器	播鉢	—	(19.5)	—	—	ロクロ	鉄釉				灰色 N5/ 灰黄色 2.5Y6/2 (芯部)	北側溝	スリメ19条/単位
330	陶器	火鉢?	瀬戸・美濃系	—	—	—	板作り	灰釉 ウノフ釉・アガノ釉 流し掛け(外面)				灰黄色 2.5Y7/2 (灰色味強い)	表土・攪乱	角火鉢?

註は第2表に同じ。

第13表 包含層遺物観察表(12)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径(cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	造構・層位	備考
331	陶器	鍋	-	(14.0)	-	-	ロクロ	鉄釉(柿 釉)				灰白色 2.5Y7/1	表土・攪乱	
332	陶器	行平鍋 (把手)	-	-	-	-	ロクロ 貼付	灰釉				にぶい黄橙色 10YR7/2	表土・攪乱	
333	陶器	灯明皿	備前系	(8.0)	-	-	ロクロ					にぶい橙色 2.5YR6/4	表土・攪乱	塗土(内面)
334	陶器	灯明皿	備前系	-	-	1.0	ロクロ					にぶい赤橙色 10R6/4	表土・攪乱	塗土(内面)、灯芯油痕
335	陶器	灯明受皿 (上皿)	大谷	7.1	3.0	1.5	ロクロ	鉄釉(底 部除く)				褐灰色 7.5YR4/1	表土・攪乱	脚付灯明受皿、胴下部外面 重ね焼き痕(環状)、底部 板目状圧痕、19世紀
336	陶器	味噌焼き 器	大谷	-	4.0	-	ロクロ	鉄釉(底 部除く)				橙色 2.5Y6/6	表土・攪乱	高台に穿孔(2か所)、19 世紀
337	陶器	急須蓋	萬古系	5.8	1.5	2.0	型成形	鉄釉(摘 み上部)				褐灰色 7.5YR5/1	表土・攪乱	外・内面に細かい布目痕、 明治～ 口縁部上面:ユビオサエ
338	陶器	土瓶蓋	京・ 信楽系	(6.1)	2.6	3.8	ロクロ	灰釉(合 わせ目除 く外面)	白化粧土	イッチン描	刻印「寶 山」(見 込)	灰白色 10YR8/2	表土・攪乱	
339	陶器	土瓶蓋	-	(6.2)	-	-	ロクロ	灰釉(合 わせ目除 く外面)				灰白色 2.5Y8/1	表土・攪乱	
340	陶器	蓋	備前系	(10.0)	(3.8)	1.4	ロクロ					にぶい赤褐色 2.5YR5/4	表土・攪乱	
341	土師質 土器	皿	-	(14.1)	(9.6)	2.35	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・結晶片岩・ 金雲母(極小、 少量)	表土・攪乱	底部スス付着 外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
342	土師質 土器	皿	-	(11.0)	(7.0)	1.65	ロクロ					灰白色 10YR8/1	表土・攪乱	外面スス付着 外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
343	土師質 土器	皿	-	(10.6)	(7.6)	1.65	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・金雲母(極 小、少量)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離し(底 部)、回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
344	土師質 土器	皿	-	(10.9)	(7.0)	1.6	ロクロ					黄灰色 2.5Y5/1 長石(極小、少量)	表土・攪乱	全面スス付着、灯芯油痕 外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
345	土師質 土器	皿	-	(10.4)	(7.1)	1.4	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・黒色粒・ 金雲母(極小、 少量)	表土・攪乱	灯芯油痕 外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
346	土師質 土器	皿	-	(11.3)	-	-	ロクロ					灰白色 10YR8/1 長石・黒色粒(極 小、少量)	表土・攪乱	外面スス付着 外・内面:回転ナデ
347	土師質 土器	皿	-	11.0	8.1	1.6	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・石英・金 雲母(極小、少量)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ
348	土師質 土器	皿	-	10.9	(6.3)	1.95	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・結晶片岩・ 金雲母(極小、 少量)	北側溝	灯芯油痕 外面:右回転糸切り離しの ち板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
349	土師質 土器	皿	-	10.7	6.7	1.95	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・結晶片岩 (極小、少量)	北側溝	底部スス付着 外面:右回転糸切り離しの ち板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
350	土師質 土器	皿	-	(9.4)	(6.05)	1.45	ロクロ					灰白色 2.5Y8/1 長石・結晶片岩・ 金雲母(極小)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
351	土師質 土器	皿	-	(9.4)	(6.5)	1.3	ロクロ					灰白色 10YR8/1 金雲母・長石(極 小、少量)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離し(底 部)、回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
352	土師質 土器	皿	-	9.3	6.2	1.65	ロクロ					灰白色 7.5YR8/3 長石・石英・金 雲母(極小、少量)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
353	土師質 土器	皿	-	(9.0)	(6.8)	1.35	ロクロ					灰白色 10YR8/1 黒色粒・長石・ 金雲母(極小、 少量)	表土・攪乱	灯芯油痕 外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
354	土師質 土器	皿	-	(7.2)	(5.35)	1.25	ロクロ					灰白色 10YR8/2 長石・金雲母・ 黒色粒(極小、 少量)	北側溝	外面:回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
355	土師質 土器	皿	-	(7.6)	(5.6)	1.1	ロクロ					にぶい橙色 7.5YR7/3 長石・金雲母(極 小、少量)	表土・攪乱	外面:回転糸切り離し(底 部)、回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
356	土師質 土器	皿	-	6.3	4.5	0.95	ロクロ					浅黄橙色 10YR8/3 黒色粒・長石・ 金雲母・赤色斑 粒(極小、少量)	表土・攪乱	外面:右回転糸切り離しの ち板目状圧痕あり(底部)、 回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ
357	土師質 土器	皿	-	7.0	4.6	1.0	ロクロ					にぶい橙色 5YR7/4 長石・金雲母(極 小、少量)	表土・攪乱	内面スス付着 底部外面右回転糸切り離し (板目状圧痕なし)

註は第2表と同じ。

第14表 包含層遺物観察表 (13)

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 摘み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
358	土師質 土器	皿	—	(7.3)	(2.4)	1.2	ロクロ					橙色 2.5YR7/6 浅黄橙色 7.5YR8/3 (芯部) 長石・金雲母 (極 小、少量)	表土・攪乱	外面：回転糸切り離し (底 部)、回転ナデ 内面：回転ナデ
359	土師質 土器	皿	—	—	6.8	—	ロクロ					にぶい橙色 7.5YR7/4 金雲母・長石・ 赤色斑粒 (極小、 少量)	表土・攪乱	外面：右回転糸切り離しの ち板目状圧痕あり (底部)、 回転ナデ 内面：ナデ
360	土師質 土器	皿	—	—	(5.8)	—	ロクロ					橙色 5YR7/6 金雲母・長石・ 赤色斑粒 (極小、 少量)	表土・攪乱	外面：右回転糸切り離しの ち板目状圧痕あり (底部)、 回転ナデ 内面：回転ナデ
361	土師質 土器	皿	—	—	(6.4)	—	ロクロ					浅黄橙色 7.5YR8/3 長石・金雲母・ 黒色粒 (極小、 少量)	表土・攪乱	外面：回転糸切り離しのち 板目状圧痕あり (底部) 内面：ナデ
362	土師質 土器	皿	—	—	(6.4)	—	ロクロ					灰白色 10YR8/2 (やや白色味強 い) 長石・金雲母 (極 小、少量)	表土・攪乱	内外面スス付着 外面：板目状圧痕あり (底 部)、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ
363	土師質 土器	碗型土器	—	(10.2)	3.7	5.0	手捏ね					浅黄橙色 10YR8/3 長石・金雲母・ 黒色粒・赤色斑 粒・結晶片岩 (極 小、少量)	北側溝	胴部～底部外面スス付着・ 表面剥離顕著 外面：横ナデ (口縁部)、 ナデ、ユビオサエ 内面：横ナデ (口縁部)、 ナデ
364	土師質 土器	碗型土器	—	(10.0)	—	—	手捏ね					灰白色 2.5Y8/2 金雲母・長石・ 石英 (極小、少量)	表土・攪乱	外面下半・見込スス付着 外・内面：ナデ (外面ユビ オサエ)
365	土師質 土器	火鉢・焔 炉	—	17.8	—	19.5	板作り (外 壁) 外型成形・ 貼付 (内部 施設) 型押・貼付 (出窓・把手)			赤彩 (底部 除く外面)		にぶい橙色 7.5YR7/3 長石・金雲母 (極 小、少量)	表土・攪乱	七厘、内部・上部開放部ス ス付着 外壁外面：ミガキ (底部除 く) 外壁内面：ハケメ 内部施設外面：ユビオサエ、 無調整 内部施設内面：横ハケ、横 ナデ
366	土師質 土器	火鉢・焔 炉	—	—	(21.0)	—	輪積み? 貼付					橙色 5YR6/6 長石・金雲母・ 石英・赤色斑粒 (極小)	表土・攪乱	外面：回転ナデ、ミガキ
367	土師質 土器	火鉢・焔 炉	—	—	—	—	貼付					浅黄橙色 7.5YR8/4 長石・金雲母・ 赤色斑粒 (極小)	表土・攪乱	舟竈 外・内面：ナデ、板ナデ
368	土師質 土器	火鉢・焔 炉	—	—	—	—	—					浅黄橙色 7.5YR8/3 長石・石英・結 晶片岩・赤色斑 粒 (極小、多量)	表土・攪乱	涼炉?、アーチ状に切り込 む高台 外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ
369	瓦質 土器	火鉢・焔 炉	—	(16.0)	—	—	貼付					黄灰色 2.5Y6/1 長石・金雲母 (極 小、少量)	北側溝	行火?、内面スス付着 外面：ミガキ 内面：回転ナデ
370	土師質 土器	火消壺	—	(12.0)	—	—	外型成形 (肩 部・胴部) 貼付・回転 台成形					にぶい褐色 7.5YR6/3 金雲母・長石・ 黒色粒・赤色斑 粒 (極小)	表土・攪乱	内面スス付着 外面：回転ナデ、横ナデ 内面：回転ナデ
371	土師質 土器	さな	—	(14.5)	(15.2)	1.7	型成形 棒状工具に よる穿孔					灰白色 2.5Y7/1 にぶい褐色 7.5YR7/4 長石・黒色粒・ 金雲母 (極小)	表土・攪乱	両面離れ砂付着
372	土師質 土器	鍋	—	(30.2)	—	—	粘土紐巻上 げ?					浅黄橙色 7.5YR8/4 灰オリーブ色 5Y5/2 (芯部) 長石・金雲母 (極 小)	表土・攪乱	外面スス付着 外面：縦ハケのちナデ (口 縁部)、縦ハケ (胴部上半)、 横ハケ (胴部下半) 内面：ナデ (口縁部)、横 ハケ (胴部上半)、板ナデ (胴 部下半)
373	土師質 土器	行平鍋	—	(16.6)	—	—	ロクロ	透明釉 (明 赤褐色)				橙色 5YR6/6	表土・攪乱	
374	土師質 土器	植木鉢?	—	(14.1)	—	—	ロクロ					橙色 7.5YR7/6 長石・結晶片岩・ 赤色斑粒 (極小)	北側溝	外・内面：回転ナデ
375	土師質 土器	植木鉢?	—	—	—	—	ロクロ			赤彩 (外・ 内面)		橙色 2.5YR7/6 長石・石英・赤 色斑粒・黒色粒 (極小)	表土・攪乱	外・内面：回転ナデ
376	土師質 土器	乗燭	—	—	(5.2)	—	ロクロ	透明釉				浅黄橙色 7.5YR8/4 長石・金雲母 (極 小、少量)	表土・攪乱	底部に軸穴穿孔、外・内面 スス付着、表面剥離顕著
377	土師質 土器	焙烙	関西系	(24.4)	—	—	型成形 (底 部) 貼付・回転 台成形					橙色 2.5YR6/6 長石・金雲母・ 石英・黒色粒・ 赤色斑粒 (極小)	表土・攪乱	口縁部外面スス付着、難波 C類 (17世紀第2四半期～ 18世紀初頭) 外面：櫛状工具掻き上げの ち回転ナデ (口縁部) 内面：回転ナデ

註は第2表に同じ。

第15表 包含層遺物観察表（14）

報告番号	胎質	器種	生産地	口径 (cm)	底径・ 握み径 (cm)	器高 (cm)	成形技法	釉薬	絵付	装飾技法	銘・刻印・ 墨書	胎土色・ 含有鉱物	遺構・層位	備考
378	土師質 土器	焙烙	関西系	(24.2)	—	—	型成形（底 部） 貼付・回転 台成形					にぶい橙色 5YR6/4 長石・金雲母・ 黒色粒・赤色斑 粒（極小）	表土・攪乱	外面スス付着、難波E類（17 世紀後半～18世紀前半） 外・内面：回転ナデ（やや 粗い）
379	土師質 土器	焙烙	関西系	—	—	—	型成形（底 部） 貼付・回転 台成形					浅黄橙色 7.5YR8/4 長石・金雲母・ 石英・結晶片岩・ 赤色斑粒（極小）	表土・攪乱	底部外面スス付着、難波D 類（17世紀末～幕末以降） 外・内面：回転ナデ
380	瓦質 土器	焙烙	御厩系	(40.4)	—	—	型成形（胴 部） 貼付・回転 台成形					灰白色 2.5Y8/1 灰石 N4/（芯部） 長石・金雲母（極 小）	表土・攪乱	外面スス付着 外面：回転ナデ（口縁部）、 ユビオサエ（胴部） 内面：回転ナデ
381	瓦質 土器	—	—	(8.5)	—	—	型成形（口 縁部と胴部 分割成形）					灰白色 N8/ （灰色味強い） 金雲母・長石・ 黒色粒（極小、 少量）	表土・攪乱	釜類または土瓶 外・内面：回転ナデ
382	土師質 土器	味噌焼き 器	—	6.3	3.7	3.1	ロク口	透明釉（暗 赤褐色）				橙色 2.5YR7/6	表土・攪乱	高台に穿孔（2か所）
383	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.6)	4.0	3.0	ロク口	透明釉（暗 赤褐色）				橙色 5YR7/6	表土・攪乱	高台に穿孔（2か所）
384	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.5)	(4.5)	3.0	ロク口	透明釉（赤 褐色）				橙色 5YR7/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	高台に穿孔（2か所）
385	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(7.0)	(4.85)	3.0	ロク口	透明釉（赤 褐色）（底 部除く）				橙色 5YR6/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	高台に穿孔1か所残存
386	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.7)	—	—	ロク口	透明釉（赤 褐色）				橙色 5YR7/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	高台に穿孔1か所残存
387	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.6)	—	—	ロク口 貼付（高台）	透明釉（赤 褐色）				橙色 2.5YR7/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	高台に穿孔1か所残存
388	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.5)	—	—	ロク口 貼付（高台）	透明釉（赤 褐色）				橙色 5YR7/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	
389	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.7)	—	—	ロク口 貼付（高台）	透明釉（暗 赤褐色）				橙色 5YR7/6	表土・攪乱	
390	土師質 土器	味噌焼き 器	—	(6.8)	—	—	ロク口	透明釉（赤 褐色）				橙色 2.5YR7/6	表土・攪乱	
391	土師質 土器	味噌焼き 器	—	—	(4.3)	—	ロク口 貼付（高台）	透明釉（赤 褐色）				橙色 5YR7/6	表土・攪乱	高台欠損
392	土師質 土器	味噌焼き 器	—	—	(4.4)	—	ロク口	透明釉（赤 褐色）				橙色 2.5YR7/6 金雲母（極小）	表土・攪乱	高台に穿孔（2か所）
393	土師質 土器	土型	—	—	—	—	—					褐灰色 10YR5/1 長石・石英・金 雲母（極小、多量）	表土・攪乱	泥面子（松緑）の型？、被 熱の際下面に砂付着？
394	土師質 土器	—	—	—	(6.6)	—	ロク口					橙色 5YR7/6 金雲母（極小、 少量）	表土・攪乱	外面：回転糸切り離し（底 部）、回転ナデ 内面：回転ナデ
395	土師質 土器	火消壺蓋	—	(22.9)	(22.4)	3.1	外型成形（底 部） 貼付・回転 台成形					にぶい橙色 7.5YR7/4 長石・金雲母・ 石英・赤色斑粒 （極小）	表土・攪乱	内面スス付着 外・内面：回転ナデ
396	土師質 土器	火消壺蓋	—	—	(16.6)	—	外型成形（底 部） 貼付・回転 台成形					にぶい橙色 7.5YR7/3 金雲母・長石・ 赤色斑粒（極小）	表土・攪乱	外面：回転ナデ、ユビオサ エ（底部）、板ナデ？（胴部） 内面：回転ナデ
397	土師質 土器	行平鍋蓋	—	—	4.2	—	ロク口	透明釉（明 赤褐色）		櫛描き		橙色 5YR6/6 金雲母（極小、 少量）	表土・攪乱	
398	磁器	ミニチュ ア碗	肥前系	(2.9)	1.5	1.7	ロク口	透明釉	染付	手描き		灰白色 N8/ （白色味強い）	表土・攪乱	高台内砂付着
399	磁器	ミニチュ ア碗	肥前系	3.4	1.7	2.3	ロク口	透明釉（底 部除く）				灰白色 N8/ （白色味強い）	表土・攪乱	
400	土師質 土器	ミニチュ ア甕	—	—	—	8.15	板作り					橙色 5YR6/6 長石・金雲母（極 小、少量）	表土・攪乱	内面スス付着

註は第2表に同じ。

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g)	材質	遺構・層位	備考
401	不明銅製品	[16.6]	0.8	21.9	銅	表土	

* [] は残存部のサイズを示す。

報告番号	遺物名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	遺構・層位	備考
402	インク瓶	6.3	5.8	99.2	表土	肩部に、S. S. S. FOUNTAIN PEN INK. とエンボス加工される
403	ソーダ瓶	24.5	6.6	432.0	表土	外面下部に「登録（マーク）商標 日本菱酒鉾株式会社」、底部に「A5:」がエンボス加工されている。1921～1933年に製造された瓶と考えられる

第16表 包含層遺物観察表 (15)

報告番号	遺物名	瓦当・軒丸部 (cm) *			瓦当・軒平部 (cm) *			筒部 (cm) *				調整	色調 (断面)	胎土	含有鉱物	離型材 **	コビキ **	遺構・層位	備考	
		文様	瓦当部径	内区幅	珠径	文様	瓦当部全幅	瓦当部高	筒部全長	筒部全幅	筒部厚									筒部高
404	軒丸瓦	三巴文、連珠	(16.0)	(10.0)	1.2	—	—	—	[2.2]	—	—	—	ナデ	灰白色 2.5Y8/2	緻密	長石	キラコ	?	表土	
405	軒丸瓦	三巴文？連珠	(15.0)	(10.0)	1.3	—	—	—	[1.8]	—	—	—	ナデ	灰白色 2.5Y8/1	緻密	長石	キラコ	?	表土	
406	軒丸瓦	三巴文、連珠	(16.0)	(11.0)	1.2	—	—	—	[2.5]	—	—	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母		?	表土	
407	軒丸瓦	連珠	(16.0)	12.0)	1.3	—	—	—	[1.2]	—	—	—	ナデ	灰黄色 2.5Y7/2	緻密	長石・雲母		?	表土	
408	軒丸瓦	三巴文、連珠	13.6	10.3	1.3	—	—	—	[7.3]	12.7	1.5	5.6	ナデ	灰黄色 2.5Y7/2	細	長石・雲母		?	北側溝	
409	軒丸瓦	三巴文、連珠	(13.0)	(10.0)	0.9	—	—	—	—	—	—	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	雲母		?	表土	
410	軒丸瓦	三巴文、連珠	11.6	8.2	0.9	—	—	—	[4.5]	10.2	1.4	4.2	ナデ	灰白色 5Y7/1	緻密	長石		?	表土	
411	軒丸瓦	連珠	(13.0)	(7.8)	1.4	—	—	—	—	—	—	—	ナデ	灰白色 5Y7/1	緻密	長石	キラコ	?	表土	
412	軒棧瓦	三巴文、連珠	(9.5)	(7.3)	0.9	均整唐草文	[7.0]	5.5	[18.0]	[15.5]	2.1	—	ナデ	灰白色 2.5Y8/1	緻密	長石		?	表土	
413	軒棧瓦	—	—	—	—	均整唐草文	[15.8]	4.2	—	[15.0]	1.7	—	ナデ	灰白色 N 8/	緻密	長石	キラコ	?	表土	
414	軒棧瓦	—	—	—	—	均整唐草文	[7.0]	4.8	—	[9.0]	2.2	—	ナデ	灰白色 2.5Y8/1	緻密	長石		?	表土	
415	軒棧瓦	三巴文、連珠	9.2	5.9	0.8	均整唐草文	[4.2]	4.6	[11.6]	[13.0]	1.8	—	ナデ	灰白色 2.5Y7/1	緻密	長石		?	表土	
416	軒棧瓦	素文	9.0	—	—	素文	[11.6]	4.2	[10.0]	[18.5]	2.0	—	ナデ	灰白色 N 8/	緻密	雲母	キラコ	B ?	表土	
417	軒棧瓦	素文	8.6	—	—	素文	[4.0]	—	[7.0]	[12.0]	—	—	ナデ	淡黄色 2.5Y8/3	細	雲母		?	壁崩落	「大伏瓦組合」と刻印される。大伏は現在の板野町か

* [] は残存部のサイズを示す。計測部位は原・小林編 (2012) に従う。() 内の数値は、残存部から復元した数値を示す。

** 森田 (1984) に従う。

報告番号	遺物名	文様	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	色調 (断面)	胎土	含有鉱物	遺構・層位	備考
418	敷瓦	—	[14.5]	14.2	2.2	灰白色 7.5Y7/1	緻密	雲母	表土	釘穴1か所、1角を落とす
419	軒丸瓦／軒棧瓦の再加工作品か	三巴文	7.8	5.5	1.4	灰白色 5Y7/1	緻密	長石・雲母	表土	
420	瓦の再加工作品	—	5.0	4.9	1.9	灰白色 5Y7/1	緻密	長石	表土	

報告番号	遺物名	最大長 (cm) *	最大幅 (cm) *	最大厚 (cm) *	重量 (g)	石材	遺構・層位	備考
421	硯	[15.0]	6.1	2.0	289.3	?	北側溝	
422	硯	[5.3]	[3.3]	[0.9]	15.6	?	表土	
423	硯	[3.3]	[6.6]	[0.4]	9.4	?	表土	
424	石筆	[3.0]	0.8	0.7	2.3	滑石?	表土	明治から昭和初期に石板と共に使用された文具
425	石筆	[3.0]	0.7	0.6	2.2	滑石?	表土	明治から昭和初期に石板と共に使用された文具

* [] は残存部のサイズを示す。